

初等中等教育における観光教育の推進について

国土交通省 観光庁
参事官(観光人材政策)付
令和2年10月2日(金)

観光教育のこれまでの取り組みと推進の必要性

観光教育の背景と推進の必要性

観光立国を実現するためには、観光が「**地方創生への切り札、成長戦略の柱**」として、その裾野の広さと経済波及効果の大きさを活かし、**日本の津々浦々で活力にあふれた地域社会を築いていく**ことが必要。このためには、**成長の早期の段階**から、地域固有の文化、歴史、観光による交流の意義や経済的な効果等に関する教育を推進することにより、**日本及び地域の愛着と誇りの醸成を図るとともに、観光の意義に対する理解を深める**ことが重要。

これまでも、**小学校・中学校・高校（普通科・専門学科）の各段階**で、**観光教育に関する取組**が行われているが、今後は、こうした取組みの**全国への普及・展開**を見据え、**観光教育の意義をあらためて確認**するとともに、**目的・方向性を共有し、観光教育を普及するためのプログラムの開発**などに取り組むことが必要。

観光教育に関するこれまでの取組み

観光庁 実施施策

学校現場、外部団体 活動内容

	授業 (社会科等) (私立学校:選択授業等)		授業 (総合的な学習・探究の時間)		課外活動 (部活動等)	その他 (地域主導)
小学校	社会科目の 指導案を作成 (観光庁) 2019年度	モデル授業 実施(日本観 光振興協会)	観光教育のモデル 授業案を作成 (観光庁 2018年 度) 「導入編」「展開 編」「応用編」の 3つのモデル授 業案を掲示。	観光教育 副読本を作成 (日本観光 振興協会) ※北海道・京都・沖 縄の自治体は独自 の副読本を作成	学校単位で様々な取組みが行われている。 (例1) 沖縄の伝統芸能を体験し 英語でプレゼンテーション (沖縄光洋小学校) (例2) 鎌倉を訪れる訪日外国人に ガイドを実施 (鎌倉学園中学校)	子ども観光大使 自分の地域の良さを体験、 発信し、よりよい地域づくりを する子どもたちを全国で育て ていく。 (TOSS)
中学校						
高校 (普通科)	私立高校(文科省SGH) 選択授業で、観光教育を実施 (立教、早稲田)		観光甲子園 次代を担う高校生をグローバル人材として育成。 (NEXT TOURISM)			
高校 (専門学科)	商業高校で 「観光ビジネス」科目の創設 (2022年～)		全国高等学校観光教育研究大会・観高サミット 観光に関する学科・コースを設置している全国の高等学校が参加。 (全国高等学校観光教育研究協議会)			

産学官連携による観光教育の推進(「協議会・分科会の設置」)

観光教育の推進に向けた課題

✓ 観光教育の「意義」の共通認識の形成

「観光」の裾野の広さ故に漠然とした観光教育の意義について、関係者間で共通認識を図り、今後の取組み等の土台とする。

✓ 各教育段階における観光教育の「目的」と「方向性」の相互共有・理解

各教育段階において、観光教育に取り組む目的・方向性の相互理解を深めることで、より有機的な連携を図る。

✓ 観光教育の「普及」に向けた効果的な取組み方策の開発

地域・学校間で格差なく広く行われるよう、また、商業高校での「観光ビジネス」科目の導入に向け、取組みを加速化し、観光教育の普及を促進する。

産官学の観光教育関係者による協議会・分科会を開催し、観光教育の意義、目的・方向性、普及に向けた方策等を議論・検討。

▶▶▶ 発達段階に応じた観光教育プログラムやコンテンツの開発、教員勉強会等を実施。

【スケジュール】

2020年度

- ・教員・観光産業界へのヒアリング（9月～）
- ・協議会・分科会（10月～3月）
 - ※）協議会（第1回：10月2日、第2回3月頃）
 - ※）分科会は[小中]・[高(普通科)]・[高(専門学科)]に分けて開催
- ・ワークショップ（3月頃）
 - ※）オンラインで開催。

2021年度

- ・観光教育プログラム等開発、実証事業の展開
 - ※）教育プログラム案
教材（ワークブック・動画教材等）
+
指導支援ツール（指導ガイド等）
- ・教員勉強会の開催

・協議会

上記の施策をサポートし、観光教育の理解を深める。

2022年度～

- ・観光教育プログラムを学校現場に導入
 - ※）2022年度から商業高校で「観光ビジネス」科目の導入開始
- ・教員勉強会・ワークショップ
 - ※）観光教育の認知度を高める。

初等中等教育における観光教育の推進に関する協議会(令和2年度)

産学官の観光教育関係者による協議会・分科会を開催し、観光教育の意義、目的・方向性、普及に向けた方策等を議論・検討する。

協議会開催の目的

- 観光教育の「意義」の共通認識の形成
- 各教育段階における観光教育の「目的」と「方向性」の相互共有・理解
- 観光教育の「普及」に向けた効果的な取り組み方策の開発

第1回協議会 (10月2日省庁会議室)

【検討事項】

- ・ 観光庁より協議会趣旨説明
- ・ 各委員の取り組み内容の共有 (委員14名、1人5分程度)

各委員の取り組みや課題認識を共有し、観光教育の意義や目的・方向性について議論し、相互理解を深める。

分科会 (11月～2月オンライン)

【検討事項】

- 座長ミーティングで決定した議題に関する、議論・検討。(各分科会3回程度実施)

[小中][高(普通科)]
[高(専門学科)]に分けて開催。
座長を中心に議論を進め、分科会毎にとりまとめを行う。

第2回協議会 (3月省庁会議室)

【検討事項】

- 分科会でのとりまとめ等をふまえた、協議会としての総括、観光庁への提言を作成。

各分科会のとりまとめを共有し、来年度以降の取り組みを議論する。協議会としてとりまとめ、観光庁へ提言。(報告書)

ワークショップ

学校教員、自治体等を対象に協議会の成果を公表。(オンラインを予定)

座長ミーティング① (9/14)

第一回協議会前に大まかな協議会の方向性について議論・検討する。

座長ミーティング② (10月)

第一回協議会后、各分科会の議論テーマについて検討する。

座長ミーティング③ (2月)

各分科会のとりまとめを持ち寄り、来年度以降の取組について検討する。

学校教員ヒアリング (9月)

対象：分科会参加者・TOSS等

教育界への情報共有 (随時)

対象：文科省、全国商業高等学校校長協会、教育委員会(北海道、沖縄)等

産業界ヒアリング (10月～)

対象：観光産業(宿泊4団体、JATA、ANTA等)及び関連する産業(金融、不動産、農林水産等)

委員からの主なご意見

1. 観光教育の意義について ～子どもだけではなく、大人も含めての観光教育～

○ 人材像

- ・観光を支える人材だけではなく、**観光に関わることで人がどう育つのか**を考えるべき。
- ・**観光を通じて人々の交流を深め、地域を活性化していくことに理解を示す市民社会の形成**が必要。

○ 「基幹産業」としての観光

- ・**観光に様々な産業が関わっていくことで観光が基幹産業になる。地方の将来の指針**に大きく関わる。
- ・**日々の生活との関連性**や**貿易立国**としての視点、**産業構造**について学んでもらいたい。
- ・「観光産業としての観光教育」→「**社会における観光教育**」に、意識の転換が必要。

○ 産業界の理解促進

- ・**観光産業に必要な人材を認識できていない側面**がある。
- ・現在必要な人材だけではなく、**産業を変えていく人材を育成**する必要性。
- ・狭義の観光産業だけではなく、**金融、不動産、農林水産など様々な産業**をヒアリング等で巻き込んでいくべき。

2. 学校導入に向けての具体的な施策について

○ 「何を学んでもらうのか」「どのように学んでもらうのか」

WHAT：経済面、インバウンド、SDGs、人生を楽しむための“旅”、等

HOW：アクティブラーニング、地域連携、高大連携、等

○ 新学習指導要領にどのように取り入れるのか

- ・「**総合的な学習の時間**」、**「総合的な探求の時間**」にどのように取り入れていくのか。
- ・「**観光ビジネス**」科目を大いに活用し、**観光教育の認知度を上げる必要性**がある。

○ 学校や地域との連携体制

- ・これまでの教育は、**成長過程で学びが分断**されている。たとえば、高校で学ぶ国語や社会が、大学での学びにどのようにつながるのかが見えにくい。**縦の連携（小中高）と横の連携（地域）が重要**。

【参考1】 令和3年度 予算概算要求（観光教育関係）

○ 観光産業における人材確保・育成事業

（参事官(観光人材政策担当)）

要求額 120百万円

観光先進国の実現を目指し、ウィズコロナ時代においても観光産業を我が国の成長に資する基幹産業とするためには、各地域で新しい生活様式やビジネスモデルに対応する観光人材を育成・確保する必要がある。

このため、地域の観光産業を担う中核人材や即戦力となる現場の実務人材の育成等を図るとともに、次代の観光産業を担う世代に向けた観光教育の推進を図る。

地域の観光産業を担う人材の育成・確保

【中核人材の育成・強化】

- 宿泊業や旅行業等の観光産業従事者を対象とした、大学における社会人向け教育プログラムの開発・実施の支援
- 連携大学間における教材や成果の共有、講師の相互派遣等を通じた、産学連携による持続可能な学び直しの仕組みの構築



<中核人材事業 講義の様子>

【即戦力となる現場の実務人材の定着・確保】

（1）国内人材の定着・確保

- 女性・シニア・就職氷河期世代等の人材の定着・確保を地域一体で図るためのモデル事業の実施
- 観光産業における実務人材の定着・確保に係る課題（キャリアパス、人材活用のあり方等）の解決に向けた協議会の実施

（2）外国人材の受入れ環境整備

- 宿泊業における外国人材受入れに関する優良事例や情報等をセミナーやHPで発信
- 特定技能外国人の在留期間（5年間）のキャリアパスを描くモデル事業の実施
- 特定技能外国人の雇用状況等の把握や受入施設に対する情報発信に資するシステムの整備

<参考：宿泊分野における特定技能外国人の業務内容>

（フロント）

（企画・広報）

（接客）

（レストランサービス）



観光教育の推進

- 学識経験者や学校教員、産業界など産官学の関係者による観光教育協議会を開催し、初等中等教育段階における観光教育の意義、目的・方向性、普及に向けた具体的施策の議論・検討
- 発達段階に応じた観光教育プログラムの開発・実証事業の実施
- 学校教員向け指導勉強会の開催


令和3年度 観光庁関係
予算概算要求概要(抜粋)
(令和2年9月 観光庁)

【参考2】観光庁における観光教育の取り組み

観光教育の普及

- **先進事例の調査・整理**（2017年度）
国内10事例、海外3事例を調査し、その効果や課題を抽出。
- **モデル授業案の作成・効果検証**（2017～2018年度）
先進事例を踏まえ、総合的な学習の時間での実施を想定したモデル授業案(ガイドライン)を作成し、2校で効果検証。
- **教員向け啓発動画の制作**（2018年度）
観光教育を実践する上で有効な知見や指導方法をわかりやすくまとめた教員向けの啓発動画「観光教育ノススメ」を制作。
観光庁HPから視聴可能。
- **小中学校の社会科で活用する指導案を作成**（2019年度）
小学3年生から中学3年生までの社会科の授業において、「観光」の視点を取り入れた指導案を作成。「観光」を通じて、社会科の深い学びを目指す。

若者の海外旅行促進

- **「若旅★授業」**(2012年度～)
2013年2月より、「旅に出たい、出よう」という気持ちへの働き掛けを行うべく、旅に精通した方を講師として派遣し、学生に旅の意義・素晴らしさを伝える。
2020年3月までに、
中学校・高校・大学において、
累計73回の授業を実施。
- 
- **「若者のアウトバウンド推進実行会議」を開催**(2018年度～)
2019年1月より、若者のアウトバウンドを促進するため、「若者のアウトバウンド推進実行会議」を立ち上げ、海外渡航経験がない20歳の若者に海外体験を無料で提供する「ハタチの一步～20歳 初めての海外体験プロジェクト～」を実施。

観光教育シンポジウムの開催

2019年3月に、観光教育シンポジウムを開催し、モデル授業の結果報告、有識者によるパネルディスカッションを実施。
全国から、教育関係者や観光業界関係者など、50名の方に参加いただいた。

観光教育 第 1 回協議会資料

村上和夫

1. 観光教育の経緯

日本における近代観光の成立は、明治時代から始まる近代産業の一環として整備されたことによる。しかし、それまでも日本には旅行往来があり物見遊山も盛んで、旅行案内なども整備されていた。

従って、旅行者の接遇や行楽地での行楽者相手の経営の人材育成も存在していた。日本における近代観光は、外客の誘致と外貨獲得政策が採られるようになり、推進されるようになった。それにより、観光教育も開始された。最初のもは自然公園（国立公園）計画、観光ルートの設定と旅行案内、洋式宿泊施設や鉄道や船舶等の交通機関における接遇要員の育成であった。東京帝国大学における国立公園計画の研究と指導のような教育から、食堂における司厨士の育成など多岐に及び、方法や機関も学校教育の一環として行われるものから、伝統的な職場教育まで広がっていた。また、明治以降、学校における旅行教育も行われ、修学旅行などとして根づいている。さらに、今日では初等教育・中等教育において、商品化された留学や催事・競技への参加も広く行われている。

現在の学校における観光教育は、初等教育における総合的な内容から始まり、中等教育の後期に至って、職業として観光関連の仕事を目指す者の教育と高等教育の基礎として観光現象や産業の教育受ける機会（高大接続）を行う学校まで見られる。高等教育に至り、専門職系の教育と観光教育（Tourism study）に分化している。

その目的も、「外貨獲得の為の観光事業」→「国民観光の成長と観光事業の育成」→「Society5.0 などこれからの社会を生きるライフバランスを作る基盤知識・経験への準備」と変化してきた。欧州における専門職教育の革新や評価制度との接合が今後の課題と言える。

2. 観光教育等の経験、将来への課題

※ 私の観光教育経験)

- ・ 高等教育における観光教育（昭和 55 年～）、観光学部の設置、大学院ビジネスデザイン研究科ホスピタリティデザイン専攻（MBA）の設置と教育、東京農業大学生物産業学部、東京大学工学部における兼任講師（連字符教育としての観光教育の実施）、文部科学省：大学院研究高度化推進事業の代表者、大学院 GP の代表者、学会活動（日本観光学会→日本観光研究学会・日本観光ホスピタリティ教育学会）
- ・ 中等教育では、旧立教高校、現立教新座中学校・高等学校における社会科選択科目を担当し、同校における、スーパーグローバルハイスクールアソシエイト認定に伴う観光教育科目を企画し担当した（担当科目の構成と成果、配布資料）
- ・ 産学官連携の新しい局面を創造する事が、今後の活動と考えている。

※ 観光教育の課題)

- ・ 上記の経験から考える日本における中等教育における観光教育の課題は以下のとおりである。

- ① 専門高校において、いくつかの職業能力評価基準の調整のもとに専門職としての技術と知識のキャリアレーンを整備する。また、その階梯をのぼる事で、EQF (European Qualifications Framework) のどの課程にあるかを自己確認し、将来目標を描く事ができるような仕組みを構築する必要がある。
- ② 日本社会における新しいライフバランス形成の推進を見定め、人々の生活を支える職業意識の基礎と方向性を培う態度を養う。特に、普通科高校
- ③ 新しい、ライフバランスを得るために、誰もが観光教育を受ける時代 (Society5.0) に入り、ライフリテラシーとしての観光教育を創り上げる必要がある。
- ④ 日本における観光の発展は、訪日観光者の目覚ましい増加をもたらしているが、その経緯を理解でき、世界に発信できる力の育成 (コトを経験する、オンラインなどによる人々の「楽しさ」共有機会の増加と観光基盤の充実)
- ⑤ 中等教育を担う教員や生徒による世界の観光教育支援 (UNWTO における観光教育) との協調創り

以上

沖縄観光 もっと楽しく

中城南小地元の魅力提案



【中城】村南上原の中城南小学校4年1組の児童たちが2日、県内の観光資源について学んだ。子どもたちは県内の魅力ある施設や娯楽などを考え、観光客に沖縄を楽しんでもらう方法を考えた。

寺本・玉川大教授と学ぶ

授業は玉川大学教育学部と観光学部共同研究「小学校からの観光基礎教育のモデル授業構築に関する研究」沖縄県を事例に「一環。観光業の収益が有望な県で、全県民がもてなす心や沖縄の魅力を考える人材になるために基礎教育で観光を学ぶことを目的としている。玉川大教育学部の寺本潔教授と同小学校教諭が知人であることから、授業開催が実現した。

2校時続けた授業では、寺本教授が沖縄は国内有数の観光地と紹介。児童たちは人気の理由を考え、沖縄独特の自然や歴史、観光施設があることを挙げた。さらに観光客に沖縄の新たな魅力を提案するためグループで話し合い、「中城城跡の祭りに参加して特産品を食べる」など地域に根差した楽しみ方を発表した。

授業を終えた寺本教授は「初めての経験で手探りだった。沖縄は多くの仕事観光と関わるので、子どもから県外の人に伝えたい」と笑顔で話した。

寺本教授は「自分なりに沖縄の魅力について考える機会になった。観光について学ぶのは初めてなので、とても勉強になった」と満足した様子。山川泰成君(9)は「沖縄にしかない動物がたくさんいることが魅力。勉強して、沖縄の魅力を県外の人に伝えたい」と笑顔で話した。

寺本潔教授の授業を受ける、中城南小学校4年1組の児童。中城南上原・同小学校

[原著論文]

観光の教育力と教材開発による人材育成 ——那覇国際高校（SGH）への出前授業を通して——

寺本 潔

要 約

観光という事象を総合的学習や社会科科目に学習課題として導入することの意義について実証的に出前授業を通して明らかにすることが、本稿の目的である。観光は、沖縄県においてとりわけ重要な産業になっており、那覇市に位置する高校においては普通科の内容としても扱うに相応しい内容と思われる。折しも、スーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）の指定を受けている高校において提案性に富む実験的な授業が実施できた。今回、マーケティング基礎の内容を含む教材や地域ストーリーづくりの演習問題の開発により、観光教育は今後の沖縄県における人材育成としても大切なテーマであることが確認できた。

キーワード：インバウンド、観光資源、マーケティング基礎、人材育成、SGH

I はじめに

日本を訪れる訪日外国人（インバウンド）が急増している。平成28年12月末には2400万人を超え、政府は2020年の東京オリンピック開催時までには倍の4000万人の訪日客を目標値に掲げている。観光系の大学・学部・学科の新設も相次ぎ、高等学校に至っては主に商業系を軸に、北は青森県から南は沖縄県に至るまで合計11の観光関連学科・コースの新設に至っている。その教育課程を覗いて見れば、社会科教育と深く関わる観光基礎や観光産業理解、観光地理、地元学、旅行業務、観光コミュニケーションなどの科目が設けられ、海外修学旅行や地域理解の学習などの特色ある取り組みも行われるようになってきている。観光教育というジャンルを最初に提言した徳久・安村（2001）の著書においては、大学や専門学校、ホテル教育、生涯学習などの実務教育の場で教えられている観光教育の現状と課題が紹介されているものの、普通科の公教育においては触れられていない。高等学校における動向に関しても実業系高校の例が掲載されているに過ぎない。

しかし、実業系の観光教育科目が整備されつつあるとは言え、卒業後において観光業界への就職の保障が不安定であり、生徒が希望する職種（例えば、ホテルフロント係など）からの求

人が少なく、旅行業者は大卒を採用しているなどの課題も明らかとなっている。観光に関する学習範囲は広く、実業系の高校生にどの範囲まで学習させてよいかの判断に苦慮されているという（平成28年7月に仙台市で開催された全国高等学校観光教育研究大会における文部科学省初等中等教育局教科調査官西村修一氏の講演より）。今後、観光教育の実効性を高めるには、実業系高校だけでなく、普通科の高等学校においても何らかの取り組みが必要ではないだろうか。

ところで、高等学校の教育課程においては地理歴史科や公民科の改編が発表され、2単位の地理総合（必修）と地理探究（選択）、歴史総合（必修）、公共（必修）などの枠が決定されている。観光内容と最も密接にかかわる地理総合や地理探究の科目において何らかの観光現象が学習内容として扱われることは十分に考えられ、高等学校普通科において観光教育の足場が構築される可能性がある。

しかし、その具体的な指導目標や学習内容さらに指導法は全くと言ってよいほど開発されておらず、社会科教育学（とりわけ地理教育学）の学会レベルにおいても早急な検討が必要となっている。幸い、小学校段階においては筆者も編集委員の一人として作製に参画した『めんそーれー観光学習教材（第10版）』（沖縄観光コンベンションビューロー発行）があり、ツーリズムアワード2016において優秀賞を獲得し、一定の評価を観光業界から受けている。小学校はその意味で観光教育がいくぶん、導入しやすい土壌が耕されつつある。告示された新学習指導要領において社会科に観光内容が導入された。加えて、観光立県である沖縄県においてはインバウンドの増加に伴い、観光教育が持つ訴求力が一層強まるに違いない。

その反面、中学高校（普通科）においては現時点では観光の学びは皆無に近い。観光による社会の変化に関心を持ち、観光教育による人材育成を考える上で、高校（普通科）における観光授業を試行する必要がある。折しも、沖縄の県立那覇国際高校においては、文部科学省のSGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）の指定を受けておられ、観光を研究の柱の一つにされている。そのため、筆者の申し出と合致し、試行的な出前授業が実施できる運びとなった。当校のSGH構想調書に書いてある研究開発の概要には、次のように記されている。「島嶼圏における持続可能で自立した成長モデルの構築を目指し、沖縄の観光・健康・環境をサブテーマに課題研究を行う。海外派遣をとおして、モデル構築における諸課題を他国の生徒と共有、発表、討論を行い、アジア太平洋地域における自立したビジネスモデル構築に寄与する提案が可能なグローバルリーダーを育成する。」まさに、今日的な教育課題にダイレクトに向かう構想である。沖縄県という観光業がリーディング産業である土地ではあるものの、多くの都道府県のSGHの進展に寄与できる提案が可能である。以下、筆者が試みた出前授業の報告を軸に、高校観光教育のあり方を具体的な授業レベルにまで下して検討してみたい。

II 観光教育の体系に関するフレームワーク

1 小中高の教育目標

筆者が考える小中高の観光教育目標は図1のような枠組みである。図1は、昨年の9月に長野県小諸市の教育講演会で使用したものであるが、小学校段階では、「小諸市や信州、自国への誇りと外国への視野（資源への気付き・多文化への寛容心）」が大事であると位置付けた。観光は、社会科に似て郷土や地方、自国、世界に対する理解がその基礎教養として身に付かなくてはならず、地域資源に対する気付きが磨かれなくてはならない。

とりわけ訪日外国人や他県からの観光客が自分の住む市町村を訪問した場合、他にない固有の資源が紹介できるのか、観光客が欲しているニーズやウォンツは何か、観光ルートの設定や交通網の整備は適切かなど地域住民として関心を強める学習が欠かせない。

中学校段階においては、「観光現象を題材にした問題解決学習」をアクティブ・ラーニングの教育方法を駆使し、楽しくてためになる学習指導を開発したいものである。例えば、自県にどうして多くの観光客がやってくるのか、外国からの観光客は自県の何を目的にやってくるのか、アジア圏の経済状況を鑑みてインバウンドが日本の経済や地元の雇用にもたらす貢献や観光による文化交流をもっと扱う必要がある。「観光は平和へのパスポート」という名言があるが、まさに観光教育は他国との相互理解や異文化への寛容心を養う教育効果に富んでいる。「観光のまなざし」という言葉が、観光学の名著であるアーリー著（1998）『観光のまなざし』で用いられているが、まさに中学校段階で育成したい見方・考え方である。

高等学校段階においては、社会人の手前であるため「確かな観光者」への資質を育成したい。ここで言う「確かな観光者」とは、高校生から大人になる過程で観光を肯定的に捉え、自身も積極的に旅行者（訪日外国人）と関わり、休暇を楽しみ国内外の旅行にも出かけていこうとする外向的な資質を持った観光知識溢れる社会人を指す。高卒後、就職したり、専門学校や大学に進学したりするにせよ、観光産業への関心や職業意識を高める必要性は高い。なぜなら、観光

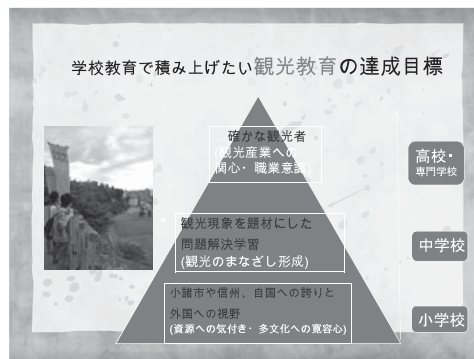


図1 長野県小諸市の教育講演会で使用した観光教育の体系案

は産業への波及が広汎であり、多くの職業で何らかの関連が生じてくるジャンルだからである。観光資源である自然、農産品、歴史や文化、イベントだけでなく、観光を支える社会資本整備（交通、各種インフラ、文化施設）、サービス（ガソリンスタンド、百貨店、ホテル）産業に至るまで高校生が関心を抱く職業に直接間接的に関わってくる。その意味で、地理歴史や公民系、外国語系科目だけでなく、建設業やサービス産業、公務員系などの職業を目指すキャリア教育としても観光現象を意識する必要があるだろう。

2 観光教養と観光実務

観光系の高等学校や専門学校では、地元学や観光英語などの教養系科目だけでなく、簿記会計など商業系の科目に加え、空港職員やホテルスタッフ、ツアー会社社員などの観光関連職種に応じた実務が学べる。沖縄県最大の観光専門学校インターナショナルリゾートカレッジ（NBC学園）の『スクールガイド2017』を参照すれば、エアポート実務や通関士基礎、パーティコーディネイト、旅行マーケティングなどの科目名が見出せる。これらは、直接観光関連業に就職するための準備学習とも言えるが、同時に実業系高等学校だけでなく、普通科の観光教育においても観光の世界に興味関心を抱かせるキャリア教育の窓口になる。キャビンアテンダントやグランドスタッフなどの空港で働く仕事は、若者の憧れの職業でありブライダル系の業務も高水準のコミュニケーションスキルやマナーの習得が要求される。ツアープランナーは旅行先の豊富な地理歴史知識（観光教養）が必要とされる。普通科の高校生にとっても観光の学びは、諸教科で学ぶ知識や技能が実社会でどのように生きて働くのかを確かめる上で学習意欲を支える効果がある（写真1～3）。

例えば、暗記科目のレッテルが貼られている世界史の学習が生徒にとってどのような意味があるのかを考えてみよう。生徒自身が将来ヨーロッパに旅行出かける場合に役立つ知識であっ



写真1 機内を模したモックアップ室



写真2 ブライダル実習室



写真3 パンを配膳するレストラン実習（いずれも、那覇市にある
NBC学園インターナショナルリゾートカレッジにて筆者撮影）

たり、外資系の仕事で欧州のビジネスマンと会話したりする際の基礎教養として生きるだけでなく、ヨーロッパ諸国による植民地であった東南アジア（例えばシンガポールやベトナム）から来日した観光客の文化的背景として英国や仏国の存在を知っておくことは大事である。

とりわけ、観光教育が主要な教科学習と最も異なる点は、他者（観光客）の目線に立ってサービスを提供し、その土地の資源を観光に活かす力である。広い意味で「おもてなし教育」と言い換えても良い。先に述べたように実務系の学びは、専門的知識につながる職業情報であるが、そのさわりの部分は、普通科の高校生にも大に関心を抱かせる内容である。総合的な学習の時間や特別活動の時間などを使い、観光業界の方を学校に呼んで体験実習を行ったり、専門学校が開催するオープンカレッジに参加し、モックアップ実習室を見学したりする機会を設けていけば、観光産業への理解を深めるだけでなく、他者目線に立つことの大切さを学べるため、効果が上がるだろう。

3 自文化に対する自覚の芽生え

観光業界が発展する過程において土地の自然や文化が改変されたり、損なわれたりするケースが国内外で発生している。いわゆる観光開発と環境保全の調和に関するテーマである。沖縄県の場合でも戦後、「本土化」と呼ばれる経済的・文化的な同質化の波は顕著であり、海洋博(1975年7月～76年1月)以降多くの自然ビーチが消失し食の洋風化や伝統文化の継承が困難な状況が続いている。象徴的な建物では、商業施設イオン・ライカム(本島中部)の来店によりいわば東京近郊の街と同じ風景が現出し、多様な都市的サービスが提供されている。言葉も標準語化が進展し、島言葉(ウチナーグチ)が一層希薄になりつつある。これらは一見、抗し難い文化変容ではあるものの、観光にとってはマイナスの作用を生じさせる。

なぜなら、沖縄が世界にない独特な自然と文化、社会を保持しているからこそ魅力的なので

あり、沖縄の固有性や土着の文化そのものに価値を見出したい観光客のニーズに応えられなくなってしまえば、元も子もない事態に陥るからである。沖縄の文化と地域社会を尊重し保護することと観光業界の発展が乖離することを避ける必要がある。そのため、観光業界と沖縄の伝統社会との間の協力関係を強化すること、沖縄の文化的知識や資源を持続させるための方法を観光業界も一緒になって考える機会を設けることが何よりも大事になってくる。そうした機会を観光教育の場がマーケティング・プログラムを創造することで実現できるかもしれない。島言葉と沖縄の歴史、文化及び価値観（例えば、めんそーれー）を保存し、県産品を空港や港、土産物店等で高校生が宣伝・販売の実習を体験することで沖縄の農業や伝統工芸をサポートすることにつながることだろう。

ところで、本土から沖縄に働きに来た従業員の中には、沖縄の歴史・文化に関する知識に欠ける者も多く沖縄本島と八重山や大東島の文化がいっしょくたに扱われるケースもあることから、彼らの沖縄文化に対する誤解を正す上でも、まずは地元の高中生に対する沖縄文化を学ぶ教育は必須であろう。今回、出前授業後の感想文を末尾に掲載したが、その中に「沖縄の魅力を語れない自分が少し悲しい」と表現した高校生がみられた。観光教育を通して自文化を知らない自分に気付くという効果が示された。

以上の観点を踏まえ、表1に筆者なりに沖縄県における今後必要とされる観光教育の目標を設定してみた。学校種別に整理しその目標が達成できるために必要な学習環境整備についても付記してみた。

表1 各学校段階における沖縄県独自の観光教育目標の設定

学校種	「観光知」獲得の目標と内容	学習環境整備
高等学校 (普通科)	<ul style="list-style-type: none"> ・「職業人としての観光者の基礎づくり」⇒地理歴史科を軸に、観光業界への就職先で必須の知識やスキルの習得 ・「確かな観光者としての自分づくり」⇒特に観光系大学・専門学校への進学のための総合学習 	高大連携による観光学部進学準備、ホテル業界や旅行会社へのインターンシップ体験、観光地の地理・歴史情報の整備
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・「観光のまなざしの獲得」⇒観光業界への1日訪問体験、業界研究とレポート作成（例：恩納村リゾートホテルの仕事研究、北部観光開発と環境保全の調和レポート、沖縄交通網整備と観光振興まちづくり、MICEやウエディング、スポーツ観光の企画立案） ・社会科観光、観光英会話、中国語の習得 	総合的学習へのメニュー追加とテキスト整備、中学生の訪問受け入れ可能な業界の協体制づくり、社会科内容との関連、移動バス費用の確保
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・「自県や地域の資源再発見と観光の仕事理解」⇒挨拶とおじぎ、伝統工芸品の再評価 ・観光業で働く人をゲストに呼ぶ、観光統計の読取りと沖縄県の国際的な位置付け、空港・港湾、道路、鉄道等の社会資本整備の意義 	社会科内容の観光単元への組み替え、本土との位置関係認識、沖縄の気候風土の特殊性を解説した観光副読本の整備

Ⅲ 那覇国際高校（SGH）における観光の授業

那覇市の新都心と呼ばれるおもろまちに当高校はある。進学校で有名な男女共学の公立高であり、明るい雰囲気を感じられる学び舎である。前述したように当高校がスーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）の指定を文部科学省より受けており、研究主任が筆者が担当している教員免許更新講習（琉球大学）を受講されたことがきっかけとなった。教員免許更新講習では、琉球大学観光産業科学部の大島順子准教授と共に「観光の教育力と教材開発」をテーマに、1日の講習を開講している。ここでは、大島による大学生向けの水俣教育旅行報告のほか、小学校や中学校に勤務する教員に向け、諸教科で観光が題材として扱えることや、筆者が独自に開発した観光客が楽しめる沖縄観光プログラム立案、「やんばる」地域の観光開発と環境保全を考えるワークショップなどが扱われている。平成28年度は28名の受講生があり、その中に那覇国際高校の先生が参加されていた。

那覇市の観光基本計画を読んでもと今後、市は世界水準の観光リゾートを目ざしており、アジアにおけるゲートウェイの性格が観光政策の柱に据えられている。総合政策面では、観光は極めて重要視されているものの、その反面、教育界での具体的な教材開発や指導法の工夫はほとんど行われていない。本稿がその溝を埋める一助として役立つならば嬉しい限りである。

1 開発した高校普通科向け学習ワークと授業の実際

貴重な授業時間を頂いて頂き、筆者による出前授業が2授業時間実現できた。その主な内容を報告したい。

(1) 客層（セグメント）に応じた観光を考える

アイズブレイクとして筆者が考案した「観光地+動詞=楽しみ方」という観光行動を考える基本の課題学習を行った。これは既に沖縄県の小学生向けにも開発した指導法であり、昭文社発行の県別地図沖縄県を6人グループに配布し、沖縄県の地勢図を前に具体的な観光地をイメージさせつつ、20数枚の観光行動を示すイラストカードをヒントに動詞と合わせて観光客の楽しみ方をフレーズ（文）で案出させるものである。生徒が案出したフレーズは、「石垣島に行って青の洞窟を体験し、夜は星をみてもらう。また、石垣牛を食べてもらう。」「首里で沖縄そばを食べた後に写真を撮りながらレンタカーに乗って北谷に行き、マンゴーかき氷を食べてホテルに戻り俳句を読む。」などと言ったユニークな内容であった（写真4、5参照）。

今回、高校生向けに新たに思考の水準を上げ新しく三種のワークを開発した。一つは、観光客の属性（セグメント）に応じた観光内容のニーズを考えるもので、6つのセグメント（熟年層、ハネムーン、学生、若年層、海外ウェディング、ファミリー）のイラストカードを二軸シート（滞在型と目的型の軸と価格が安いと価格が高いの軸）のどこに位置づくるかを考えてもらう



写真4 地図上で沖縄県の観光プログラムを考え合う高校生

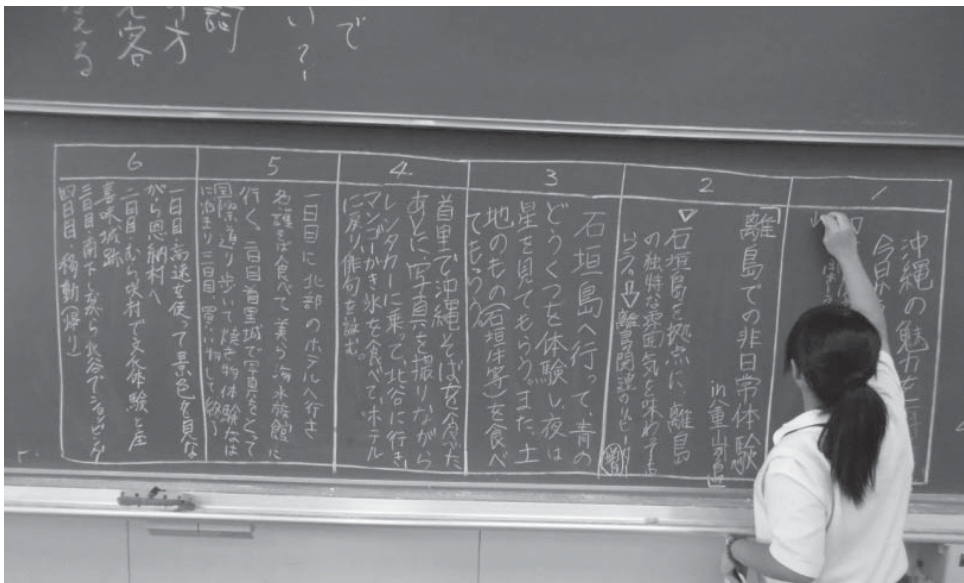


写真5 班で考えた一押し観光プログラム案

ワークである（図2）。これは観光マーケティングの基礎学習に相当する内容で、観光客目線で観光商品を考え出さなければならないという観光教育のいわば根本に当たる思考を促すワークとなっている。参考にした本は、森下晶美編著『新版観光マーケティング入門』同友館である。この書の中にポジショニング・マップと呼ばれるハワイのパッケージツアーを例に観光客の属性（セグメント）の特性を考えさせる内容が記述されており、それを元に演習問題として客層を示すセグメントを筆者の方でイラスト化し分かりやすく改良した。

ポイントは、①セグメント（観光客）には、どんな属性があるのか（お金と時間のゆとり）
②どんなニーズがあるのか（観光の目的は？）である。

設定した客層は以下の6種である。

★6つのセグメントとその特性

学生：なるべく安くて、いろんな体験をしたい。ビジネスマン（社会人若年層）：学生よりは



写真6 筆者考案の8方位体操を学ぶ



写真7 二軸シートに観光客の客層を示す絵カードを配置する様子



写真8 沖縄感動体験プログラムについて解説する様子

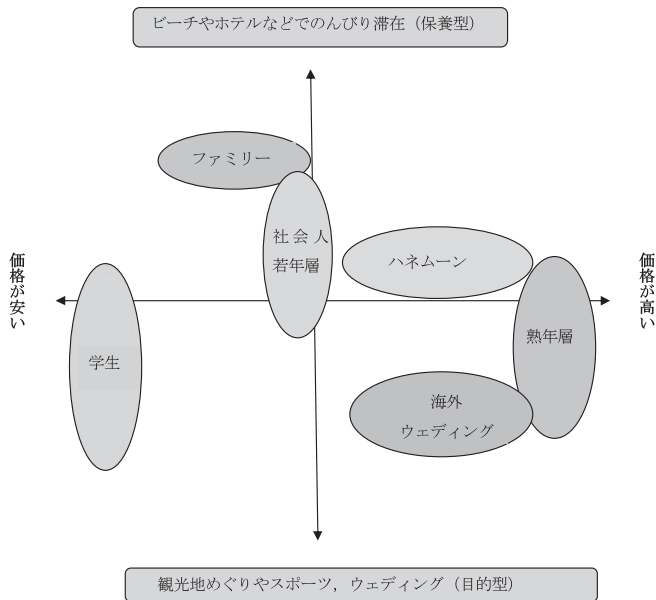


図2 沖縄を訪れた観光客のセグメントがどの位置にあるかを考える課題学習

注) 上図は、森下品美編著 (2016)『新版 観光マーケティング入門』同友館、232ページを参考にした。

お金に余裕はあるが、ほどほどにし仕事で疲れているので少しはのんびりしたい。ハネムーン（新婚さん）：東京から来た新婚さん。一生に一度の思い出だから、少しはふんばつして二人でゆっくりしたい。海外ウェディング：外国人（例えば韓国）なので沖縄という海外で挙式して二人の思い出づくりや両親への感謝を伝えたい。ファミリー：学生よりは金銭的に多少余裕あり、子ども連れだからビーチでのんびりもしたい。アクティブ・シニア（熟年層）：お金に余裕あり、アクティブに観光地めぐりやゴルフ、沖縄の伝統芸能を楽しみたい。*ワークに必要な時間は、25分。

グループで対話しながら6種の客層カードを配置している様子を写真6～8に示した。実際の作業では、生徒自らがカードを手に取り、「ハネムーン客は一生に一度だから、たくさんのお金を使って豪華な旅行をするのでは?」「学生層はやはりアルバイトでためたお金で旅行するから格安の旅でいろいろと目的があると思う。」「熟年層は、お金は少しはあるけれど、のんびりしたいから滞在型ではないかしら。」などと客層の立場に立った対話が弾んでいた。二軸の思考ツールが生徒たちの主体的な対話を促し、観光客の立場や目線に応じた観光の特性という深い学びに達することができた学習となっていた。

(2) 沖縄観光MICEプランをつくる

二種目の教材は、MICEプランを考える課題である。MICEとは、Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibitionの略。冬でも温かい沖縄はその気候を活かし1年中、会議や催しを開催できるメリットがある。そこで、国際的な会議を受け入れる誘致策を考えさせた。生徒に提示した設定は以下の通りである。

設定：あなたは那覇国際旅行社（仮称）MICE営業担当の1年目。先日、海外のお客さんから突然、MICEを開催する都市を福岡市か那覇市にしようか迷っているとメールが届いた。業績をあげたいので、是非とも那覇市に誘致したいのでMICEプロポーザルを行うことに決心した。クライアントからの条件は以下の通りである。2日目午後は、会議参加者に楽しんでもらう地元ならではのオススメプランをつくらなければならない。

クライアントから提示された条件

- ・2017年5月20日から21日まで（2日間）参加予定100名
- ・会議名「国際スポーツ振興会議2017（仮称）in Japan」
- ・予算500万円（会議参加者は1人3万円参加費として支払い*フライト、宿泊費別）
- ・海外10ヶ国からの参加（中東ドバイからも）
- ・2日目午後は、地元のお勧めプランを堪能したい（何でも可）

高校生にとって、実に具体的な場面の想定であったが、残念ながら話し合う途中で時間切れとなった。解答例として下記のような解答を用意していたが、高校生からのアイデアを引き出

す時間がなかった。参考までに解答例を掲載したい。

解答の1例：コンベンションの会場としては、那覇地区や西海岸の高級なホテルが必須。ムスリムの方の参加も予定されているため、食事にはハラールが施された食材が必須。2日目午後のプログラムとしては、スポーツ関係者なので2020東京五輪でも種目に採用された沖縄空手を体験させたい。プラス首里城や識名園見学もオプションで取り入れたい。＊ワークに必要な時間は、20分。

(3) 観光・地域ストーリーを考える（日本史が好きな生徒に提示）

三種目の課題は、歴史を活かした地域活性化策である。沖縄県の高校生にとって全く知識がない千葉県佐倉市の事例を題材として選んだことで既習知識の有無による差が生じないメリットがあると考えて作問した。筆者から提示した以下の文章を読み取り、市長になった想定で地域活性化策を考えさせることをねらった。

読み取る文章：江戸時代後期の寛政年間、佐倉藩主となった堀田正順（ほったまさなり）は、長崎で蘭学を学んだ人物を藩医として召し抱えた。それをきっかけに、さらに時代を映した文政年間の藩主・堀田正睦（ほったまさよし）は、蘭学（とりわけ医学）を習得させるべく、藩主数名を長崎へ向かわせた。時は鎖国のただなか。西洋文化の窓は遠く長崎にのみ開かれていた時代だ。

後年、新しい時代を見据えた正睦は、江戸の蘭学医・佐藤泰然を招聘（しょうへい）し、蘭医の塾と外科の診療所を兼ね備えた「順天堂」を創設した。数々の熱意ある経緯から、この地はいつしか「西の長崎、東の佐倉」と称されるほど蘭学の盛んな町として名を高めていった。

問い：佐倉藩のある佐倉市は、この歴史的なエピソードを活かして、観光でまちおこしを進めています。あなたが、この市の市長さんだったら、どのような観光の施策と地域ストーリーによる観光まちづくりを行いたいですか？

いろいろと生徒からストーリーを発言させた後に以下の答えを提示し、自分たちで考え合った観光の施策と照合させてみることで現実社会への参画意識も育めようと考えたが、これも今回は時間切れとなり生徒の考えを引き出すまでには至らなかった。参考までに解答例を以下に示したい。

解答例（実際の動き）：「佐倉と蘭学の歴史を広く今の時代に知らしめたい。」昭和62年（1987）年に市民有志が「佐倉日蘭協会」を立ち上げた。草の根の国際交流。協会はオランダの児童をホームステイに迎え、オランダ語講座を開設し、オランダ料理講習会を開くなど、積極的な活動を続けている。また、市の音楽ホールにはオランダ製のストリートオルガン（手回し式の装飾オルガン）が3台備えられている。オランダ人技師と日本の建築家が協力し、“博愛”を意味する「デ・リーフデ」と命名された風車が建てられたのは、平成6（1994）年。このシンボ

ルが完成したことも手伝って、地元では「日本とオランダの文化が並び立つ町」としての認識が定着している。(中略) 風車の横手には印旛沼(いんばぬま)が広がっている。デ・リーフデは単なるオブジェでなく、“水汲み”の動力として活用されている。オランダと同様に風車守が常駐し、風向きにあわせて羽根の台座を動かす。電動でなく、手動である。(『JALグループ機内誌スカイワード』2016年9月号, pp.76~85より抜粋)

蘭学が江戸時代盛んであった歴史的な事実から、佐倉市がそれを活かしてどのような観光まちおこしの成果をあげているかを考えさせる問いである。SGHとしての課題研究にこのような観光で地域を活性化するための方策を生徒たちに考えさせる場面が必要ではないだろうか。なぜならば、高校の教科が「知識のつながり」を重視するのに比べ、総合的学習は「問いのつながり」を大事に扱うからである。ある意味で、答えの見出しにくい時代に突入しつつある現代において、観光というポジティブな切り口から、地域の課題解決を考える機会は「社会に開かれた教育課程」のよい事例となりうる。

2 高校生の反応

今回2時間連続の筆者による出前授業には、39人の1年生が受講してくれた。各クラス4、5名を募ったようであるが、8割は女子で、この種のテーマに女子が強い関心を抱く傾向が判明した。

授業の最後に3分間で書いてもらった感想文を3例紹介したい。

「観光プランを考えるとときに今まではテーマまでしか絞らずに考えてきたが、『誰が』『何の為に』という客層とその趣向までは考えるとプランをたてやすいと分かった。また、私は今回の授業で一番大切(基本)だと思ったのは、もし自分が観光客だったら何をするか、という点で考えるということです。これは本当に基本だと思っていましたが、どうしてもどうやったらお金をたくさん使ってもらえるのだろうかかと先に考えてしまうことが多かったので『楽しんでもらう』を大前提にプランを考えたいです。(1年女子)」

「自分や他の人が行きたくなるような観光メニューを想像したり話し合ったりするのが、旅行気分になれて楽しかったです。『観光』はこういったワクワクする気持ちが大切なんだということが分かった気がします。また、後半観光客に沖縄の魅力を知ってもらうような感動ルートとは何かと考えた時、なかなか進みませんでした。そこから、自分が沖縄の魅力をよく理解していないことが分かりました。少し悲しいことですが、これから沖縄についてたくさん学習して自信を持って人におススメできるようになりたいです。(1年女子)」

「観光のターゲットを絞って考えてみたり、ちがう土地の行ってみたいところを考えてみたり沖縄をはなれて考えてみるのは初めてで、すごく新鮮だった。観光客の層を考えてプランをつくってみるのは今まで考えたことがなく、これからもっと考えてみたいと思いました。高校でもこの授業を受けてみたいと思いました。最後の町おこしの問題はとても難しかったけど、

もっと詳しく聞きたいなと思いました。(1年女子)」

これらの受講直後の作文からも観光の学びがもたらす学習の意義が明らかとなった。冒頭から6人1班のグループワークで進行し、対話を軸にアクティブ・ラーニングを展開したが、改めて観光は学習に積極性をもたらす効果が高いと言える。また、生徒たちが高校までに地元沖縄県の観光事象について、意外にもほとんど学んでこなかったことも露わになっている。観光知の底上げが必要であろう。

IV 社会科教育からの貢献

これから勃興する観光教育というカテゴリーを筆者が専門とする社会科教育が主導できるとしたら、どのような戦略で推進を図っていくべきだろうか。観光教育が単にお国自慢的な内容に陥ったり、形を変えた国際理解教育や環境教育になったりするだけなら社会科教育の出番は少ないだろう。地図や景観読解、移動ルート選定、地誌的知識の保有、観光客の目線に立った旅行商品の企画、観光地の歴史的な地域ストーリーを見つめる思考法などを駆使し、参加型学習プログラムをいくつも構築できていけば、社会科教育が観光教育の推進母体になれるだろう。例えば、小学校段階において第4学年の3学期の「わたしたちの県のように」が配置されているが、この単元は自県の特徴を観光の視点から捉え直すことができ、大幅に魅力アップできる。さらに、第5学年の情報の単元に観光業を支える情報の働きを扱えば、観光を題材に面白い学習が実現できる。第6学年の3学期に「日本とつながりの深い外国」を学ばせる単元が用意されているものの、現状では、その展開には臨場感と切実感が欠けている。ここに観光で外国へ出かける想定の下を導入できれば、かなり改善できる。あるいは、インバウンドで来日している観光客とのかかわりを題材にしつつ、その国について学ぼうとする設定でもよい。

中学社会科地理的分野においても、例えば「ヨーロッパ地域」の地誌的学びでは、気候を活かした作物や食文化をテーマに容易に観光を窓にしつつ、学習が展開できる。「日本の諸地域」でも四国地方のゆず栽培やつま物を活かした町おこしを事例に教科書では学んでいるが、ここに観光客の視点を導入することでフードツーリズムの学習を窓にして四国の地理が描き出せる。歴史的分野においても文化財や歴史を活かした景観づくり（例えば、奈良県明日香村）などをテーマに扱えば、歴史も観光教育に貢献できる。観光政策、とりわけ世界遺産や日本遺産を扱えば、公民的分野にもかかわる内容につながる。

観光教育という新しいジャンルでは、もちろんこれら地理的内容や歴史的内容、公民的内容だけで成立するのではなく、ツーリズム産業のあり方、旅行企画立案、安全管理、ホスピタリティ精神、両替や為替の知識なども必要になり、実用的な能力を高めるには観光学を極めなくてはならない。

一方、実務的な能力育成はキャリア教育に依拠する側面が多く、教科では余り深入りできない。しかし小中高校段階においては、社会科系や外国語系教科が担う側面も多いのではないだ

ろうか。その根本は、「確かな観光者」は、確かな国土像・世界像を有していることが不可欠だからである。

他方、高校の「総合的な探究の時間」が論じられているが、基本的には生徒の考えを深める学び方を学ぶのが、総合に期待される側面であるため、内容は観光でなくてもいいわけである。しかし、沖縄県においては観光こそ総合のテーマにぴったりの地域であるため、本実践が意味をもって来る。総合の理念に詳しい白梅女子大の無藤隆教授は、その講演において「教科学習が“知識のつながり”を深めていくのに対し、総合は“様々な問い”をつなぎながら学びを深めていく」とした（平成28年11月13日立教大学における講演にて）。

また、観光は裾野が広く、農業との関わりでは観光農園や道の駅への出荷、ふるさと納税などの教材を通して扱える。工業との関わりでは、ものづくりの精神を学び技術の伝承や価値に気付かせる産業観光の視点がある。交通との関わりでは、観光ルートで使用する各種交通手段が登場する。観光客相手に英語で案内できる会話力こそ実践的である。さらに、観光開発による環境保全との調和や伝統文化の継承と観光資源化の関係を考える上において、ESD（持続発展教育）についても大いなる関連性が見出せるため、多くの思索をめぐらすことが可能であろう。

V おわりに

昨年8月に文部科学省から次期学習指導要領（審議のまとめ）が発表された。その中に「学びの成果として生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を身に付けていくためには、学びの過程において子供たちが、主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方を結び付けたり、多様な人々との対話を通じて考えを広げたりしていることが重要である。」という一文がある。まさに、観光の学びはこの指摘に応えることができる。観光は沖縄県のリーディング産業であるが、日本国においても既に大きなウェイトを占める産業として開花しつつある。政府は、今年観光庁の予算を倍増しており、観光立国から観光大国への道を歩もうとしている。日本橋で9月22日に開催されたツーリズムEXPO2016の前夜祭（グローバル観光フォーラム）では、世界の観光流通の中でアジア圏の伸びが著しいことが報告された。また、基調講演者であるデビッド・スコースイル（世界ツーリズム協議会理事長）氏は、次の4点の課題解決を日本に求めた。その4点とは、①スキルの向上や言語力を備えた人材育成、②大都市の宿泊所増への対応③空港の能力の拡大④客の地方への拡大である。人材育成が冒頭に挙げられた点が特に注目できる。また、最近の報道では、東京の観光人気度ランキングでも総合4位からパリを抜いて3位に上がっている。これは、安全で清潔・便利な東京の価値が改めて評価されたからにほかならない。

これらの観光を取り巻く世界の動向を正しく理解し、児童生徒の世界像を形成していくためにも初等・中等段階の社会科教育が果たす役割は大きい。現実には、総合的な学習の時間や外

国語教育との合科的扱いにより、特別単元を創作し地域の特性に応じた観光教育を立ち上げてほしい。市や県レベルにおいて観光の社会状況は大きく異なるため、観光教育は自治体の教育政策としての側面が強い。その意味で教育委員会と観光課（観光協会や観光コンベンションビューローも含む）の連携が必要になってくるだろう。

観光はオンワード（前向き）な姿勢を学習者に抱かせる力を秘めている。観光を通して様々な業種が連携できるし、観光交流によって人々の幸福感が助長される。観光資源化や観光商品化への努力は、生きがいとやりがいを生み出す。観光客の争奪をめぐる地域間や国家間の競争は激しくなるものの、結果として観光地の市民力を磨くことにもつながる。グローバルな社会において観光による社会の変容は、遮ることのできない自然の流れなのである。

謝辞

出前授業を受け入れて頂いた那覇国際高校の與座博好校長並びに研究主任の久山賢一先生、参観に来て頂いたJTB総合研究所の山崎誠様、沖縄観光コンベンションビューローの安次富貴子様、帝国書院の成田佳絵様ほか関係者の方々に深く感謝致します。また、専門学校の施設見学を快く受け入れて頂いたKBC学園ircの宮城良之様に記して感謝の意を表します。

参考文献

- ジョン・アーリ著 加太宏邦訳（1998）：『観光のまなざし—現代社会におけるレジャーと旅行』法政大学出版局，289ページ。
- 徳久球雄・安村克己編著（2001）：『観光教育—観光の発展を支える観光教育とは—』くんぷる，251ページ。
- 佐藤克士（2013）：「観光研究の成果を組み込んだ「社会科観光」の授業開発とその評価—小学校第5学年産業学習「観光産業」を題材にして—」，『社会科教育研究』第118号，pp1～14。
- 寺本潔（2013）：「地理教育が主導する観光の授業—その学習の意義について—」，『地理学報告（愛知教育大学地理学会）』第115号，pp67～72。
- 吉崎誠二著（2013）：『職業としての観光—沖縄観光55年編—』芙蓉書房出版，191ページ。
- 寺本潔（2014）：「沖縄県の小学校における観光基礎教育の授業モデル構築と教材開発に関する研究」，『論叢（玉川大学教育学部紀要）2014』pp73～85。
- JTB総合研究所編（2014）：『観光学基礎』同研究所発行，293ページ。
- 菊地達夫（2014）：「観光を題材とした地理授業の系統化と開発」，『北翔大学生涯学習システム学部研究紀要』第14号，pp1～14。
- 菊地達夫（2015）：「高校地理における観光を題材とした授業開発」，『大阪観光大学観光学研究所年報』第14号，pp1～6。
- 寺本潔・澤達大編著（2016）：『観光教育への招待』ミネルヴァ書房，165ページ。
- 寺本潔（2016）：「高校「地理歴史科」教育における現状と課題—地理総合を中心として—」，『玉川大学教師教育リサーチセンター年報』第6号，pp49～59。

*本論文は、文部科学省科学研究費基盤研究（c）「学校教育における観光教育の教材開発とカリキュラム立案」（研究代表：寺本潔）による研究の一部である。

The Education Power of the Tourism and Talented People Rearing by Development of a Subject: Through the Delivery Service Class

Kiyoshi TERAMOTO

Abstract

The purpose of this research is to clear the meaning that tourism is introduced in integrated learning and the society subject. Tourism is especially important industry in Okinawa Prefecture. Tourism is thought the contents which are suitable for handling it even if it is made the contents of the general course at the high school in Naha City. I could enforce an experimental class at the high school, too. The practice problem of the subject which contains the contents of the marketing foundation to this time, and area story-making could be developed. Tourism education is an important theme even if talented people in future Okinawa Prefecture should be trained.

Keywords: inbound, tourist resources, marketing foundation, talented people rearing, SGH

[研究報告]

多角的な思考を育む児童生徒用の観光教材コンテンツ 5例の開発

寺本 潔

要 約

観光を学ぶ教育は必要である。子どもの思考が深まり、観光業への関心も高まる。観光教育を通して自分の住んでいる市や県の発展に寄与したい子どもを育てることになる。多角的な思考を促す学習は、観光を題材にすれば実現できる。観光業が重要な産業である市や県では、もっと観光教育を重要視する必要がある。筆者は教材として5つのコンテンツを開発した。小中高校の段階でもっと観光教育を推進すべきである。

キーワード：観光業, 思考ツール, 白地図, 観光の学び

I はじめに：観光を題材とした教育の必要性

1. 問題の背景

訪日外国人が国内で使ってくれた4.5兆円と日本人の旅行による消費とを合わせると観光で約25兆円近くのお金が使われている（観光庁：2018年度旅行消費動向調査による）。それに伴い販売や不動産などの都市開発、情報産業、ブランド農水産品も伸びている。いまや、観光は我が国の発展に欠かすことのできない産業に成長している。

しかし一方で、教育界における観光を題材とした教育内容は皆無に近く、未だに修学旅行の準備学習としてしか認識されていない。ましてや観光業を担う次世代の育成や重要な産業としての認識は等閑視されたままである。例えば、観光題材に最も関わる小中学校の社会科教科書を開いてみても、小学校で自動車産業や農林水産業、情報産業などの記述が、10数～50数頁にわたるものの観光業は一切触れられていない。中学校では地理的分野で北海道や沖縄県の諸地域学習の場面において観光による地域変容などの紹介が1～2頁あるものの、観光業についての記述はやはり皆無である。公民的分野でさえ、観光まちづくりと人々の協力が描かれていない。観光業や観光の動向は社会のグローバル化や地域創生にも大きく関わり、国連の定義（観

光は平和へのパスポート)でも平和の構築に寄与する魅力的なジャンルであるにもかかわらず、その意義が教育界では語られていない。早急に検定教科書への観光業や観光事象の記述増加を望むところである。

理想的には学習指導要領に「観光による地域振興」や「観光業の重要性」が内容として書き込まれることが必要であるが、次の指導要領の改訂を待たずに、教科書内容に観光題材をもっと加えていく努力が各社の編集担当者に求められるのではないだろうか。社会科以外では、英語の教科書中に外国人の道案内教材が登場しており、とりわけ東京都が開発した教材『Welcome to Tokyo』(冊子体+DVD)に東京都内の観光地や観光資源が楽しい写真や動画で掲載されているのが注目される。さらに家庭科において、観光地で有名な郷土料理を扱ったり、音楽科で旅行先の国の音楽を、保健体育科でスポーツツーリズムを登場させることくらいはすぐに工夫できる。

ところで、旅館やホテル業、土産物店、運輸業、観光協会、出版・広報等で働く方々にとって、観光業界を支える優秀な人材の育成はまったなしの状況ではないだろうか。一部には不足する観光業で働く人材(接客や受付、清掃)を外国人に期待する動きもある。人手不足を補う意味では有効な側面もあるかもしれないが、外国人スタッフだけでは、インバウンド需要を支えることができない。外国から日本文化や自然の美を堪能したくて来訪してくれる観光客に対し、浅薄な知識の外国人がお出迎えして果たして満足いく日本旅を味わってもらえるだろうか疑問である。やはり、基本的には観光の重要性を認識でき、豊富な観光知識を有した日本人スタッフが必要であり、世界水準の観光地として国や地域の発展に寄与してもらう人材の育成が急務ではないだろうか。特に、観光産業がリーディング産業である都道府県においては、観光題材を公教育で扱うことを避けては通れないはずである。今や、主要な国内観光地では販売や接客、観光ガイド、食材の提供、建設、観光協会業務などで多くの仕事が生まれている。ゲストハウスや民泊などの経営に乗り出す若者も多い。高齢化に悩む過疎地域では観光振興は起死回生の策となっている。加えて旅館やホテルのレストランで提供される食材を供給してくれる地元の農水産業にとって、観光は不可欠の需要喚起だ。経済的には、観光による収入を軽視しては地方の持続可能性にも支障が生じるようになっている。

2. キャリア教育

ところで、観光業に携わる経営者自身が、仕事の社会的な意義や観光業の将来像に関して熱くご子息に語っておられるだろうか。果たして産業としての観光業の役割について、子どもに憧れを抱かせるような説明はできているだろうか。我が国の学校で観光業についての確かな学びが行われているならば、後継者育成にもっと安心して取り組めるのではないか。観光業の次世代育成のためだけでなく、地域の持続可能な発展に観光が寄与している府県では「ふるさと教育」の発展形としても観光の学びは価値を持つ。観光の重要性に気付かせ人材育成につながる

る観光基礎教育が推進できれば、総合的学習や社会科等とタイアップし企画力や地域連携力、シチズンシップ（市民的資質）も育成できる。さらに、観光ガイド役体験や外国人観光客へのインタビュー体験で実践の機会を与え、児童生徒に効力感を味わわせることができれば、外国語に対する強い興味を喚起することができる。単に観光業発展のためだけの教育ではなく、国民の観光知の向上は、世界の平和に貢献できる自覚と日本の価値を高める主体的で対話のある深い学びへとつながるだろう。

しかし残念ながら、教育界での観光業の位置づけは極めて弱く、総合的な学習でさえも観光を題材にした学びと観光基礎人材につながるキャリア教育（例えば、観光客へのインタビューや観光ボランティア体験）については、観光庁のHP上での報告資料では、那覇市立開南小学校4・5年や秋田県鹿角市の中学生の鉱山ガイドの事例や佐渡市宿根木集落ガイド、天草市の世界遺産崎津集落の中学生ガイド、法政国際高校普通科の「旅する人の観光学」講座を代表例として、ごく一部の学校で展開されているに過ぎない（ただし、実業系の商業高校では観光科が全国で10数校ほど設置されており、そこでは専門的な教育実践が積み重ねられている）。観光庁においても基礎的な観光教育振興の重要性は認識しており、既に一昨年度よりモデル授業校の選定や公開シンポジウムの開催、啓発動画「観光教育ノススメ」のHP上での公開などに着手し、公益社団法人・日本観光振興協会では観光副読本も作成されている。また、筆者が属する日本地理学会や日本地理教育学会などでも観光教育に関する研究集会を開くようになってきた。

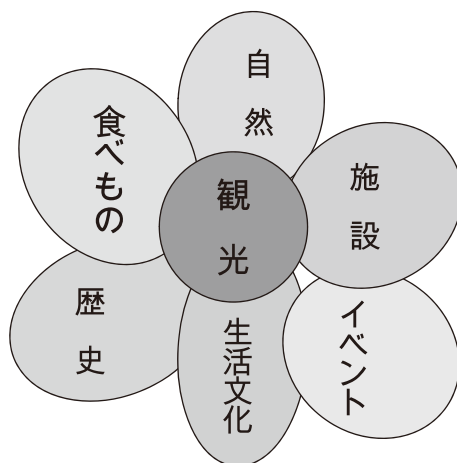
しかし、肝心の観光教育コンテンツと指導法の開発は著しく遅れており、その教育効果さえ十分には立証されていない。それらを補う意味で、本稿では、筆者が過去7年間かけて開発した代表的な観光教材コンテンツを5例紹介すると共にそれらを実際に出前授業を通して実践的に試行した結果を報告したい。

Ⅱ 観光題材への興味・関心を引き出す2つの教材コンテンツ

1. 地域の資源を分類する「観光の花びら」

県や市域を想定範囲として、児童生徒に「自県の魅力を思い出し、具体的に訪れてほしい観光資源はどのような場所や事物があるか“観光の6枚の花びら”ごとに考えてみましょう。」と教師から切り出し、第1図のようなイラストを黒板に描き、発言を引き出し線で書き出すという簡単なコンテンツである。例えば、筆者が2017年に那覇市立銘苅小学校6年生を対象に実施した出前授業を例に考えると、自然の項目には、「サンゴ礁やヤンバルの森、鍾乳洞」などがすぐに思い浮かべることができた。歴史の項目では、「琉球王朝を代表する首里城やグスク、沖縄戦の歴史」などが、生活文化の項目では、「ウチナー口（方言）や赤瓦の屋根、のんびりした生き方」などが、食の項目では、「沖縄そばやチャンプルー、パイナップル」が、イベント・祭りの項目では「全島エイサー祭りや那覇マラソン」などが、建物・施設の項目では、「リゾー

トホテル群や空手会館，国際空港」などの発言が児童から出てきた。県によっては，生活文化や建物・施設の項目がすぐに思いつかない場合もある。それは，その項目の魅力に気付いていない証でもある。反対に6枚の花びらにそれぞれ複数要素が思い出せる都道府県は観光の魅力にそれだけ富んでいることを示している。



第1図 「観光の6枚の花びら」の概念図

2. 地域の歩みがわかる観光開発の年表

二つ目の教材コンテンツは，地域の観光史である。観光がリーディング産業として地位を高めている県は，それなりに観光発展の歩みが導き出せる。残念ながら，都道府県ごとにまとめられた『観光開発史』が未だ見られないため自県や自市の観光開発の歩みを掘り起こすのは容易ではない。関係者への聞き取りや地元新聞に掲載された観光記事の渉猟，関係者からの聞き取り，郷土資料などから情報を収集し，自市や自県の観光開発の歩みを独自に教材作成する必要がある。試みに筆者が取り組んだ例として沖縄県石垣市の観光開発史調査や三重県鳥羽市の例をあげることができる。石垣市（人口5万人）は，八重山諸島の主島であり美しい川平湾やマングローブ林，やし林，ミンサー織り，竹富島や西表島への玄関口として著名な観光地である。これまで，島の観光がどのように発展してきたかを扱った小中学校段階の授業は筆者の出前授業以前では実施されていなかった。過去15回の石垣島への訪問経験がある筆者にとってその点に関する素朴な疑問があったため石垣市立図書館の関係資料を大浜譲指導主事の協力を得て収集し第1表の資料を作成した。その結果，当時の助役であった故・牧野清氏（写真1）の功績が大きかった点が浮かび上がってきた。

牧野氏が助役を務めていた1960年代は沖縄県が本土復帰を果たしていない時代であり，八重山地域の観光開発は緒につき始めた時期である。本土からの団体客が初めて石垣島に来島す



写真1 石垣市元助役・牧野清氏（1910-2000）

ることとなり、牧野氏は真っ先に八重山やしの群生地を案内しようと考えたという。そのころの南島イメージを代表する景観であるやし林を散策する道の整備を休日に役場職員や地元の協力者を得て実施した。浜から白砂（サンゴのかげら）を運び道に敷いた（牧野氏の自叙伝による）。このエピソードを活用し、石垣市大浜小学校5年生むけに実施した出前授業では、「助役の牧野さんが、本土からきた最初の観光客を島の中のどこに案内しようと思ったのでしょうか？」を主発問にした。こうした先人の努力を教材として学ぶことで地域固有の魅力や観光開発の大切さを学ぶことができ、観光開発に対するポジティブな態度を児童生徒に啓発することができる。また、那覇―石垣間テストフライトを成し遂げた株・沖縄ツーリストの創設者の一人である故・東 良恒（ひがし りょうこう）1930年石垣市大浜生まれ。1999年逝去）氏が地元石垣市出身である事実も提示したところ、児童は強い興味を示した。

第1表 児童に提示した石垣島の観光の歩みを表した年表（寺本作成）

年	観光のできごと
1955年	那覇―石垣間テストフライト
1956年	初の民間航空機1日1往復 八重山観光絵はがき作製
1962年	米原のやし林遊歩道整備（牧野清助役の発案）
1963年	八重山観光協会設立
1967年	南西航空 沖縄―石垣間就航
1973年	沖縄県本土復帰
1975年	沖縄海洋博覧会
1978年	小柳ルミ子「星の砂」ヒット記念公演
1980年	第1回ミス八重山選出
1981年	横浜、仙台などに向けて八重山観光宣伝隊派遣

一方、伊勢志摩で有名な観光地三重県鳥羽市においては、観光課で聞き取りした結果、鳥羽

観光の歩みがある程度判明できた。市役所観光課がまとめた資料によれば、昭和25年春に開催された「真珠と海女の饗宴 鳥羽みなと祭りパールカーニバル」が人気を博したことが戦後の観光振興のきっかけとなったようである。その後、26年御木本真珠島設立、30年鳥羽水族館開館、31年鳥羽音頭レコーディング、33年岡山方面にキャラバン隊実施、45年近鉄鳥羽新線開通、48年海女4名同行による東北への宣伝キャラバン、52年鳥羽敬老パック旅行商品発売など努力が積み重ねられている。鳥羽市の学校現場で出前授業は実施していないが、発問としては「当時の鳥羽観光の目玉は何だったのでしょうか？」がよいだろう。真珠と海女という神秘的なワードこそ観光PRには大事であったことが分かるからだ。地域の観光史とその教材化を通して地元への誇りや自信が生まれ、観光開発の歩みを伝える意義も生じる。こうした事実の掘り起こしを通して、地域の特色を生かした観光振興への思いに共感させ、先人の努力なくして自県や自市の観光地は出来上がったのではないことを児童生徒に認識してもらうことが重要である。

Ⅲ 多角的な思考を促す3つの教材コンテンツ

1. 旅行商品を分類するポジショニング・マップ

観光教育固有のコンテンツとして観光マーケティングの基本を学ぶ内容がある。その代表例がポジショニング・マップと呼ばれる手法である（第2図）。例えば、沖縄県へのパッケージ・ツアーの条件を考えるため、代表的な6つのセグメント（観光客の客層）ごとで、どの位置の旅行商品が適しているかを二軸の図に位置づける思考ツールである（写真2）。価格の安さ・高さや保養型・目的型の二軸の図に6種の客層のイラストカードを配置するワークを立案した。個人でなく班で考え合うと楽しい。6つのセグメントが書かれたカードを二軸のどのあたりに位置するかを考えて理由を述べつつ用紙の上に置いてみるのである。

念頭に置く視点は、①引き抜いたセグメント（客層）には、どんな属性があるのか（お金と時間のゆとり）②客層にはどんなニーズがあるのか（観光の目的）である。

設定した観光客層は以下の6種類である。児童生徒が想像する客層のイメージも付記した。

★6つの客層

学生：なるべくお金をかけずに、いろんな体験をしたいだろう。

社会人若手層：学生よりはお金に余裕はあるが、あまり旅行にお金をかけられない、仕事で疲れているので少しはのんびりしたいだろう。

ハネムーン（新婚さん）：東京から来た新婚さん。一生に一度の思い出だからふんばつして二人で満喫したいだろう。

海外ウェディング客：外国人（例えば韓国）なので沖縄という海外で挙式して二人の思い出づくりや両親への感謝を伝えたいだろう。

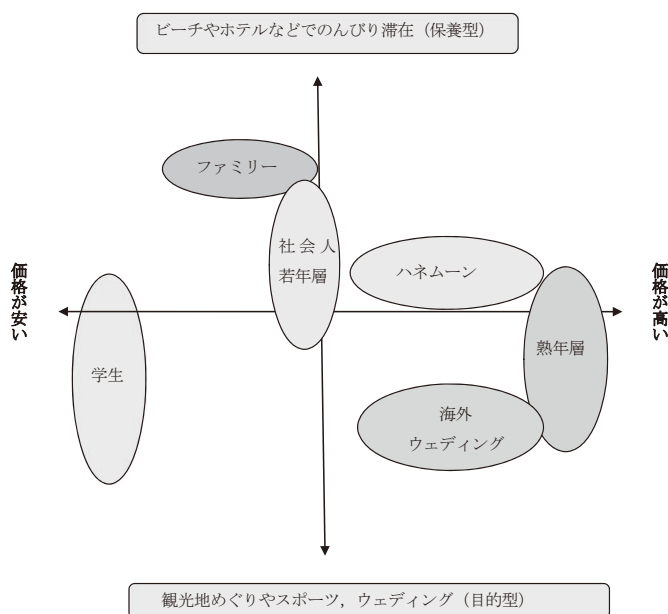
ファミリー層：金銭的に学生よりは余裕あるが子ども連れだから、あちこちめぐらずビーチでのんびりしたいだろう。

アクティブ・シニア（熟年層）：お金に余裕あり、アクティブに観光地めぐりやゴルフ、沖縄の伝統芸能を楽しみたいだろう。＊ワークに必要な時間は、25分。



写真2 ポジショニング・マップで学ぶ児童

沖縄を訪れた観光客のセグメントがどの位置にあるかを考える



第2図 6つの客層ごとで適して旅行商品を考えるポジショニング・マップ

注) 上図は、森下晶美編著 (2016)『新版 観光マーケティング入門』同友館、232ページを参考にした。

2. 観光地の強みと弱みを思考させるSWOT分析

次に教材コンテンツとして着目した手法が、経営学でしばしば用いられるSWOT分析である。これは、観光地の強み (Strength)・弱み (Weakness)・チャンスとなる外部要因 (Opportunity)・怖れ (Threat) の4観点から経営分析する方法であるが、小学6年以上の学齢では思考可能と感じた。那覇市の小学6年や高知市の中学1年で実践した授業でも十分児童生徒は思考できた。箱根町の玄関口である湯本小学校6年で実験的に授業を行った場面において、児童が書いてくれた例を紹介しよう(第2表)。大涌谷での火山活動への懸念なども思考の結果気づいている。児童の親の多くが観光業に従事している地域であるため、この種の学習はもっと公教育で行われるべきではないだろうか。

第2表 箱根町立湯本小学校6年学級で用いたSWOT分析への書き込み一覧

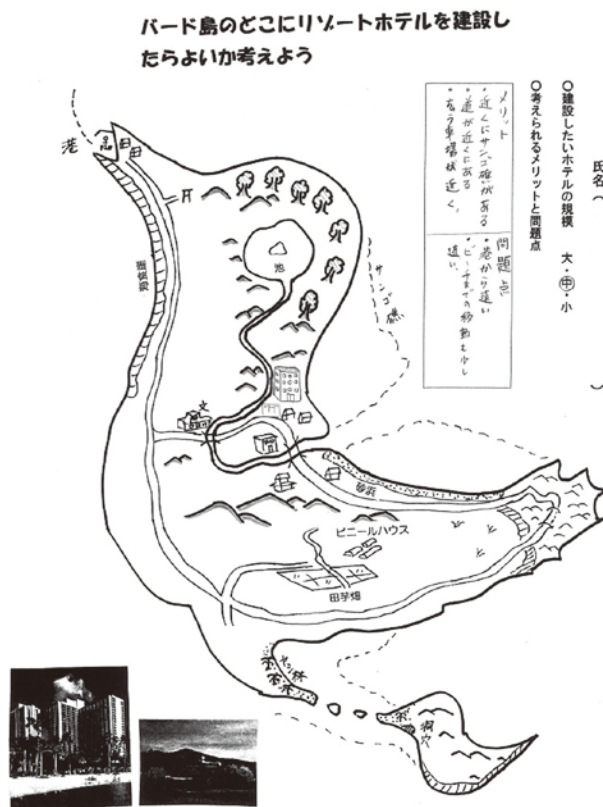
箱根町の観光をSWOTで分析しよう

箱根町の観光面での強み	S	箱根町の観光面での弱み	W
ゲオルクロープウェイなど あまりない乗り物がある	温泉+温泉旅館が人気で、 強みだと思う。	W 観光地だから売っている物が高い ・（せつがたない）	W 歴史の寺が箱根は 多い。(巨塔)
アニメのふたし(1) ちまろ がうすの森がらうた おんせん(2)ぐさめ	山や湖など自然がきれい いて季節ごとに景色が 変わる 「富子」等の「富士屋ホテル」に ホテルが多い ⑤ 大きいイベント 大行列・馬車伝がある。	④ ねむいねむいことかきさるみたい な有名店がない。	平地が少ない
馬車の近くに商店街がなが っている。		英語ひょうきのかんぱん などがすくない (W)	
観光をとりまく機会 (チャンス)	O	箱根町・観光の心配や怖れ	T
オリンピックや大行列 の日時外国の人や果物が 入るとか（アトラクション ）	⑥ 国のイベントに合わせた 観光や大行列した方が いい	大涌谷のふん火 ロープウェイなどの事故	土石災害
⑦ ゴールドタワー あしこの火大会	東京オリンピックで、見物人が 箱根に泊まるかも…	大涌谷での火山がどう	⑧ 大涌谷がふん火すると あふないから観光客が 来なくなる。
	ケンペル バーニーさし	山のゴミや大涌谷 のあふみがひどい	⑨ 温泉がなくなったら、箱根は 一気に身寒くなると思ら れ、山におおくのゴミがすて られている。

解説 付箋に記入された意見の代表的なものとしては、有名温泉地である箱根湯本が学区であったため、温泉や大涌谷などの観光事象に対しては関心が高く、予想以上に具体的な書き込みを得ることができた。

3. 架空の島の開発問題を思考させる白地図

以上、計4つの教材コンテンツを紹介してきたが、5つ目は白地図という題材を用いたオリジナルなワークを開発した。これは架空の観光島（島の形を描いた）にリゾートホテルを建設



第3図 架空のバード島のどこにホテルを建設すべきかを考える白地図（筆者原図）

注）図中の書き込みは、那覇市公立小学校6年児童の例

するとしたら、どのような規模のホテルを島のどこに建設したいか、またその結果、どのような影響が島にもたらされるかを考えさせる地図ワークである（第3図）。沖縄県で実施した教材であるため、サンゴ礁で囲まれた島の環境について本土の児童生徒よりも関心度は高いと予想される。

このような自然環境と観光開発との関係を考えるコンテンツは、観光教育固有の題材であり、英国などでは地理の教科書で既に取り入れられている。今後、観光公害（オーバー・ツーリズム）問題などが顕著になる自治体では、積極的にこうした地図ワークを導入し、思考水準の高い観光市民を育成する必要がある。自然環境保全をベースに思考できることで持続可能な観光が実現でき、観光客個人には「責任ある観光」の担い手としての振る舞いが求められるのではないだろうか。

Ⅳ 小中高校における観光教育で育成したい能力

1. 観光教育の系統性

以上、筆者が開発した5つの代表的な教材コンテンツは小学校第4学年以上の小中学校において用いることができる。発達段階に見合う内容としては「観光の花びら」は確かに小学生向けの内容と言えるが、高等学校（進学校）で実施してみた場合でも小学生からの意見とあまり大差なかった。高校生といえ、地元であるため観光資源については取り立てて意識せずに高校まで進学してきたせいもあり、自県や自市の観光資源の知識は曖昧なままであった。その点、SWOT分析はやや難しく、中高生にオススメの思考ツールである。しかし、ハワイ州との比較

第3表 小中高校の各段階の観光教育で育てたい能力一覧（寺本私案）

区分	小学生期（4年～）	中学生期	高校生期
特徴	主体的な行動、身近な地域社会や環境への興味や郷土愛を通して、観光者としての素地の形成が望まれる時期	興味や行動の範囲が広がり、権利と責任を理解し観光事象の動向や課題解決方法の理解、観光現象へのまなざしが培われる時期	自己と観光事象との関係を深め、観光の社会的な重要性を理解し市民的資質を備えた確かな観光者として判断が望まれる時期
知識及び技能	・日本や自県、自市の地理的歴史的な観光価値を学び、それらの発展にとって観光は大きな役割を果たしていることを理解できる。 ・写真や地図、統計を読み取り観光事象を適切に解釈することができる。	・世界や日本の観光動向と産業としての観光業の特性を理解できる。 ・日本や自県、自市に関する観光事象の現状と変化を理解するため、写真や地図、統計、時刻表など各種資料を活用することができる。	・観光地が発展してきた歩みを理解し、観光地の発展には交通、サービス、資源管理の三者が重要であることを理解できる。 ・ICT活用の技能を高め、写真や動画、アートなど多様な情報メディアを活用することができる。
思考力・判断力・表現力等	・観光業の展開や観光資源の保全は多様な産業や社会の仕組みと関わりながら営まれていることを考えることができる。 ・仲間やゲストと対話しながら、よりよい観光の在り方を思考し、観光地に関するガイド文（簡単な英語での紹介を含む）やコラージュ作品、ビデオクリップに表現することができる。	・観光振興には自然、社会、経済、文化が調和を保ちながら発展することが不可欠であることを考え合うことができる。 ・仲間やゲスト（含、観光業の専門家）と対話しながら、持続可能な観光の在り方をSWOT分析などを介して思考し、基礎的なマーケティングの視点から観光振興について自分なりの意見を適切に表現できる。	・地理総合や公共、総合的な探究の時間で学ぶ機会に世界や日本の観光の在り方を思考し、観光振興と環境保全の間に見出せるジレンマや近未来の観光業や観光地の姿について考え合い、適切に解決策を判断できる。 ・仲間やゲストと問題意識を共有し、プロジェクトベースの学習に基づき観光問題の解決策をプレゼンできる。
主体的に学習に取り組む態度	・観光事象の楽しさや観光業で働く人のやりがいに関心を抱き、進んで自県や自市、自国の観光資源や観光振興、観光業に関心をもちようとする。 ・持続的な観光について興味や関心を高め、自分も地域社会の一人として何らかの役割りを担おうとする。	・観光事象を見つめる多角的な「観光のまなざし」を獲得し、進んで自国や自県、自市の観光振興や観光業の動向や役割りに関心をもちようとする。 ・持続的な観光について興味や関心を高め、自分も国際社会や地域社会の一員として何らかの役割りを担おうとする。	・観光地が抱えている諸問題（例：オーバーツーリズム）に関心を抱き、進んで国や自県、自市の観光課題の解決に向かおうとする。 ・グローバルな視野から持続可能な観光や責任ある観光の大切さに気づき、確かな観光者としての対人関係や語学、企画力等の資質を磨こうとする。

で沖縄県のSWOT分析を那覇市内の小学6年生に行った出前授業では、見事に児童は意見を導き出すことができた。おそらく比較の対象を置くか否かでも思考の深まりが異なってくると言えよう。架空の島の白地図ワークも小学校高学年以上のどの段階の学習者でも実施可能である。島だけでなく、狭い路地のある旧市街地、人口の少ない過疎の村などを事例に白地図化して開発問題を思考させることも有効であろう。

これらの傾向から、筆者なりに観光教育で育つ能力を新しい評価規準に即して立案し、さらに小中高校生期の3つの発達段階を想定し系統性に配慮してみたのが、第3表である。荒削りな面は残っているが、現時点で観光教育の資質・能力育成に系統的に言及した論文が見当たらないため、一定の意義はあるものと思われる。ご批判頂ければ、幸いである。

2. 地域の魅力を価値にかえる能力

観光教育はふるさと教育を単にグローバル化したものではない。ふるさとへの愛着と誇りはもちろん醸成されなくてはならないが、地域の歴史や偉人、地名に詳しいだけでは地域産業の衰退や自治体の統廃合が進む中で、かえって知識が活用できず浮遊するだけである。例えば、北海道という観光地の魅力を例に検討してみたい。本州に住む者として北海道の持つ広大な自然と魅力的な食、アイヌ文化は観光価値として真っ先に浮かんでくる。道民の次世代である子どもたちも北海道に多くの観光客が来ている事実は知っているものの、道外の人から説明を求められた場合、案外その魅力を客観的に表現できないものである。発言として出てくる観光地や観光資源はメディアで見聞きした紋切り型の情報にとどまり、北海道が持つ風土の魅力（テ



写真3 アイヌ文様を色紙で切り抜く児童（札幌市公立小学校4学年）

ロワール・Terroir) が語られない。また、雪の魅力も児童にとっては、あたり前の事象と映っており札幌市などで冬季気軽に家族で楽しめるウィンター・スポーツや雪遊びそのものが観光資源であることに気付いていない。筆者が昨年、札幌市内の小学4年児童に対して「観光資源として見るアイヌ文化」の出前授業を行った際にも、アイウシ・モレウのアイヌ文様の美しさに初めて気づいたようであった。また、道東や道南に旅したことがない児童も多く北海道という単位を丸ごとつかむことができず、「ほっかいどうがく」の推進にとっても課題が残った。

一方で観光は、地域の魅力を一種の価値に高めなくては資源として活用できない世界である。たとえ山奥に美しい紅葉スポットがあっても屈強な登山家しか見ることのできない場所であったなら、そこは観光地とは言えない。交通路の整備や紅葉スポットを楽しめる展望台の設置、観光情報の整備、紅葉だけに頼らない通年の楽しませ方の立案などの工夫がどうしても必要になってくる。そうした問題解決の学びこそ観光教育にしかできない固有の学びと言えないだろうか。

観光の魅力の大きな要素として食があげられる。いわば特産物である。これもいくら地元で食されている味わい深い食材や料理が有名であっても即、観光商品とはならない。商品化にはマーケティング戦略が必須で、果たして来訪者の味に見合うか、来訪者が一度に食べる量的に適切な食材はどれくらいか、ネーミングの工夫や食の背景に横たわる物語、通年もしくは一定期間同じ味を確保できるか、そして適切な価格の設定や販売網など検討すべき課題は山ほどある。これらの複雑な課題や問題の解決には高校生くらいならば挑戦できる。高校で始まる「総合的な探究の時間」は本来、そうしたリアルな問題解決の場にしたいものである。しかも、現代はSDGs(国連持続可能な開発目標)が重視され、産業界もこぞって旗印として掲げている。観光業も当然このゴールに無関心ではならず、持続可能な観光や責任ある観光をキーワードに発展できなくてはならない。

欧州においても2016年に持続可能な観光に向けての欧州観光の指針が作成されている。そこでは、増え続ける観光入込客への適切なマネジメントと社会、文化、経済、環境のインパクトへの対応策が27の指標として策定されている(European Union:2016)。我が国においても、欧州同様の問題が顕在化しつつある。また、先に挙げた食の商品開発にも伝統文化維持、里海や里山の保全、労働環境の改善、食材ロスの回避などが問題視される。観光を題材とした学びを通して実社会に生きて働く能力が身に付く機会となる。そうした意味で、地域の魅力に気付かせ、それを観光客といった他者目線で意識させつつ、「魅力を価値に高めていく学び」を通して様々な知識や技能、思考力・判断力・表現力が獲得できる。今後、さらに教材の整備や教育方法論の検討を進めていく必要がある。

V 観光の基礎人材育成への期待

前述したように現時点では教科書への記述が皆無に近い観光業であるが、既存の单元でも導

入できる箇所がある。例えば、小学校社会科第4学年の単元「わたしたちの県の様子」に位置づく、伝統工芸品の扱いがあげられる。教科書には数頁を使って伝統工芸品である焼き物や織物、木製品などの生産工程や技術の継承の大切さが解説されているが、観光商品としての扱いは不十分だ。現実には工芸品の多くは一部の年配の富裕層や外国人観光客の購入で支えられており、小学生を持つ若い家庭ではほとんど購入されていない。つまり伝統工芸品が子どもや若者の世界では縁遠いものとなっている。

筆者が指導助言した社会科授業で工芸品の大切さに気付かせるため、子どもたちに向かって「皆さんを含め日本人が買わない・使わないなら、もう伝統工芸品は無くなってもいいんじゃないか？」と思いついた切り込み方で「ゆさぶり」を試みたことがあった。第5学年の農業単元でもブランド米や日本酒、リンゴや柑橘類は観光資源に高まっていて、旅番組で紹介される大半の特産品は観光商品と言える。農水産物の生産も販売あつての工夫である。観光農園や魚広場での水産加工品販売など、観光客が何を求めているかをもっと社会科で扱うべきであろう。情報の単元でも新聞やテレビの仕事は扱っても様々な観光情報が多様な産業を活性化している実態は教えられていない。小中学校のいずれの普通教育段階でも観光客のニーズやマーケティングの基礎さえ扱われていないのが現状である。せめて、北海道や沖縄県のように観光がリーディング産業である県では観光教育を意識的に推進し次世代育成に向かわないと当地の観光産業の将来が危ういのではと懸念している。観光教育の重要性を観光界あげて訴え、地元の教育界に向けて観光業に関する内容を扱うよう働きかけてはいかがだろうか。我が国が観光先進国へと発展するために優秀な人材がこの業界に集まってくる必要性については、誰しもが賛同して下さると思われるが、その具体的施策については未だほとんど動きがない。ようやく一昨年から観光庁観光産業課で観光教育推進のためのささやかな予算が付き、プロモーション動画「観光教育ノススメ」が作成されたに過ぎないのである。

欲を言うなら観光業は地域色も強く現れるため、各地のDMOが地域の観光基礎人材育成に関与してほしい。先進的な試みでは、沖縄観光コンベンションビューローが63頁カラーの小中学生向け『観光学習』副読本を編集し県内の小学校に無料で配布している。また、小中学校現場に観光の専門家が出向いて「未来の産業人材育成事業」として観光業の大切さや面白さを直接子どもたちに伝えている。将来の我が国の観光業の発展を期待するのであるならば、市や県の教育部局に観光教育推進の必要性を分かってもらえることが大事であろう。観光は裾野が広い業種のため各種の産業によい影響を及ぼす。弱点は相手あつての産業である。日韓問題により、韓国と日本の間に横たわる観光客激減の問題はいうまでもなく、東日本大震災の直後や新型コロナウイルスの流行によっても観光需要が冷え込んだ。そうした政治や災害・感染症リスクこそが観光の最大の敵なのである。これらのリスクや制約にも打開策を模索できるレジリエンスの強い人材は簡単には育たない。観光基礎教育の本格的な展開を期待するところである。

謝辞

2011年より始めた観光教育研究も8年が過ぎた。この間、次の多くの方々から有益なご示唆やご支援を頂戴した(敬称略)。澤達大(京都文教大)・中村哲(玉川大)・宍戸学(日本大)、田部俊充(日本女子大)・吉田和義(創価大)・池俊介(早稲田大)・桃原のぞみ(沖縄県)・大島順子(琉球大)・伊集満枝(八重山高)・新保元康(NPOほっかいどう学推進協議会)・荒木時雄(東京観光財団)・山崎誠(JTB総合研究所)・北島哲也(日本観光振興協会)・小倉勝登(文科省)以上の方々にして感謝の意を表します。

なお、本研究は文科省科学研究費基盤研究(C)研究題目:ESDに立脚する小中高一貫した観光教育のカリキュラムの構築(課題番号18K11848)を使用した。

参考文献・発表順

- 創立45周年記念誌編集委員会(2004):『創立45周年記念誌』沖縄ツーリスト, 231p.
- 森下晶美編著(2008):『観光マーケティング入門』同友館, 165p.
- 深見聡(2014):『ジオツーリズムとエコツーリズム』古今書院, 197p.
- Hawaii Tourism Authority(2015): Vision 2015, Tourism Workforce Development Strategic Plan The Journey to Excellence, pp. 1~15.
- 寺本潔(2015):自県の資源と世界遺産の価値に気付く小学校社会科・観光授業.『玉川大学教師教育リサーチセンター年報』第5号, pp. 33~44.
- 寺本潔ほか(2016):小学校からの観光基礎教育のモデル授業構築に関する研究—沖縄県を事例に一.『玉川大学学術研究所紀要』第21号, pp. 1~18.
- European Union(2016): The European Tourism Indicator System-ETIS toolkit for sustainable destination management, 27p.
- 田本由美子・寺本潔(2016):『資源はっけん!観光学習—沖縄県石垣市立石垣小学校4年の実践を中心に—』(日本離島センター平成27年度離島人材育成基金助成金報告書) pp. 1~32.
- 寺本潔・澤達大編著(2016):『観光教育への招待—社会科から地域人材育成まで—』ミネルヴァ書房, 165p.
- 大島順子(2016):観光の教育力の構造化に向けて.『観光科学(琉球大学)』第8号, pp. 73~86.
- 寺本潔(2017):『教師のための地図活—地図帳・地球儀・防災・観光の活かし方』帝国書院, 77p.
- 寺本潔(2017):島の栽培植物と寺院の観光資源としての価値に着目した学び—沖縄県石垣市の小学校4年生への出前授業を通して—.『論叢(玉川大学教育学部紀要)第17号』pp. 37~61.
- 寺本潔(2018):小学校における観光を題材とした学びの現状と課題—札幌・対馬・石垣の3市への現地調査をもとにして—.『論叢(玉川大学教育学部紀要)第18号』pp. 165~184.
- 村田和子(2018):『家族旅行で子どもの心と能がぐんぐん育つ旅育BOOK』日本実業出版社, 190p.
- 深見聡(2019):『観光と地域—エコツーリズム・世界遺産観光の現場から—』南方新社, 110p.
- 寺本潔(2019):若者が憧れる観光業へ—DMOに託したい観光教育支援—.『旬刊 旅行新聞11月11日号』4面掲載記事。

Development of Five Teaching Tourism Contents Based on Diversified Thinking for the Child and the Student

Kiyoshi TERAMOTO

Abstract

The education for learning tourism is necessary. Child's thinking is deepened, and interest in the tourism industry rises, too. The children who want to contribute to the development of my prefecture are brought up through the tourism education.

If the tourism is made a theme, the learning which suggests diversified thinking can be realized. You must take tourism education more seriously in the prefecture which that tourism industry is important. I made five teaching – materials as a subject.

We should more promote tourism education at the stage from elementary education to higher education.

Keywords: tourism industry, thinking tool, blank map, learning tourism

観光教育の定義と今後の方向性

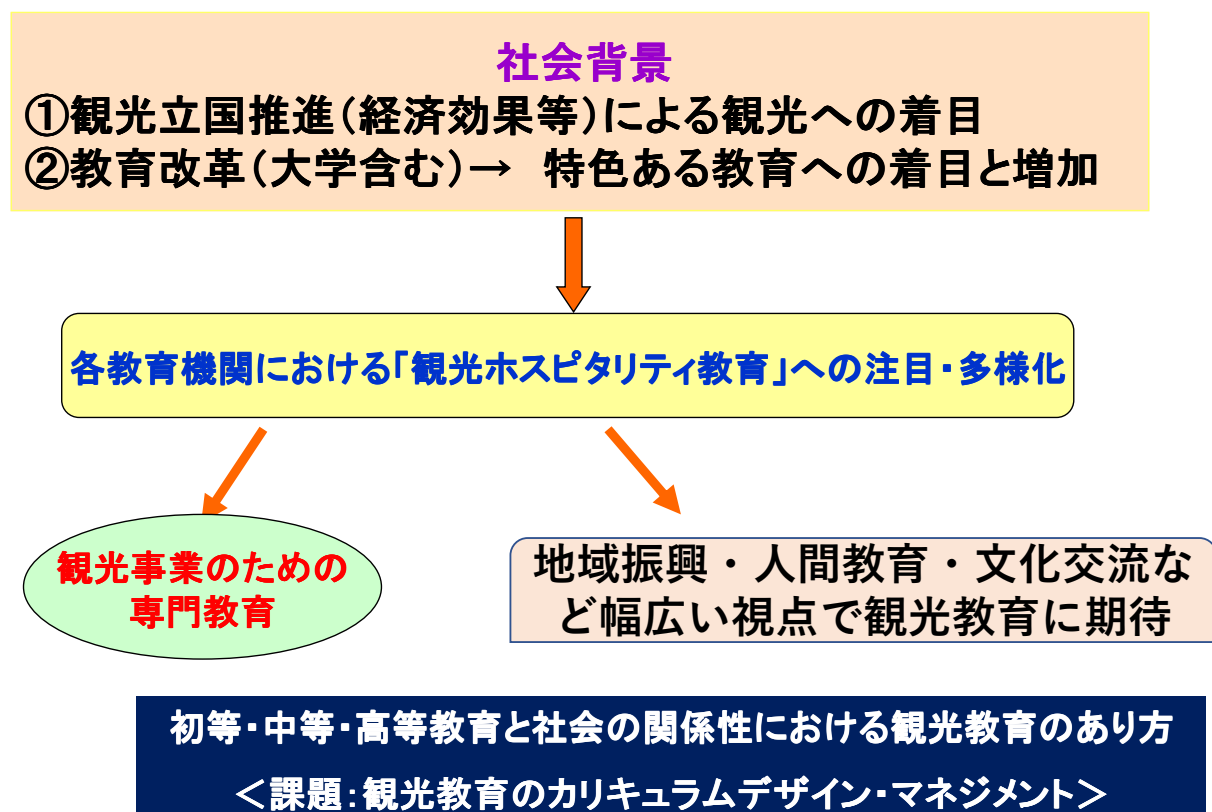
—高等学校を主として—

初等中等教育における観光教育の推進に関する協議会資料
2020.10.2(金)

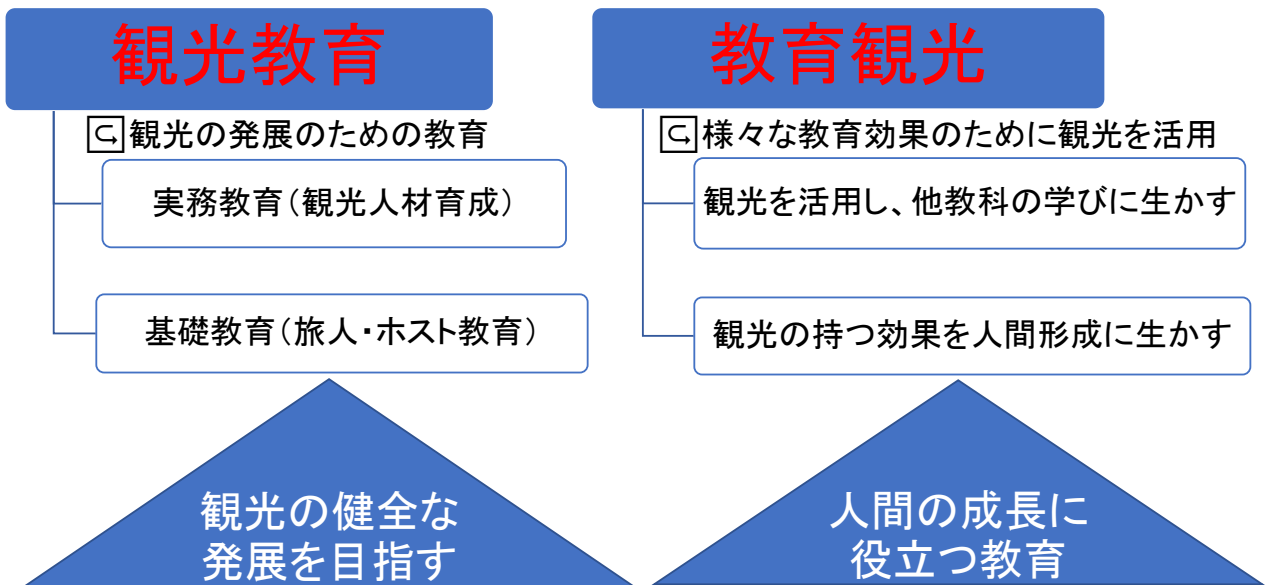
日本大学 国際関係学部 矢戸 学

1

1. 観光立国推進と観光教育の広がり



2. 観光教育とは何か



**観光教育・人材育成・教育観光は混同して論じられる
しっかりとした視点から、それぞれを考えることが必要**

3

3. 観光と教育の研究の変遷

●観光における人材育成や教育議論の変遷(宍戸2002より更新)

1960年～1970年代

消費者教育という視点で、余暇と教育、観光場面での道徳やマナー教育などが議論されている

1980年代

観光地づくりと関連して組織づくりや人材の問題に発展した(リゾート法を背景に広がる)

1990年代

大学や高校などの教育機関で地域・産業界の観光課題と人材育成の議論が活発化してくる

2000年代

観光立国とインバウンドへの対応開始、観光関連組織の改編と人材育成の議論、観光系大学の急増による観光教育への注目が向上

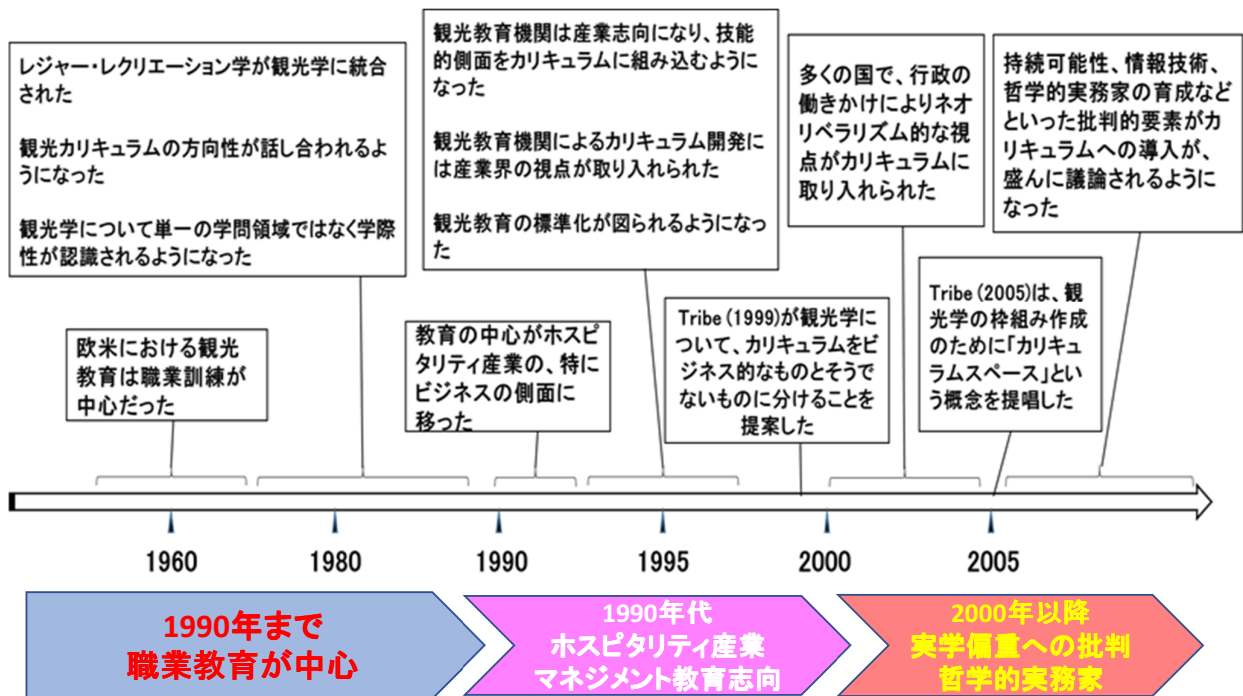
2010年代から未来へ

観光教育の質的転換の議論、中核的人材と高度人材の育成、観光教育の一般化などへと議論が深化

日本の観光教育の歴史(抜粋)	
1930年	富士屋ホテルトレーニングスクール(企業内教育)
1935年	東京YMCAホテル専門学校(教育機関での教育)
1946年	立教大学で「ホテル講座」が開講(富士屋ホテル山口正造氏の寄附)
1963年	東洋大学短期大学観光学科開設 → 2001年には大学の国際観光学科へ
1967年	立教大学「社会学部観光学科」開設 (四年生大学として日本初)
1980年	鹿児島城西高校に国際ホテル科 *高校の観光教育のスタート
1980-90年代	バブル期に全国に観光系学部学科が設置 *観光系大学の増加 → その後閉鎖等も続き、一時低迷
1998年	立教大学観光学部観光学科・観光学研究科開設 →2006年「交流文化学科」開設
2002年	日本観光ホスピタリティ教育学会(JSTHE)の設立(観光教育研究唯一の学会)
2003年	政府「観光立国懇談会」を開催→観光教育関連の大学開設を示唆
2005年	国立大学に観光学科開設 琉球大学・山口大学 他
2007年	国交省『観光関連人材育成のための産官学連携検討会議』、観光庁発足で加速
2009年	・観光庁「観光経営マネジメント研修」を5大学で実施 ・高校生向けの観光振興プランコンテスト「観光甲子園」開始
2010年	文科省も「産業界と連携した観光関連大学等の職業教育の評価・認証システム構築プロジェクト」など観光人材育成に注目
2011年	観光庁主催「観光教育に関する学長・学部長等会議」 文科省「成長分野における中核的専門人材養成」に観光教育分野の事業
現代の課題	・各省庁の観光政策と人材育成事業と教育機関の観光教育カリキュラムの整合性 ・専門職大学における観光教育の可能性 ・新学習指導要領 高等学校商業科「観光ビジネス」(2022年から)の今後

矢野(2018)JSTHEシンポジウムより

○観光教育カリキュラムの歴史的変化(世界の動向)



観光カリキュラム発達の過程と契機 (田中、矢野、他 2016)
(Wattanacharoensil 2013より引用和訳)

4. 高等学校の観光教育研究

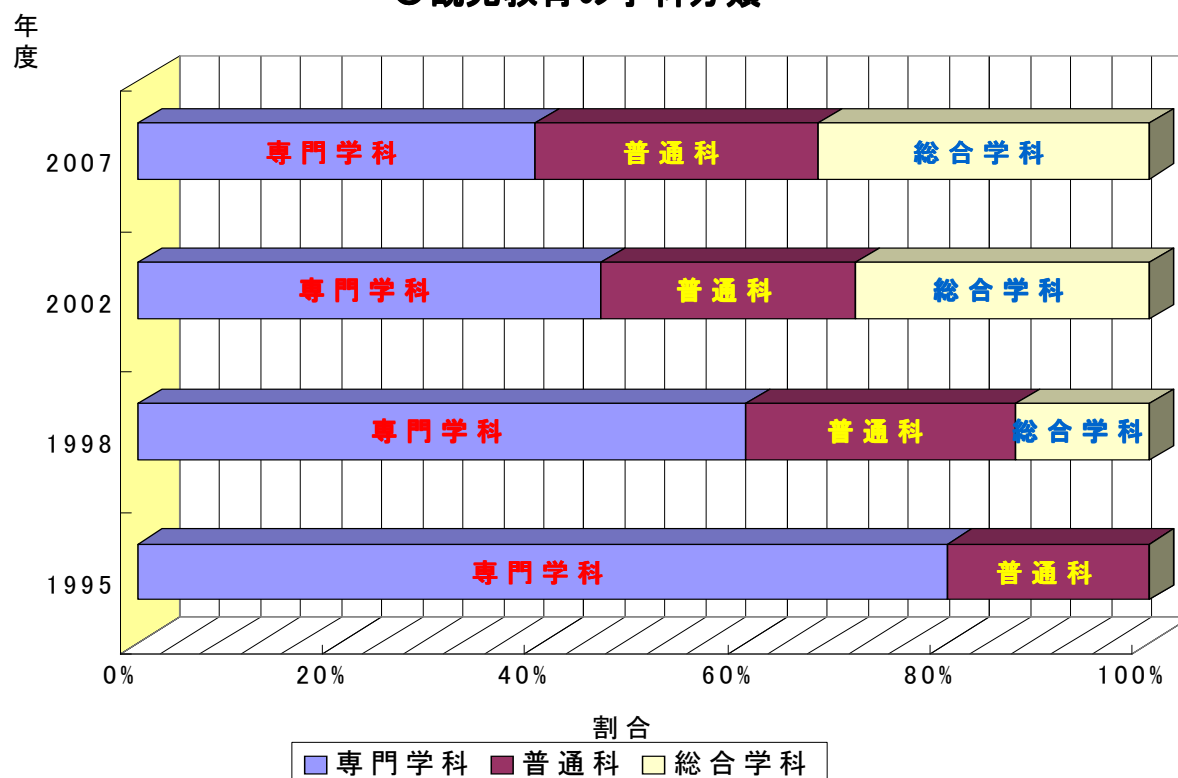
○高等学校の観光教育の変遷

1966年	京都市立西京商業高校 貿易観光類型「 観光論 」→国際文化都市京都を考える
1980年	私立 鹿児島城西高校「 国際ホテル科 」開設 → 観光の専門人材育成のスタート
1988年	沖縄県立浦添商業高校「 国際観光科 」開設 → 公立学校に波及
1989年	北海道ニセコ高校「 農業科観光リゾートコース 」 → 緑地観光科観光リゾートコース
1990年	<ul style="list-style-type: none"> 群馬県立長野原高校「普通科観光コース」開設 三重県立宇治山田商業高校「国際学科リゾートコース」開設 兵庫県立洲本実業コース「国際リゾート科」開設 愛媛県立新居浜商業高校「サービス経済科リゾートコース」開設 熊本県立阿蘇高校「国際観光科」開設 *現在は継続していない学校が多数
1994年	新学習指導要領「 総合学科 」設置、観光類型や普通科コースが見られ、増加する
1995年	全国高等学校観光教育研究大会(準備会)が北海道ニセコ高校で開催
1996年	全国高等学校観光教育研究協議会発足 第1回観光教育研究会をニセコにて開催 *これ以降、継続して観光教育を議論する場が出来た(ただし広がっていない課題)
2003年	新学習指導要領「 総合的な学習の時間 」設置・「 学校設定教科・科目 」の開設
2009年	神戸夙川学院大学「第1回観光甲子園」を開催、以降高校生向けコンテストなど増加
2010年以降	文部科学省の観光人材育成事業において、高校の観光教育の取り組みが採択 <ul style="list-style-type: none"> 中核人材 石川県金沢商業高校 (2014~2016年度) SPH(スーパープロフェッショナルハイスクール) 札幌啓北商業高校(2017~2019年度)
2018年	新学習指導要領 商業科 「 観光ビジネス 」が開設 →2022年より年次進行で導入

矢野(2018)JSTHEシンポジウムより

7

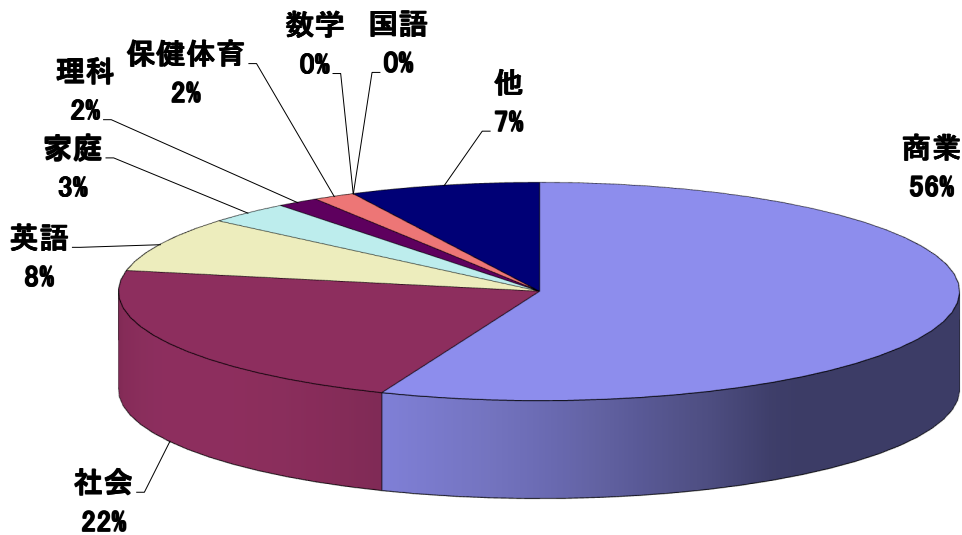
○観光教育の学科分類



矢野(2009・科研費)より

8

○観光教員担当の専門(保有免許)



専門外の担当であること。尖戸(1998)と比較すると社会科の割合が増加

<例:商業66%→56%、社会 8%→22%>

地域課題への注目や学習指導要領の改訂変化などから、社会科(地理)からのアプローチが増えてきた

尖戸(2009・科研費)より

9

○観光教育カリキュラム編成の傾向(2009)

科目群	単位数	実施校数	実施率	科目名の例
観光基礎理論分野	1~4	32	72.7%	観光一般、観光概論、旅する人の観光学
観光ビジネス分野	1~4	15	34.1%	観光ビジネス、観光実務、観光経営
郷土・地理分野	1~4	16	36.4%	観光地理、海外観光地理、郷土の理解
観光関連法規分野	2~3	5	11.4%	観光法規
旅行業分野	2~4	8	18.2%	旅行業務、旅客営業、ツアープランニング
ホテル業分野	2~4	7	15.9%	ホテル概論、ホテル実務、ホテルビジネス
観光振興・政策分野	2	3	6.8%	エコツーリズム、観光とバリアフリー、観光振興
語学分野	1~10	7	15.9%	観光英語、中国語、オーラルコミュニケーション
観光事務情報分野	2~4	8	18.2%	観光情報、トラベル情報、Webデザイン
マナー・コミュニケーション分野	2	2	4.5%	サービスマナー、コミュニケーション
実践・演習分野	1~4	11	25.0%	観光実践、観光実習、旅行業演習など

尖戸(2009・科研費)より

10

○高等学校における観光教育の4類型

宍戸(2009・科研費)をもとに加筆修正

<p>(1) 専門学科・コースタイプ</p> <p>■単位数 12～24程度</p> <p>職業(専門技能)を意識した専門教育 (例) ホテル等のインターンシップ プロジェクト学習、資格取得 地域との連携強化による活動 地域ガイド、さまざまな取り組み</p>	<p>(2) 総合学科・選択タイプ</p> <p>■単位数 8～16程度</p> <p>キャリア(進路・職業観)を意識した観光教育 自由選択と類型必須の2つの運営状況 (例) ・旅行業務取扱管理者 国内・総合 合格 ・地域資源発掘・プラン企画</p>
<p>(3) 学校設定科目タイプ</p> <p>■単位数 2～4程度</p> <p>『教養』『観光の一分野』に焦点化 例:私立大学付属高校A『旅する人の観光学』 私立大学付属高校B:観光学部をもつ 『観光が創る新しい社会』</p>	<p>(4) 総合学習・課題研究・その他</p> <p>■単位数 2～8程度</p> <p>既存科目や課題研究・総合学習活用 (例)多くの学校に見られるが、把握が困難 ・地域素材の発見、マーケティング ・修学旅行との連携 ・プロモーション活動</p>

「観光ビジネス」を開講する場合に、どう位置づけるか

11

5. 新学習指導要領における観光ビジネスの概況

(1) 高校の新学習指導要領

2018年3月公表 → 2022年度 実施(年次進行)

(2) ポイント

①商業科目以外にも「キーワード“観光”」は地理歴史・農業の学習テーマにも含まれている

②商業科「観光ビジネス」は

- 1)基礎的分野 2)総合的分野 3)マーケティング分野
4)マネジメント分野 5)会計分野 6)ビジネス情報分野

のうち、「マーケティング分野」に新設

③その他の科目(ビジネス基礎・ビジネスコミュニケーション等)にも観光・まちづくり等が入ってくる見込み

商業分野の「観光ビジネス」教育と他教科の観光教育の違い
小学校・中学校の観光学習との違い

観光ビジネス(1)

1 目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

13

観光ビジネス(2)

2 内容

1に示す資質・能力を身に付けることができるよう、次の〔指導項目〕を指導する。

〔指導項目〕

(1) 観光とビジネス

ア 観光ビジネスの特徴 イ 観光ビジネスの動向

(2) 観光資源と観光政策

ア 国内の観光資源 イ 観光資源の保護と保全 ウ 観光政策の動向

(3) 観光ビジネスとマーケティング

ア 観光ビジネスの主体 イ 観光ビジネスにおけるマーケティングの特徴

ウ 顧客の理解 エ 顧客サービス

(4) 観光ビジネスの展開と効果

ア 観光振興とまちづくりとの関係 イ 観光に関する地域の課題

ウ 地域の活性化

幅広い学習範囲

14

観光ビジネス(3)

3 内容の取扱い

(1) 内容を取り扱う際には、次の事項に配慮するものとする。

ア 観光ビジネスの動向・課題を捉える学習活動及び観光ビジネスに関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し、考察や討論を行う学習活動を通して、企業で行われている観光ビジネスについて理解を深めることができるようにすること。

イ 観光ビジネスに関する理論を実験などにより確認する学習活動及び観光ビジネスに関する具体的な課題を設定し、科学的な根拠に基づいて観光の振興策を考案して提案などを行う学習活動を通して、観光ビジネスに適切に取り組むことができるようにすること。

多様な
学び方

15

観光ビジネス(4)

3 内容の取扱い

(2) 内容の範囲や程度については、次の事項に配慮するものとする。

ア〔指導項目〕の(1)のイについては、観光に関する消費行動の変化による観光の多様化などについて扱うこと。

イ〔指導項目〕の(2)のウについては、観光振興の組織についても扱うこと。

ウ〔指導項目〕の(3)のアについては、観光ビジネスの各主体に関して、役割や業務などの概要及び関連する法規の概要について扱うこと。エについては、観光ビジネスにおけるホスピタリティの概念と重要性、観光ビジネスにおける接客方法と接客マナーなどについて扱うこと。また、緊急時の対応体制の構築など安全管理についても扱うこと。

エ〔指導項目〕の(4)のアについては、観光の振興と地域社会におけるまちづくりとが連携することの意義及び観光需要や観光目的に対応したまちづくりについて扱うこと。

社会との接点

16

6. 学習指導要領解説より『観光』のポイント①

1. 教育内容の改善・充実

観光立国の流れ→観光に関する知識と技術を習得させ、観光の振興に取り組む態度を育成する学習の一層の充実(p10)

2. マーケティング科目の中での位置づけ

・地域の活性化を担うよう、観光ビジネスについて実践的・体験的に理解し、観光ビジネスを展開するために必要な資質・能力を育成する視点から「観光ビジネス」を新たに設けた(p12)

3. 課題研究:指導項目

(1) 調査, 研究, 実験→プロモーション及び観光の振興に関する内容を主とした調査, 研究, 実験(p31)

(2) 作品制作→観光ガイドブックの制作(p31)

(3) 産業現場等における実習→観光などのサービス(p31)

(4) 職業資格の取得→旅行業務取扱管理者(p32)

17

4. 総合実践

・マーケティングに関する実践→様々な観光に関する学習(p35)

5. ビジネスコミュニケーション

・ビジネスの会話→観光案内(p45)

6. 指導計画作成にあたっての配慮事項

・地域や産業界等との連携・交流

→観光関連の地域ビジネスの人材育成(p171)

他の商業科目との連携や課題研究・総合実践など
における学習の取り組みにうまくつなげる

18

7. 「観光ビジネス」の授業をどう進めるか

- 1.平成30年7月に文科省が公表した学習指導要領解説(もしくは解説に準じるもの)をもとに、**科目の意義と狙いを理解**する
- 2.学習内容が非常に広範囲なので、**何をどこまで教えるのか**検討し、**単位数**等を検討する。
- 3.他の科目との関係を整理し、**観光教育導入の目標を設定**する
- 4.**教科書や教材の選定**:検定教科書?関連教材をどうするか?
- 5.**教員の研修**及び指導に関する**情報交換**などの機会設定
- 6.**外部との連携や接続**をどうはかるか:地域・企業・大学等
- 7.その他、教育を導入・推進するうえで関連する事項

各学校で解決は難しい。学校間の連携や大学・企業との連携

19

有効な手法

1. **高大連携や高大接続による授業・研修機会の創出**
→観光教育に本当に詳しい研究者との連携
2. **既存の教科書・専門書を活用**
→JTB総合研究所「観光学基礎」、その他専門書が増えている
→初等・中等教育の観光教育をサポートする動き
3. **国や地域、大学、高等学校等の研究事業の成果を利用**
例:文科省事業(大学、高校事業)、観光庁、地方創生カレッジほか
4. **高校生向けの観光関連コンテストなどの発表の場の活用**
例:全国高等学校グローバル観光コンテスト「観光甲子園」
高校生外国人おもてなしアイデアコンテスト(神奈川) 他
5. **様々な観光の専門情報を教員自ら入手**
 - ・観光白書、各種調査などからデータを入手、分析
 - ・新聞記事(特に日経)やテレビ番組から観光動向を把握する
 - ・各種研究会や学会などの参加も有効 ほか

(参考資料)全国高等学校観光教育研究協議会

全国高等学校観光教育研究協議会と夏期全国大会の変遷

	開催年	テーマ	開催地	事務局校
準備会	1995	今後の観光教育研究会の推進について	北海道	ニセコ
第1回	1996	高等学校における観光教育をどう進めるか	北海道	ニセコ
第2回	1997	観光教育の理念を確立しよう	広島	西城商業
第3回	1998	観光教育の理念を確立しよう	三重	宇治山田商業
第4回	1999	観光教育の理念を確立しよう	兵庫	洲本実業
第5回	2000	観光教育の課題と展望～教育課程のあり方を考える	沖縄	浦添商業
第6回	2001	観光教育の課題と展望～教育課程のあり方を考える	福島	猪苗代
第7回	2002	観光教育の課題と展望～教育課程のあり方を考える	栃木	那須
第8回	2003	観光教育の課題と展望～地域の観光資源を活用した教育～	北海道	留辺蘂
第9回	2004	魅力ある観光教育を目指して～時代のニーズに対応した観光教育の探求～	高知	伊野商業
第10回	2005	魅力ある観光教育の推進～ホスピタリティマインドの育成～	佐賀	嬉野
第11回	2006	魅力ある観光教育の推進～観光教育に求められるものを考える～	青森	十和田西
第12回	2007	魅力ある観光教育の推進～新たな観光教育のビジネスの創造～	熊本	阿蘇
第13回	2008	魅力ある観光教育の推進～観光系科目の実践的指導法の研究～	栃木	那須
第14回	2009	新時代における観光教育のあり方～郷土の魅力を生かす観光教育～	和歌山	貴志川
第15回	2010	新時代における観光教育の在り方～地域で育む観光教育～	福島	猪苗代
第16回	2011	外国人観光客の誘致に向けたインバウンド教育を考える	高知	伊野商業
第17回	2012	新時代における観光教育の在り方～グリーンツーリズムと観光教育	北海道	ニセコ
第18回	2013	新時代における観光教育の在り方～地域を元気にする観光教育～	島根	松江女子
第19回	2014	新時代における観光教育の在り方～地域を元気にする観光教育～	岐阜	益田清風
第20回	2015	魅力ある観光教育の在り方～地域と協働し、産学官で紡ぐおもてなし～	佐賀	嬉野
第21回	2016	地方創生に向けた観光教育の在り方～観光教育による地域リーダーの育成～	宮城	松島
第22回	2017	地方創生に向けた観光教育の在り方～将来のリーダーを育成する地域学習～	三重	鳥羽
第23回	2018	地域の観光資源を活かした観光教育の在り方～地域を支える観光人材育成に向けて～	石川	金沢商業
第24回	2019	地域と世界をつなぐグローバル観光教育の在り方～地域を支えるグローバル人材育成～	徳島	徳島商業
第25回	2020	地域社会とともに創る観光教育の在り方(全国大会中止→ネットミーティング実施)	北海道	ニセコ

**1995年ニセコ高校の提案で準備会→1996年第1回研究大会 *以降毎夏に全国大会
高校の観光教育の充実と発展を目指す(運営体制、参加者の顔ぶれ)**

■高校生参加の「観高サミット」も開催(2012年～ 例年12月 事務局近隣の大学開催)

◆参考資料

本資料は、「令和1年度及び2年度の全国高等学校観光教育研究大会配布資料」を基に再構成した。

- 宍戸学(2002)、観光研究の“副層性”と観光教育のパラダイムに関する考察、立教大学観光学研究紀要第4号、71-74
- 田中敦、宍戸学、市岡浩子、栗原美紀、郭玲玲(2016)、グローバル化する社会に対応する日本型観光教育モデルに関する考察、日本観光ホスピタリティ教育学会第15回全国大会発表論文集、49-60
- 宍戸学(2009)、高等学校における総合的な学習の時間における観光教育のカリキュラム研究、(有)くんぷる、1-124
- 宍戸学(2014)、学習型観光を利用した教育観光のフレームワーク研究、(有)くんぷる、1-63
- その他

◆補足事項

- 別紙配布のリーフレット「観光学はおもしろい」は、「(株)JTB能力開発(現在は(株)JTB総合研究所)の協力で定期開催していた「児童生徒のための観光教育推進研究会」が2008年ごろ作成し、観光教育の普及に向け関係各所に配布したものである。
- 現在、観光教育について継続的に研究・議論する学会としては「日本観光ホスピタリティ教育学会(2002年設立)」がある。高大連携の議論は増えてきたが、小中の事例は少ない。

日本観光ホスピタリティ教育学会ウェブサイト <http://jsthe.org/>

観光学Q&A

Q 「観光に関する学科」は、観光学部や国際学部など、いろいろな学部があるようですが、何が違うのですか？

A 観光とは、さまざまな社会現象と関わりますので、経済学、経営学、商学、民俗学、心理学など、さまざまな学問から解明していく必要があります。そこで、**それぞれの大学の学部の目指す方向性によって、観光への学問的なアプローチが異なるのです。**

Q 観光の専門学校と大学の違いは何ですか？

A 専門学校は、主として観光ビジネス現場で必要とされる接客サービスの知識やスキル(技術)を学び、「即戦力」を育てることが目的です。そのために、資格取得やインターンシップを中心に実務を学びます。大学は、実務もさることながら、観光に関するさまざまな理論についてを学ぶとともに、観光に関する問題発見能力、創造性を養うことも期待されています。

Q 観光学は文系ですか？

A **一般的に文系で、社会科学分野だといえます。**しかし、すでに述べた通り、さまざまな方法での研究が行われています。たとえば「観光地づくりの計画」は、理系一都市計画、都市デザイン分野からのアプローチも必要とされています。

Q 観光学を学ぶことで、どのような学力が身につきますか？

A 観光は人と接することが基本ですから、まず対人能力・コミュニケーション能力が身につきます。さらに世界が舞台となることから、英語などの語学力、地理や歴史に関する知識も学びます。経済・経営分野では、統計や分析能力も必要となるので、数学や情報処理能力も求められてきます。他の学部・学科と同じように**基礎的な学力を身につけた上で、観光の専門性を修得できるのです。**

Q どんな進路がありますか？

A 観光分野への就職実績は高いといえます。最近では国や自治体が観光の振興に力を入れているので、観光産業界の発展が期待されています。また、観光を学ぶことの強みは、対人関係で最も重要な「ホスピタリティ(=もてなしの精神)」が身につくことです。現在は、観光に限らずいろいろな業界・会社がホスピタリティ能力を重視する時代です。こうしたことから、**観光業界はもちろん、その他のサービス企業や公務員、教員など観光分野以外への幅広い就職にも十分対応できるようになっています。**

〈無断転載を禁ず〉

企画：児童・生徒のための観光教育推進研究会

観光学とは？

観光学を学ぶ意味は
個人の経験から
学問としての学びへ

観光は、多くの人が子供の頃から家族旅行や友達との旅行、修学旅行などで経験していると思います。したがって、誰でもその経験に基づいて、観光に関することはイメージできるのです。しかし、それは個人の経験に限られ、より深く考えることは難しいでしょう。そこで、観光に関する幅広い専門知識を修得し、考える力を養うには、やはり「学問」として観光を体系的に学ぶことが必要です。

観光学は学びの間口が
広いことが特徴

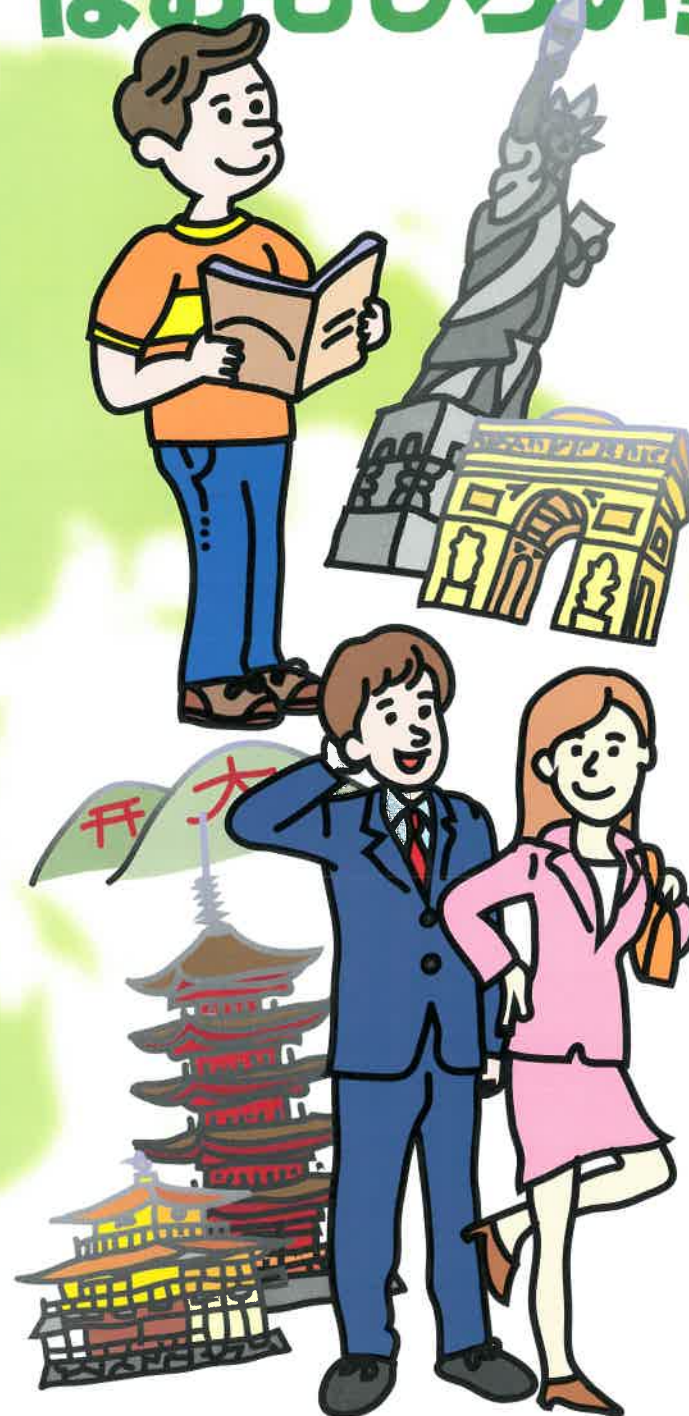
観光学は観光という社会現象について研究する学問です。観光を楽しむ立場、観光ビジネスを営む立場、観光を通して地域の活性化を図る立場など、さまざまな視点から学ぶことができます。観光学は「学びの間口が広い」ことが特徴といえます。観光を学ぶ大学の学部・学科もさまざまあり、皆さんの好奇心に応えてくれるでしょう。

観光について学ぶ意味

私たちが住んだり訪れる国や地域が多様な魅力を持つこと、そこで楽しみそして出会う人々と交流することは、人生を豊かにしてくれます。その実現のためには、「何が必要か」を発見し、「そのために何をすべきか」について創造的に考える力を養い、身につけることです。観光を学ぶ最大の面白さはここにあります。観光学は、豊かな社会と自らの人生の充実を求めるために、どのようなキャリアを得て、どのような人生を送るべきかを考えるきっかけを与えてくれるでしょう。

21世紀の成長産業を学ぶ

観光学 はおもしろい!

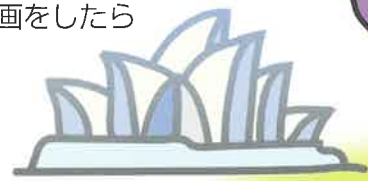


観光学にまかせなさい!

観光学で何を学ぶか?

大学での観光学テーマ(一例)

- 自分の住む街に観光客を集めるには、どうすればよいのだろうか?
- 知床や屋久島など世界自然遺産では、観光客の増加と環境問題をどのように考えるべきだろうか?
- 何度も泊まってみたいホテルって、どんな魅力があるのだろうか?
- 外国人観光客を日本に呼ぶためには、なにをすべきだろうか?
- ディズニーランドなどの大型集客施設成功の秘訣は何だろうか?
- 観光体験を活かした地理や英語の授業は、どのようなものが考えられるだろうか?
- 平和な社会を実現するために、観光を通じた国際交流をどのように進めるべきだろうか?
- 高齢者や障がい者も観光を楽しむためには、どうすればいいのだろうか?
- 人が旅に出たくなる旅行雑誌やテレビ番組ってどのようなものだろうか?
- 新幹線ができると、観光地はどう変わるのだろうか?
- 観光で地域の経済を活性化させるには、どうしたらよいだろう。
- 観光に関するトラブルは、どのように解決したらいいのかな?
- 観光を視点に都市計画をしたらどうなるの?



日本経済に貢献する ツーリズム産業

旅行消費額 23.5 兆円・雇用効果は 441 万人

旅行総消費額 (国内産業関連) 23.5 兆円



2007 年度の旅行消費 23.5 兆円がもたらす経済波及効果を産業連関表によって推計すると、生産波及効果で 53.1 兆円、付加価値効果で 28.5 兆円という規模になる。また、雇用効果は 441 万人で、我が国の 6.9% を占めている。



観光学の特徴

- 大学の観光学の講義では、自分のキャリアに結びつく知識と技能を学び、資格取得も可能です。
- ホテル、空港、テーマパークなどフィールドワーク(現地学習)に出かけ、現場で働く人々から直接学ぶことができます。
- 国内、海外の観光地へ実際に出かけ、教授たちとともに現地調査や研究活動をおこないます。
- ホテルや旅行会社、航空会社などの観光関連企業での就業体験を通して、観光業務を身につけます。
- 観光関連企業と連携し、新たな商品作りの提案や宣伝を手がけます。
- 現地調査やフィールドワークなどの研究活動を通じて、体験的にコミュニケーション能力やホスピタリティを獲得できます。



旅行消費額 23.5 兆円・雇用効果は 441 万人

旅行総消費額 (国内産業関連) 23.5 兆円

直接効果	波及効果	日本経済への貢献度
付加価値 11.8 兆円 (GDP の 2.3%)	生産波及効果 53.1 兆円	5.6%
雇用 211 万人 (全雇用の 3.3%)	付加価値効果 28.5 兆円	5.5%
	雇用効果 441 万人	6.9%
	税収効果 5.1 兆円	5.4%

2007 年度の旅行消費 23.5 兆円がもたらす経済波及効果を産業連関表によって推計すると、生産波及効果で 53.1 兆円、付加価値効果で 28.5 兆円という規模になる。また、雇用効果は 441 万人で、我が国の 6.9% を占めている。

ツーリズム産業の付加価値・雇用者数の他産業との比較

●産業別に見る付加価値 (兆円)	●産業別に見る雇用者数 (万人)
電気機械 17.5	運輸・通信業 371
輸送用機械 15.1	農林水産業 323
一般機械 13.1	ツーリズム産業 211
食料品 12.6	公務 207
ツーリズム産業 11.8	金融・保険業 177
一次金属 8.8	電気機械 163
化学 7.8	食料品 155
農林水産業 7.4	一般機械 134

ツーリズム産業の付加価値 11.8 兆円は、GDP の 2.3% を占める。また、ツーリズム産業の雇用者数 211 万人は、総雇用者数の 3.3% を占めている。

旅行市場の内訳

23.5 兆円

15.3 兆円	4.9 兆円	4.3 兆円
国内宿泊旅行	国内日帰り旅行	海外旅行 (海外消費分)
1.8 兆円	1.5 兆円	
海外旅行 (国内消費分)	訪日外国人旅行	

2007 年度の旅行消費額の内訳は、国内市場が 22.0 兆円 (内宿泊旅行 15.3 兆円、日帰り旅行 4.9 兆円、海外旅行の国内消費分が 1.8 兆円)、訪日外国人市場が 1.5 兆円となっており、海外旅行における海外での支出分 4.3 兆円を含む国民の旅行消費額は 26.4 兆円と推計される。

各国の外国人旅行者受入数(2007年)

フランス	1位: 8,190万人
スペイン	2位: 5,920万人
アメリカ	3位: 5,600万人
中国	4位: 5,470万人
香港(中国)	15位: 1,720万人
ギリシャ	16位: 1,600万人
日本	29位: 834万人
シンガポール	29位: 800万人
韓国	36位: 640万人
オーストラリア	40位: 510万人

日本は前年の 30 位から 28 位に順位を上げた。

資料: 国土交通省「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」(2008年)

初等中等教育における観光教育の推進に関する協議会 資料

勝瀬典雄

関西学院大学 専門職大学院 経営戦略研究科

勝瀬典雄（かつせふみお）

現在 主に担当している業務

地域資源活用・農商工連携アドバイザー
6次産業化中央サポートセンター プランナー
主に 事業戦略・事業主体形成・商品マーケティング・販路開拓支援

総務省 地域資源・事業化アドバイザー・商工会議所 事業継続力強化アドバイザー
自治体の地域活性化政策・事業アドバイス及びプロジェクト立ち上げ

自治体 地方創生総合戦略立案支援 地域事業の検討

地域産業活性化支援 JAPANブランド構築支援プロジェクト等
産業クラスター計画マネージャー・自治体・中小企業団体中央会
商工会議所・商工会・組合・地方創生委員会・農泊推進事業 等

農水省・経済産業省・国交省・自治体・支援機関 ビジネス講座企画 講師
富士吉田市地域創生戦略本部会長・小国町白い森みらい創生委員会委員

日本感性工学会 理事 感性価値創造研究部会長・日本中小企業学会 西部部会
関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 兼任講師・
元兵庫県立大学専門職大学院 客員教授・元県立広島大学 専門職大学院 客員教授
早稲田大学アカデミーソリューション
徳島県農工商教育活性化・魅力化協議会委員

水産庁 復興水産販路回復アドバイザー

「観光人材育成を担当するに当たり実務経験」

「大学における観光教育関係」

- ・関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
「サステイナブル・ツーリズムの展開と地域創生」大同生命公開講座講師
- ・経済産業省クールジャパン政策課 早稲田大学インバウンド・ビジネス戦略研究会
「令和元年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業
(インバウンドとアウトバウンドの好循環創出に向けた調査研究)」委員
- ・関西学院大学専門職大学院(MBA) インバウンド需要に対応したMICE・地方観光人材育成プログラム
「インバウンドマネジメント担当」

「全国高等学校観光教育研究会との関わり」

全国高等学校観光教育研究大会 令和元年全国大会セッションコーディネータ担当
徳島商業高等学校におけるスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール委員と
して高等学校教育に関わると共に、現在、徳島県教育委員会の徳島県農工商教育活性化・魅力化協議会の委員として実業高等学校教育の検討会に参画している。

「国土交通省・自治体との DMO地域活性化と観光振興の取組」

- ・兵庫県淡路市を拠点とするDMO候補「一般社団法人瀬戸内海島めぐり協会」において、DMOとしての観光振興策の事業企画を兵庫県知事及び観光監に提案をまとめ予算化、台湾の旅行事業者に対して誘客ダイレクトアプローチを実施、小規模台湾旅行事業者とチャンネルを繋ぐ取組を実施
- ・「国土形成計画(全国計画)」推進のための研修会「地域発イノベーションの創出(海外展開を見据えて)」

「農林水産省 農山漁村振興交付金(農泊推進)事業関係」

- ・関東農政局関東ブロック都市農村交流会 農泊推進事業 講師
- ・岩手県農泊推進事業企画・コーディネート オーストラリアチャンネルコーディネート
- ・栃木県農泊推進事業企画・コーディネート 都市農村交流促進で都市圏高等学校合宿誘致
- ・山形県農泊推進事業企画・コーディネート 台湾・インドネシアに関するアプローチ戦略支援
- ・栃木県農泊推進事業企画・コーディネート イギリス・台湾からの誘客戦略と現地サポート

「アウトバウンド・インバウンド戦略企画・推進」

- ・富士吉田市繊維産業と北欧デザイナーとのマッチング企画・推進・コーディネート
- ・足利市繊維産業とフランスの有名ブランドメーカーとのチャンネル開発・企画・推進
- ・島根城下町食文化研究会 ジャパンブランド育成支援事業 企画・推進フランスマーケット・チャンネル開発
- ・栃木県特産品塗り壁材「三位一体」海外市場展開研究会 ジャパンブランド育成支援事業企画・推進
ベトナムホーチミン市場にチャンネル開発アプローチ・チャンネル開発
- ・広島県 ジャパンブランド育成支援事業企画・サポート ベトナムマーケット
- ・徳島商業高等学校の取り組むJICAカンボジア支援の一環として日本友好学園卒業生によるカシューナッツ
ヤシ砂糖等の日本マーケットへの展開を支援
- ・白馬村のオーストラリアを中心としたスノーリゾートの取り組み調査

海外業務での事業対象国

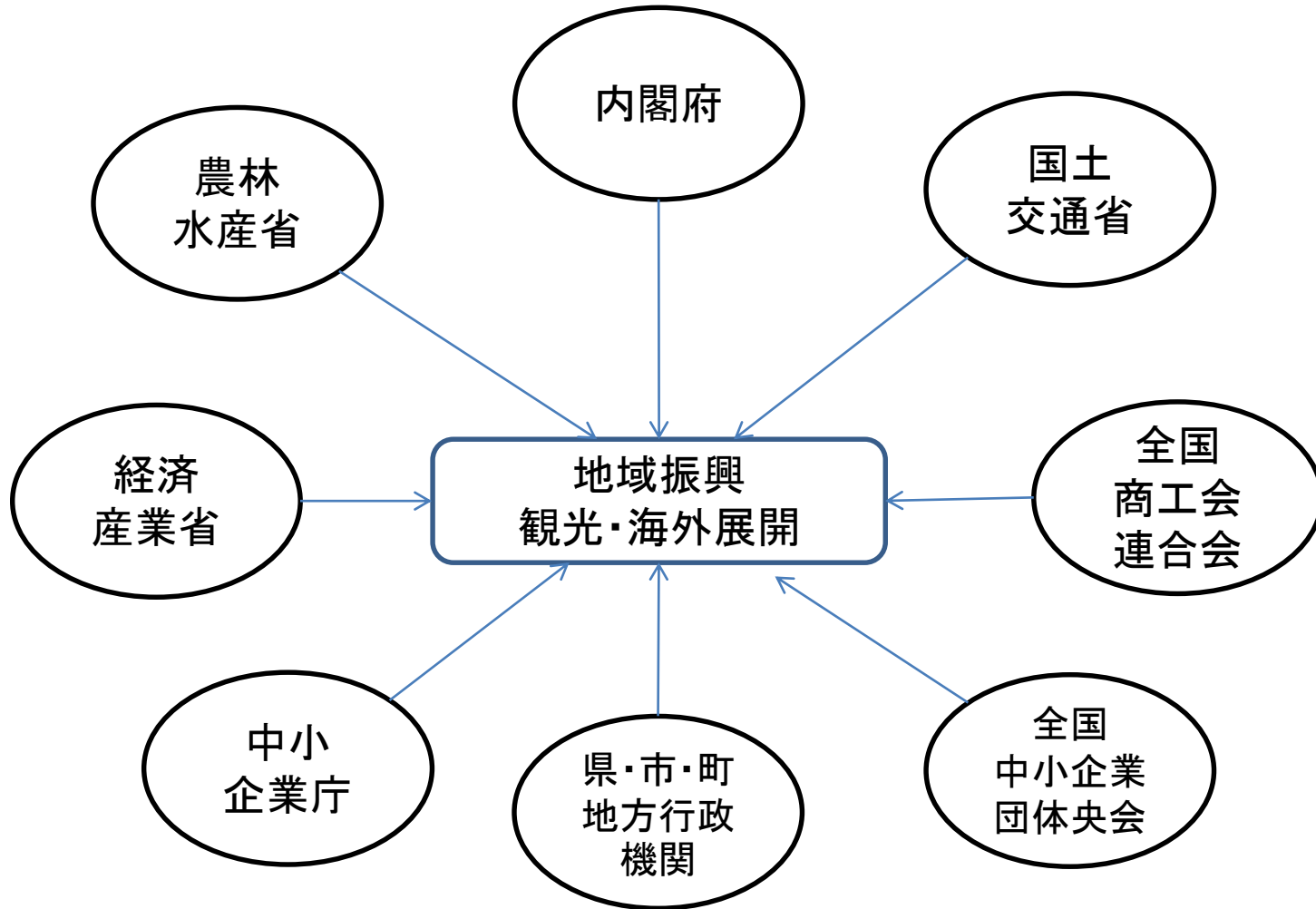
- ・スウェーデン(ストックホルム)・フランス(パリ)・オーストラリア(シドニー)・アメリカ(ワシントン・ニューヨーク)・台湾(台北)・ベトナム(ホーチミン)・カンボジア(プノンペン・シュムリアップ)

各地の地域内連携
広域連携事業の仕組み作り

連携体・企業組合・協同組合の取組及び
中小企業事業支援



地方創生・インバウンド・アウトバウンド・都市と農村の共生・対流促進等
国・地方自治体・経済団体などが求めている観光人材



「観光産業における人材育成事業」

課題認識：

観光産業を牽引する経営人材や新たなビジネスを創出できるトップレベルの人材、地域の観光産業の中核を担う経営者等の人材の不足（質の不足）インバウンドをはじめとする増加する観光客に対応する現場人材の不足（量の不足）

具体的には、観光産業の担い手を3層構造により育成・強化。

- ①我が国の観光産業を牽引するトップレベルの経営人材の育成
- ②地域の観光産業を担う中核人材の育成
- ③観光産業の即戦力となる実務人材の育成

産業界のニーズを踏まえた観光人材育成事業の実施

我が国の観光産業を牽引する
トップレベルの**経営人材**

⇒平成30年度「観光MBA」の設置・開学

地域の観光産業を担う**中核人材**

⇒全国の複数大学において、宿泊業等の経営力強化のための社会人向け講座を実施

即戦力となる現場の**実務人材**

⇒インターンシップ調査やホスピタリティ向上のためのワークショップを開催

観光産業のトップ・中核人材育成 (質の不足への対応)

- ① 我が国の観光産業を牽引する
トップレベルの経営人材の育成



- ② (1)地域の観光産業を担う
中核人材の育成



- (2)歴史的資源を活用した
観光まちづくりの担い手支援・育成

活躍できる実務人材の育成 (量の不足への対応)

- ③ 観光産業の即戦力となる
実務人材の育成



初等・中等・高等・大学・大学院における観光人材育成のフレームワーク

教育における観光人材とはどのような幅広い人材を育成するのか
ビジョンを示す

大学院／専門職大学院

ほぼ就職

どのような社会・産業界に
貢献できる観光人材か

一部進学

大学／専門学校

ほぼ就職

どのような社会・産業界に
貢献できる観光人材か

進学

普通科高等教育
専門高等学校

一部就職

どのような社会・産業界に
貢献できる観光人材か

進学

初等・中等教育

義務教育における基礎教育
で学ぶ観光教育とは

観光学習の魅力と課題

成蹊小学校 内川健

1. 観光学習の魅力と課題（○成果 △今後の課題）

- 地域を理解するための魅力や課題の発見，地域の特色や課題を総合的に理解していく学習ができる。
- 観光という視点の導入は，その地域がどう変容していくのか(してきたのか)を他の要素と関連付けながら考察することができる。
- 観光は子ども達の関心が高く，観光の視点を取り入れると，社会科の授業がより活性化することができる。
- 観光に起因する社会問題や利害関係，価値対立する諸問題は，子ども達の選択・判断する力を養う機会につながり，地域や社会の見方・考え方を育むことにもつながる。
- △子ども達にどのような能力を付けさせたいのか，どのような力が育めるのか，特に育成すべきコンピテンシーについての研究と検証がさらに必要である。
- △観光に関わる人達(観光協会，旅行会社，観光客，住民)とのネットワークの構築があると取り組みやすい。

2. 実践事例①『ESDの観点を踏まえた観光学習』

地域社会に内在する観光問題を持続可能な観光の実現という視点で考察することを通して，持続可能な社会の形成者として求められる資質・能力の育成に寄与する授業開発を行った。小学校第5学年「環境を守る わたしたち—持続可能な観光と街づくり—」の単元を構想した。観光公害の問題が報告されている世界遺産登録地域を事例として，その実態と原因及び社会的・経済的・環境的な側面の影響について調べる。その上で，持続可能な社会や地域の発展をめざした施策の妥当性について価値判断する学習である。本単元は観光公害に着目し，観光がもたらす正負の影響に関する認識と持続可能な観光を実現するための方策について考えさせる単元構成とした。

単元の第一次は，観光産業の重要性の認識を行う学習を行った。特に現代観光の現状認識と，経済活動としての観光産業の重要性を認識させる学習である。インバウンドの現状と外国人観光客の観光動向の把握を行い，訪日外国人観光客が急増している現状を把握した。その上で，世界遺産に登録されている「白川郷荻町地区」を事例地として取りあげ，現在生じている問題の事実とその原因及び社会的・経済的・環境的側面からの地域への評価及び考察を行った。児童は，白川郷荻町地区が世界遺産に登録されたことで，経済効果や知名度が高くなったことを認識した。一方で，観光客の増加は，伝統的な街並み景観の維持や生活環境の悪化といった問題を招いていることを理解した。観光における恩恵と損失の対立した概念の中で，児童は地域の発展や観光化の推進に対してジレンマを抱えるようになった。つまり，観光化の負の影響は地域の良さを消しかねないという問題意識につながった。

単元の第二次は，観光及び観光産業がもたらす地域への影響について考察をした。京都市内で生じている観光公害を取り上げ，観光客が京都市を訪れる目的を考え，京都市に観光客が来ることでの恩恵と損失について検討及び評価を行った。まず，児童は京都市の観光振興は，市内の人的交流や賑わいを生み出し，観光客が商店街や市の経済効果をもたらしていることについて認識した。外国人観光客の増加は路線バスの乗車に関するトラブルがあることや，食べ歩きのマナー違反，イベントの中止や落書き問題などを引き起こし，京都市を訪れる観光客が集中することで，住民の生活環境が脅かされる事実について理解した。そこで，観光公害を起こさないためにできる対応策として宿泊税の是非を問う意見交換を行い，京都市の観光の問題点やアイデアを共有する時間を設定した。

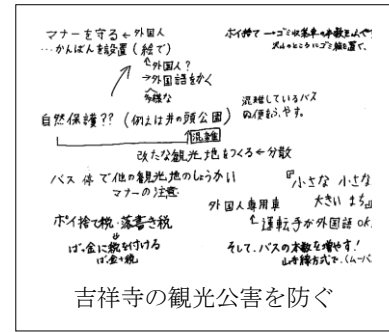
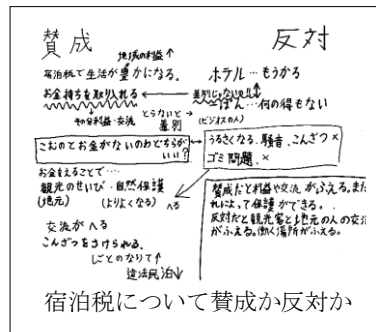
単元の第三次は，持続可能な観光のための提案の妥当性を検討する学習である。実現可能な提言を議論し合い，環境を保全してこそ将来にわたって観光開発の実現ができるという認識のもとで意見交換を行った。ここでは，本校の身近な地域である武蔵野市の観光の現状を把握して，今と未来を踏まえたまちづくりに対して提案する学習を展開した。議論を通じて，児童からは未来志向な提案や意見が

多く出された。観光客が困っていることは、むしろその地域に不足している部分であると結論付けた。市への提案として、自分たちの出来ることを含めた観光ポスターを作成した。

観光学習は、環境問題やまちづくりの学習活動としての意義も大きい。また、持続可能な観光を実現するための

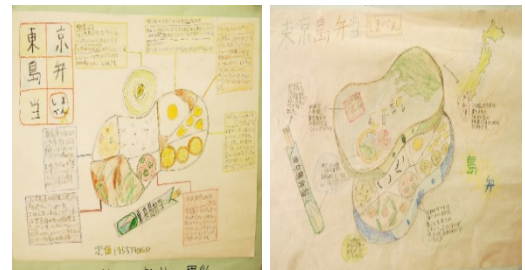
方策を提言できる能力の育成は必要な資質・能力である。観光は、恩恵と損失を含め、地域の問題、国内の問題、世界の共通する問題である。街の不足している部分に気づき提案できることや、価値対立や矛盾が学習の中で生じ、社会的な判断をもとに議論され、選択・判断をする学びにつながるということが明らかとなった。

内川健・佐藤克士 (2019)『持続可能な社会の形成者育成をめざす社会科観光学習 —イギリス地理教育「単元事例案」を手がかりにして—』サステナビリティ教育研究第1号, p13-25.



3. 実践事例②『観光を通じて地域の魅力を提案する学習』

4年生の社会科で、東京都の魅力が詰まった『駅弁』の商品開発を行う学習を行った。東京の名産品・特産品、あるいは観光的な要素などを踏まえた『東京』を学ぶ学習である。東京都の観光資源を追究して、その魅力を詰め込んだ駅弁を構想することで、観光地として見た東京の魅力を追究していった。単元の『東京の駅弁』を考える時間では、東京都の特色をパッケージ（器の形、包装紙など）と食材（主食・おかず）の観点から捉え調べていった。子ども達は、江戸東京野菜の存在に気付き、興味を持って調べた。駅弁を構想することが、結果的に東京の観光や魅力の再発見につながり、東京の様子について横断的にまとめることができた。開発した駅弁は、開発発表会を開いて保護者に旅行会社に向けてプレゼンテーションを行い提案する学習につなげていくことができた。



学習成果としては、①地域に史跡名所がなくても、食材や工芸品も含めた魅力を形にして提案していくことができること、②内容理解になりがちな学習が、地域の現状や歴史、あるいは生産者を通じた人のいる風景を通じて学習が展開できること、③観光が地域の産業や歴史、食文化などを包括するために、地域の特色や課題を総合的に理解していく学習につながるということが明らかとなった。

内川健 (2019)『小学校社会科における地域の魅力と課題を題材とした観光学習の授業開発』新地理 64 号-3 p83-85

4. 実践事例③『持続可能な社会の形成者に寄与する観光学習』

本研究は、持続可能な社会の形成者育成に寄与する観光単元を開発し、その有効性について検証することである。そのために、観光研究の最も重要な概念の一つとして捉えられているジョン・アーリの「観光のまなざし」論を援用し、小学校第5学年 単元「人気観光地！京都伏見神社の人気の謎を探れ」の授業を開発した。産業としての観光は、多様性・変動性・地域性等を兼ね備えた産業であるが故に、教科書では観光と情報技術サービスの活用が結果的に観光地にどのような影響を及ぼすのかまで考察できる内容構成が必要である。②「観光のまなざし」論を踏まえると、メディアが観光地にもたらす影響について理解させていくことは、観光の学習を展開していく上で欠かせない視点である。そのためにも、観光業そのものの特質や観光が地域に与える影響への考察は、観光地形成の概念的な理解を獲得していく上では改善の余地があること、が明らかとなった。

佐藤克士・内川健 (2020)『「観光のまなざし」論を組み込んだ社会科観光学習—小学校第5学年 単元「人気観光地！京都伏見神社の人気の謎を探れ」の場合—。サステナビリティ教育研究』第2号 p13-24. (掲載予定)

観光教育への取り組みと課題

品川女子学院 河合豊明

日本学術会議 地域研究委員会

地理教育小委員会

地図/GIS教育分科会委員

内閣府 RESAS専門委員

(地方創生・ビッグデータ活用教育)

0) 学校としての取り組み *観光教育という認識ではない

中学1年4月：校舎内スタンプラリー

*位置関係の把握と、見どころを自分なりに考察する

中学1年6月：小学生向け校舎見学ツアー

*自分なりの見どころを中心に、20分で解説

中学2年3月：京都・奈良研修とそん事前学習

中学3年6月：オリエンタルランドの方からマーケティングに関する講演

中学3年2月：ニュージーランドへの研修旅行とその事前学習

1) 中学1年社会 夏期課題：任意の1カ国へのツアープラン

ボリビア

南アメリカ

絶景! 山と湖の満足ツアー in ボリビア

Common Knowledge

常識!

面積 1098,581 km² 場所 南アメリカ
 首都 スウレ 言語 スペイン語
 通貨 ボリビアノ 1 BoB = 14.9... JPY
 人口 11,410,651人 時差 マイナス13時間

food・drink

ココア、ココアの原料となる葉で作られる新鮮なお茶。トウモロコシ、パッションフルーツ、マンゴの園のような味。エチオン・アル・オルノザ・麻油!! 舞がなくて柔らかい。<ニアハベルマ> サルテニセ... ボリビアといえど!! 中にはものが入った朝ごはん。♡

ウエニ塩湖 湖の塩を採り、ボリビアの国産

famous place

有名な場所!

<ウエニ塩湖>
 「奇跡の絶景!」「天空の鏡」と言われているウエニ塩湖は、世界最大の塩湖。大きさはなんと、青森県より大きい。11月～4月の雨季になると、表面に水が張って、鏡のように風景をうつします。朝、昼、夜ですぐたをかえて私たちを楽しませてくれますよ!

<月の谷 Valle de la Luna>
 その名の通り、地球上のもの!? と思うような光景が広がります。ゴツゴツとした岩が並び、高いところでは街も見えるのでとてもいい場所! しかも大都市から近い!

<ティワナコ遺跡>
 日本ではあまり知られていませんが、世界遺産にも登録されています。石で精巧に造られたカレンダー時計があって、よく見ると高度な文明に圧倒されます!

日次	行程	宿泊地
1日目	成田空港 → マイアミ → ラパス 約30時間	ラパス
2日目	街中歩き (スウレ)	スウレ
3日目	ウエニ塩湖 (日帰り) ウエニからマイアミバス	スウレ
4日目	月の谷 (日帰り)	スウレ
5日目	ティワナコ遺跡 (日帰り)	スウレ
6日目	ラパス	ラパス
7日目	ラパス → マイアミ → 成田	

~ポーランドの夏に出会う美味しいお菓子と妖精たち~

バルト海

コペルニクスの故郷

地動説で有名なコペルニクスの生まれ故郷

トルン

かつては北のハリビと呼ばれていた華やかな町

ワロツワフ

街角に現れる小人は約250体!? ひとつひとつに意味が!!

アウシュビッツ強制収容所

ワロツワフ ~ 世界遺産の町

世界遺産第1号 ヨーロッパで一番美しいといわれている

【旅で出会ったお菓子たち】

- オブヴァシヤネック
「オブヴァシヤネック」とは「一度茹でてから焼いたパン」の意味でその名の通り、しっとりとした歯ごたえが特徴。見た目は製法もベーグルに似ていて、ベーグルの原型という説もある。
- ポンチキ
ドーナツに似ている。甘い生地を「コンフェット」や「ホイップクリーム」を入れて油で揚げ、上に粉砂糖をかける「スリリング」で覆つて出来る。
- ピエロキ
様々な具を詰め込んだ生地を、茹でて、また焼いて作る、ポーランド風の餃子のようなもの。
- ピエルニク
トルン名物のジンジャーブレッド。

【豆知識】

ポーランドのカフェに絶対あるといわれる定番メニューのチーズケーキ(セルニック)実はポーランドはチーズケーキ発祥の地といわれている。ハイランドチーズケーキの起源は中世前期ポーランドのポドハレ地方とする説が有力で、アメリカに渡ったポーランド移民が世界中に伝えたそうです。

日次	行程	宿泊地
1日目	成田空港発 (LOTポランド航空で朝出発) ワロツワフで乗継 夕方ワロツワフ	ワロツワフ
2日目	ワロツワフ市内観光 (徒歩にて) オブヴァシヤネックを食べつつ街歩きを楽しみ、ヨーロッパに3ヶ所しか残っていないバルバカン(円形の塔)に向かい、内部を見学。ヴァグヴェル城・旧王宮にも足を延ばす。	ワロツワフ
3日目	ワロツワフからバスでアウシュビッツへ向かう。アウシュビッツ博物館とピルナ強制収容所も見学。この負の遺産から学ぶことの大きさに気付かされる。	ワロツワフ
4日目	ワロツワフからバスでワロツワフへ向かう。ポンチキを食べる。ワロツワフの観光をしながら、市内200ヶ所以上にある妖精の像を探す。	ワロツワフ
5日目	ワロツワフから鉄道でワロツワフへ向かう。ワロツワフの心臓が納められている聖十字堂教会(ワロツワフ)が初めて演奏した大管絃楽隊を見学。ワジエンキ公園で行われているワロツワフエキゾチックを見学。フルーツが入ったピエロキを食べる。ワロツワフから鉄道でトルンへ向かう。コペルニクスの生家を見学し、ピエロキの製作体験をする。	トルン
6日目	トルンから鉄道でワロツワフへ向かう。ワロツワフ発 (LOTポランド航空で日本に帰る)	機内
7日目	朝、成田空港着	

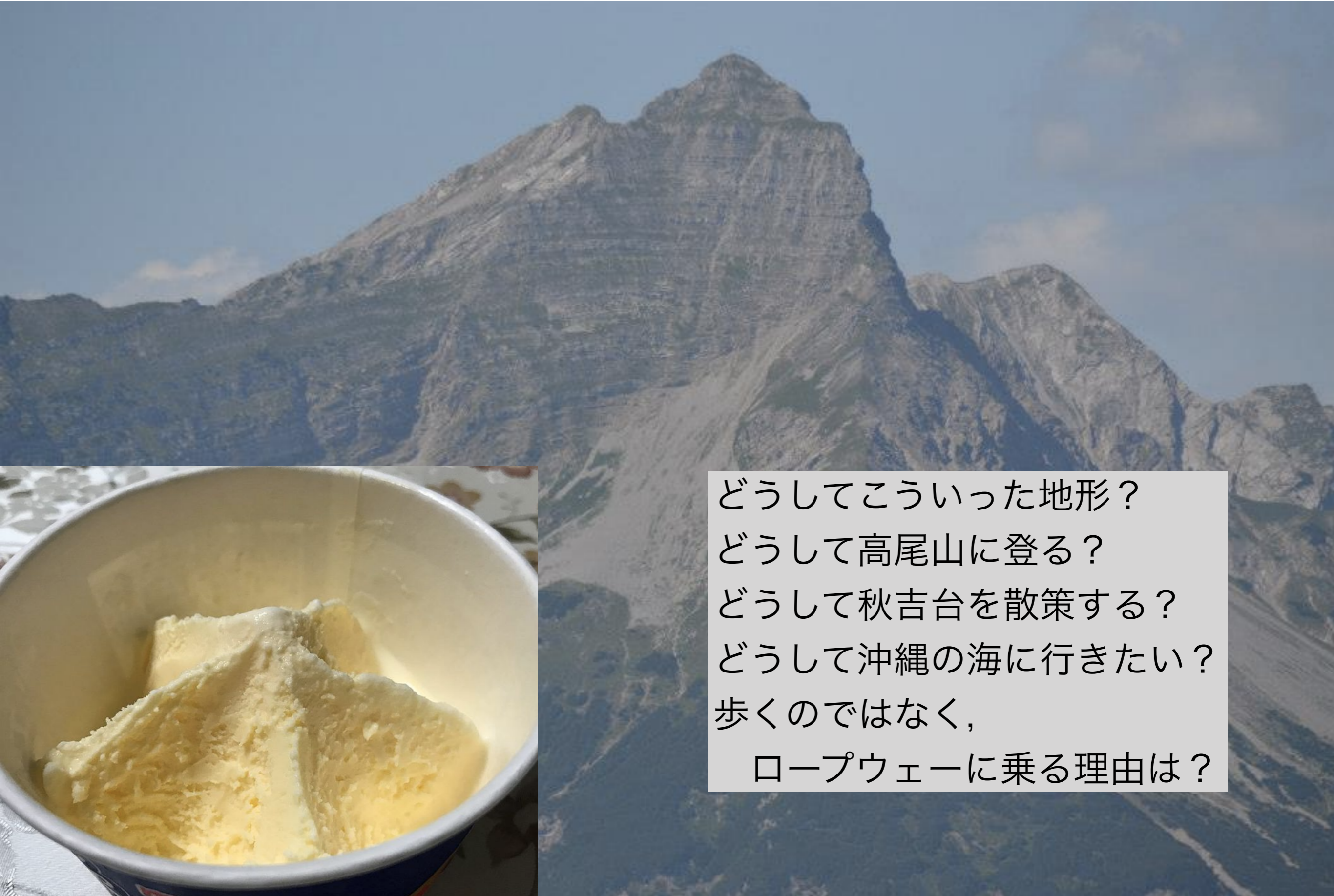
【旅の基本情報】

- 言語 = ポーランド語 ● 面積 = 約31万2679km² (日本の4)
- 通貨 = ズウォティ (złoty) 補助単位 = グロシュ (grosz)
- 日本との時差 = -8時間
- 気候: 大陸性気候で四季がはっきりしている。冬はそれほど寒さが厳しくない。夏にかけて日差しが強い。8月を過ぎると急に日が短くなり、夕下がりが早くなる。
- 市交通:

2) 中学1年社会 入試期間任意課題：港区大使館等周遊スタンプラリー



3) 高校2年地理 特徴的な地形の学習を通じた観光資源の発掘



どうしてこういった地形？
どうして高尾山に登る？
どうして秋吉台を散策する？
どうして沖縄の海に行きたい？
歩くのではなく、
ロープウェーに乗る理由は？

4) 高校2年地理 世界遺産の学習を通じたイン/アウトバウンドの学習

どこから来る観光客が多い？
ついでにどこへ行く？
どこで宿泊する？



5) 高校2年地理 国内経済の推移を通じた観光のあり方の変化

いつの時代も観光地は変わらない？



6) 高校2年課外授業 宮崎県新富町との交流(新富にあって東京にないもの)

ツアープランのメモ ☆ □ ☁

ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 スライド 配置 ツール アドオン ヘルプ 最終編集: 8月28日 (匿...)

プレゼンテーションを開始 共有

背景 レイアウト テーマ 切り替え効果

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21


22

23


24

25



宮崎空港到着
 チキン南蛮が有名な「おぐら」で昼食
 青島を観光。スキューバダイビング体験
 イッシャーマンズ ビーチサイド ホステルで滞在



2日目
 午前 小松ヶ丘を歩く。
 馬と海が観れるのでいい写真撮れるらしい
 海鮮
 午後 都井岬周辺で海遊び
 夕方 都井岬火祭り
 夜に移動、高千穂峡到着



3日目
 午前 高千穂峡観光。ボートで観光
 →高千穂峡神社へ遊歩道を歩いて参拝。(ハートの岩)
 午後 飫肥城観光。独特の建築様式、歴史見学。古城
 車で空港まで帰り(1h)、16時ごろの飛行機

特集◎観光の人材育成

高校における観光教育の取り組み

—「旅する観光学」の授業実践—

高嶋竜平

1. 市民を育てる観光教育

高等学校における観光教育の取り組みとして、まずキャリア教育として実施している例があげられる。高度経済成長からバブル期にかけて、地域の観光産業を担う人材育成を目的に観光教育に取り組む高等学校が増加していった。以後、商業科を中心に多くの実践が積み重ねられてきている。バスツアーの企画や募集、集金、ガイドをすべて生徒の手で行う、地元商店街と連携してボランティアガイドツアーを実施するなど、さまざまなアイデアが各地の学校で実施され、研究会などを通じノウハウの蓄積と共有が進んでいる。観光教育を経験し観光産業への高い関心を抱いた

生徒たちは、卒業後には地域の観光を担う人材として、地元の観光関連企業や自治体で活躍している。

また、訪日観光客の増加や積極的な観光政策により人々の関心が高まっていることを背景に普通科の高等学校でも「総合的な学習の時間」に、自分の住む地域の観光ガイドブックを作成する、SGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）校にて外国人観光客にインタビューするなど、観光を題材とした教育実践例が増えてきている。

観光産業に積極的に人材を送り込むキャリア教育として行うか、あるいは観光を教育の題材と位置付けて行うか。高等学校においてはさまざまな観光教育の進め方があるが、いずれにしても、高校生の段階で観光について学び、考え、発表した経験を持つことは、将来地域の観光を担う人材と



なることはもちろん、観光を通じた市民社会の形成につながっていくと考えている。

近年さまざまな地域でまちづくりが行われているが、その成否は、地域社会に対して当事者意識を持ち、活動に参画するプレイヤーを確保することにかかっている。観光を学んだ生徒は将来、観光産業に直接関わらなくとも、観光を通じて人々の交流を深め、地域を活性化していくことに理解を示す市民、また活動に協働する市民として活躍することが期待できるだろう。観光教育は、自らの住む街を自らの手で運営していく市民社会を実現していく力を持つていると考えている。

2. 観光を教育の題材にする利点

筆者は勤務校である法政大学女子高等学校（以下、法政女子高）で、本校独自の授業である「特別講座」の一環として、2004年度より「旅する人の観光学」という観光教育を実施してきた。本校は学校法人法政大学の付属校として、卒業生を法政大学に送り出している。また他の大学や専門学校など他の進路を選択する生徒も一定数いるが、多くの生徒が大学への進学を希望しており、本校の卒

業後すぐに就職することを想定したカリキュラムは組み立てていない。特別講座のねらいは、社会への関心を高め探求を続ける姿勢を身につけることにあるが、具体的には高校での学びを大学での研究につなげることが求められ、観光教育はその取り組みの一つと考えている。

若者の旅行離れが指摘されるなかで、観光は誰にとっても楽しい行動である、と断言するには一定の議論が必要かもしれない。しかし観光を「楽しむための旅行」と定義するのならば、テーマパークを訪れる、アイドルの追っかけのために出かける、あるいは学校の帰りに友達と寄り道することもまた観光である。最初の講義において、私たちは日常の中で無意識に「楽しむための旅行」をしているのではないかと問いかけ、自分の何気ない行動の中に観光の要素がないか探してみよう、と呼びかけている。そして、なぜこのテーマパークはいつも人気があるのだろうか？ ある都市でアイドルのコンサートが開かれるとどんな経済効果があるだろうか？ いつも立ち寄ってしまう店はどんなところが魅力なのだろうか？ と、ふと立ち止まって自分なぜ楽しいのか考えてみると、研究のテーマが見つかるかとアドバイスしている。まずは自分自身が楽しみ、そのなかに研究対象を見つけることが観光研究の第一歩である。

生徒が楽しみのなかに発見したテーマは、経済学や経営学、心理学、社会学など多様な社会事象につながっている。自分が楽しいと思っていることが、じつは研究として成立するということに気がついた生徒は、主体的に探求を進めていくようになる。そして調査結果に考察を加えることで、自分の中に新たな知を築き上げていく。この楽しく知を獲得していく経験を持つことで、進学先の大学でもさらに探求を続け、活躍することが期待される。このような高校から大学にかけて自ら知を獲得していく活動を積み重ねていくことで、生徒は市民としての素養を身につけ、市民社会の担い手になっていくと考えている。いささか大げさな話になってきたが、そんなことを考えながら続けてきた授業実践について、報告させていただきたい。

3. 授業の展開

「旅する人の観光学」は、高校3年生を対象に2単位(50分2コマ)設定されている。3年生を対象にしているのは、本講座で作成する大レポートを高校時代の学びの集大成と位置づけ、卒業後の進路に関連づけていくためである。一方で高校3年生は3学期の授業がないため、限られ

商品がずらりと並んだアンテナショップは、現地の雰囲気を手軽に感じることができる興味深い場所である。近年、工夫をこらした個性的なアンテナショップが増えてきており、複数のアンテナショップをめぐることでその運営方法や立地、規模を比較でき、店舗運営やプロモーションの方法なども検討することができる。

2017年度は、新橋にある香川県と愛媛県の共同アンテナショップを訪れ、レストランで地元食材をふんだんに使ったランチをいただいでからスタッフの方にお話を伺った。まず味覚からその地域についての理解を深めようと



写真1 講義風景

講師の方をお招きしてスタディーツーリズムについて解説していただいた。

表1 講義例

- ・旅行会社が社会に果たす役割
- ・地域の現状分析とまちづくりへの応用
- ・人は観光に何を求める?
- ・アートで住民参加をデザインする
- ・宿泊業が社会に果たす役割
- ・神奈川から新しい観光を発信する
- ・スタディーツーリズムの勧め(講師に依頼)
- ・御蔵島のエコツーリズム(講師に依頼)

た授業時間数のなかで「観光学」という多くの高校生にとって未知の学問領域を扱うにあたっては、内容の厳選と時間配分を検討する必要がある。

(1) 講義

観光に関する基礎的な知識を得ること、そして新たな研究領域との出会いを提供し、観光への関心を高めることを目標に、講座担当者による講義を行う。より専門的な内容に関しては、講師の方をお招きして講演会を行うこともある(写真1)。講義内容は、1学期は7月の研究旅行の訪問先についての理解を深めること、2学期はレポート作成のヒントになるものや観光に関する最新動向、校外研究と関連する内容を選んでいく。表1に、これまで行ってきた講義の一例を挙げる。

(2) 校外研究

観光の現場を訪れ、実際に活動する人の話を伺うことは、観光教育において欠かせない。法政女子高では日帰りで校外に出かけることを「校外研究」と呼んでいるが、「旅する人の観光学」では、学期ごとに1回、校外研究を実施している。

1学期の校外研究では、東京都内にある都道府県のアンテナショップを訪れるようにしている。さまざまな地域の

いう企画である。さらに郷土愛にあふれたスタッフの方からお話を伺うことで感銘を受け、その後の各地のアンテナショップめぐりに意欲的に取り組むことができた。

2学期については、講義の内容を受けその検証ができるように計画を立てている。地域振興の取り組み例としてB級グルメについて解説し、横須賀を訪れて海軍カレーを食べる、川崎の産業観光を学び、味の素の工場見学ツアーに参加する、などの講義と校外研究を実施してきた。

近年はまちづくりについての学習に力を入れており、2017年度は、横浜市中区の黄金町こがねちょうエリアマネジメントセンターを訪れる予定である。まず、講義において全国各地で行われる現代アートのイベントを紹介し、その多くが開催地域のまちづくりと関連していることを説明する。その上で黄金町を訪れ、この街の歴史とセンター設立の経緯を解説していただき、その後はこのエリアで実施されている「黄金町バザール」という現代アートのイベントを見学するという計画である。

(3) 研究旅行

7月の期末テスト終了後、3泊4日の日程で神戸と京都を訪れ、巡検や班行動などの盛りだくさんのメニューをこなしている。表2は、2017年度のスケジ

ユールである。

1日目に訪れる神戸と、法政女子高の所在地である横浜は、幕末に開港され港湾都市として発展した歴史的経緯、中華街や洋館街などの街並み、造船所跡地の再開発地域があるなど、類似点が多い。一方で神戸は六甲山が接近し街全体が細長くのびており、建物の背景に六甲山の稜線が見える風景は、横浜と違った雰囲気をつくっている。

生徒には、各自で神戸市内をまわり、類似点と相違点を探しそれぞれ1枚ずつ写真を撮るように伝える。そして後日、模造紙に神戸市内の地図を印刷し、生徒は地図を囲みながらそれぞれのような意図で写真を撮ったかを説明し、プリントアウトした写真を撮影場所に貼り付けていく。みんなと同じ街をめぐりながら、友人たちはどのような視点を持っていたのかを比較することで、自らの観察眼を磨いていくことがねらいである。

また、この日宿泊するホテルは比較的規模が大きく、さまざまな設備がある。その一つであるブライダルコーナーを見学させていただき、宿泊以外にもさまざまな目的でホテルが活用されていることを学習した(写真2)。

表2 2017年度研究旅行スケジュール

1日目	新横浜出発→神戸市 神戸市街地の巡検 宿泊ホテルのブライダルコーナー見学 貸し切りバスによる神戸夜景ツアー
2日目	須磨海浜水族園訪問(水族館運営に関するレクチャー、各種体験メニュー参加) 京都市へ移動 京都駅ビル見学 夜の祇園散策ツアー
3日目	班行動(事前に立てたプランを現地にて検証)
4日目	古川町商店街訪問(まちづくりに関するレクチャーと巡検)→新横浜解散



写真2 ホテルのブライダルコーナーの見学
ブライダルプランナーの方に話を伺った

独特の雰囲気を楽しんだ。

3日目は、班行動である。1学期の授業時間の多くは、この準備に費やしている。まず班を作り、それぞれに架空の旅行会社名を決めさせる。そして「日本美術が好きならアメリカ人女子大生」「タイから来た3世帯家族」など架空の外国人観光客をくじ引きであてがい、それぞれの観光客に向けたコースを提案し検証する、というルールのもとに班行動のプランを作らせている。

その際、ペルソナ・マーケティングの考え方にに基づき、あてがわれた顧客について、この観光客はどのような年齢層か、趣味は何か、京都の特にどのような点に魅力を感じているか、などの追加情報を検討させ、顧客のペルソナをより明確にする。自分たちのためだけでなく顧客を楽しませるためのプラン作りを検討することで、訪問地域に対しこれまで自分が持っていたものとは異なる視点を得ることができ、他者に楽しんでもらうためにはどのような配慮が必要かを考えるきっかけとなる。また自分たちは旅行会社であると仮定することで、自分たちのアイデアを整理して聞き手にわかりやすく伝え、その魅力を効果的に伝えるプレゼンテーションの練習になると考えている。班行動の当日は、練り上げたプランに沿って行動し、検証を行う。その結果



写真3 古川町商店街とその周辺の巡検
白川に架かる行者橋を渡る。

はポスターにまとめ、文化祭で発表を行う。

4日目は、地下鉄東西線東山駅すぐの、古川町商店街を訪れた。この商店街はかつて西の錦、東の古川と呼ばれ、現在も地域住民の生活を支えている。一方、近年は日本各地の商店街と同様に、後継者や空き店舗の問題が起こっている。また京都独特の宿泊形態である町家一棟貸しやゲストハウスが増えた結果、生活と観光客が混在するようになってきている。大きく変化する商店街の様相と今後の取り組みについて、商店街でまちづくりに取り組む方に解説していただいた上で、商店街を巡検した(写真3)。この経験

を、2学期以降のまちづくりに関する学習につなげていきたいと考えている。
(4) レポートの作成
レポートの作成は本講座の中心となる活動であり、1年間の授業を通して計画を立て、完成を目指している。年間を通してじっくり



写真4 毎週発行される「法女観光新聞」

とテーマを検証していくことは、卒業後に探求活動を行う際に貴重な経験になると考えている。

まず毎週行う活動として、「法女観光新聞」の作成がある。教員からの情報提供や課題の提示を行う紙面から始まり、生徒一人当たりB6サイズの紙面が割り当てられる。

生徒は教員が提示するテーマに基づき、授業の感想、校外活動への意気込み、レポートの構想、進捗状況、レポート作成を進める中での悩みなどを、自由に紙面を使って報告する(写真4)。毎週新聞を作成することで、レポート完成に向けたスケジュール設定と進捗状況の確認が行われ、また受講生徒それぞれの関心や悩みを共有することで、お互い刺激となり完成に向けた励みになると考えている。

夏休みには、これまでの講義や校外研究、研究旅行の経験をふまえ、具体的なレポートテーマを考えてくることを宿題としている。その際、テーマだけを提示するのではな

る場合があり、情報収集には限度がある。生徒の居住地域の観光政策や、趣味に関連するテーマのほうが、現地での検証が可能であり、発想の幅も広がるように感じている。先輩方が過去に作成したレポートを参考にしながら、テーマ設定を行うようにアドバイスしている。表3に、過去のレポートテーマ例をいくつか挙げる。

4. 今後の展開

勤務校である法政女子高は、2018年度より校名を「法政大学国際高等学校」に変更し、共学化を行う。学校の改革を進めるにあたり教員組織で議論したのは、グローバル化が進むなかで多様な価値観のもとに社会を構築していくことが求められる現代において、学校を一人一人の違いを認め尊重する多様性と寛容性のある場にしていきたい、ということである。その実現に対し、観光教育はさまざまな提案ができるはずである。

国連は1967年を国際観光年と定め、「観光は平和へのパスポート」というスローガンを発表した。観光は誰もが楽しみながら手軽に実施することができる国際交流であり、観光の推進により相互理解の拡大と平和な社会が実現

表3 レポートのテーマ例

- ・横浜開港博 Y150の取り組み
- ・スポーツ文化と観光戦略 Jリーグの活動
- ・都市観光地としての横浜みなとみらい21地区を探る
- ・ロケ地と観光の関わりについて
- ・観光学を通して考えた桜新町商店街
- ・神楽坂の観光
- ・ゆるキャラと観光
- ・世界遺産を守るエコツーリズム
- ・美術館と芸術による地域活性化
- ・食と観光
- ・理想的なおもてなしとは?
- ・フィールドワークで見えてくるものは何か
- ・イベントと観光 イベントを地方に!
- ・まちづくりとは何か

く、テーマに基づいたレポートの章立てと結論部に関する仮説の作成、さらに参考文献をあげることが求められる。章立てを作成することによりレポートの構成が整理され、必要となる調査内容が検討しやすくなる。2学期からはこの章立てに基づき、レポート完成に向けた指導を行っていく。

レポートのテーマは、観光に関するものならば何でもよい、としている。調査対象への興味がレポート作成へのモチベーションにつながるためだが、なるべく自らが検証可能なテーマを設定するよう助言を行う。海外を対象とした場合は実際に調査に行くことが難しく、また観光施設によっては客数の増減や集客のノウハウを公表することを避け

するという認識に基づき、このスローガンが発表された。この観光の持つ交流の力を、ぜひ授業に取り込んでいきたい。海外の交流校からの留学生に向けたツアーを企画する、海外でのフィールドワークを中心とした研究旅行を行うなど、いろいろ考えられるだろう。しかし、週2単位の中に取り込んでいくには時間的制約が大きい。「旅する人の観光学」はこれまで取り組んできた市民教育や探求する意欲の育成にねらいを絞り、観光の持つ交流の力を活用する方法は、別の枠組みのなかで考えていく方がよいかもしれない。

「旅する人の観光学」の授業を10年以上続けてきたが、取り組んでみたい内容はまだまだたくさんあり、あらためて観光教育に無限の可能性を感じている。全国の観光教育に取り組む方々と交流を深め、ともに模索を続けていきたいと願っている。

たかしまりゅうへい・法政大学女子高等学校教諭 1976年東京生まれ
立教大学観光学研究科博士後期課程退学。日本観光研究会、日本観光ホスピタリティ教育学会、文化資源学会、日本教師教育学会所属。専門は観光史、観光教育、社会科教育。

初等中等教育における観光教育の推進に関する協議会 高嶋挨拶内容

法政大学国際高等学校教諭の高嶋と申します。本日は勤務校での授業の調整ができず、代読にてご挨拶をお願いしました。

私の観光教育の関わりですが、2003年に「旅する人の観光学」という選択授業を始めたのがきっかけです。この授業は現在も続いており、実は金曜日午後、今がまさにこの授業の時間です。コロナ情勢によりしばらくオンラインと分散登校が続いていましたが、ようやく本校でも学校外での学習活動が解禁となったので、現地調査のための班決めを行っているところです。

勤務校では「特別講座」、現在は名称を変更して「国際理解」という選択授業があり、テーマ学習により生徒の興味関心を育成し、大学での研究につなげることを目的に設定しています。このテーマは教員側が提案して講座を開設するのですが、私が観光をテーマに講座を開設した理由として一番大きなものは、私が観光が好きだから、という完全な趣味でした。ただ、自分が好きな観光を、なにか教育に応用できないかということは、学生のころからおぼろげながら考えていました。そして、生徒とともに授業を展開する中で、この授業は何を目指すのかと考えていくときに、「旅する人の観光学」という講座名を思いつきました。

コロナ情勢で今は難しいですが、普通の生徒たちは本当に気軽に旅に出かけます。それは美味しいものを食べ、友達と語り、記念写真を撮っているだけかもしれません。しかしそんな中でも、自分の生活空間ではない非日常を楽しみ、積極的に観察しています。生徒たちの旅の中には、教室の中にはない発見にあふれています。その旅の体験をより豊かにするために、ちょっと観光学を学んでみませんか？という呼びかけの意味を込めたのが「旅する人の観光学」という講座名でした。

地域を観察する方法、それをレポートとしてまとめる方法、そして様々な地域で行われている観光活動の様子をこの講座で学び、ふたたび「旅する人」になる機会があったとき、きっとその旅の風景は、今までとは違った見え方になる。生徒たちにそんな体験をしてもらいたいと思い講座を始めて、観光教育にのめりこんで、気が付いたら17年間ほどこの講座を続けてきました。具体的な展開については、分量が多くて申し訳ございませんが、「月刊 地理」という雑誌で実践報告をさせていただいた際の記事を配布させていただきますので、よろしければお読みください。

受け持った生徒が成長し、卒業後にさらにどうその人生を広げていくか。私自身は高校教員、特に大学付属校の教員であるため、大学との連携を意識して学校運営に携わってきました。そしてもう一つ取り組むべきなのが出来ていないと感じていたのが、中学校、そして小学校との連携です。

生徒が人生を歩んでいく中で、その発達段階に応じた学びが展開していくのですが、小、中、高、大の先生は、生徒の成長のバトンを受け渡していると思います。私の前のランナーである中学校の先生がどのようなことを考えていらっしゃるのか、そして小学校の先生がお考えになっていることをぜひ伺ってみたいと思っていました。

といっても教育現場には様々な課題がありますが、今回の協議会は「観光教育」という共通項をもって小、中、高、大の先生が連携する非常に貴重な機会であると考えています。観光は様々な社会の課題に関わり、その解決策を提案しようとしていることは、共通して実感されていることと思います。生徒が社会に積極的に関わり、その可能性を広げていくことに対し、「観光教育」という共通項をもって何が提案できるか。皆様と議論できることを楽しみにしています。よろしくお願いたします。

学校（学科）の概要

学校名	私立 岩倉高等学校（東京都）	学科名	普通科・運輸科
		記入者名	教諭 大日方 樹（おびなた いつき）

学校・学科の特色

岩倉高等学校は、来年創立 125 周年を迎え、「岩倉」の校名は、鉄道創設に貢献した明治時代の政治家・岩倉具視に因んだものである。運輸科は、全国でも数少ない鉄道関係の教育を行う日本最古の鉄道学校であり、卒業生は半数以上の生徒が鉄道業界へ就職をしている。また、過去に野球部が選抜高校野球大会で初出場・初優勝し、全国高等学校野球選手権に出場した経験がある。

普通科は鉄道専門教科を行わず進学を目指し、S 特・特進・総進・L 特コースがある。運輸科は責任ある社会人になるためのマナーと見識を身につけるため、挨拶や言葉遣いの指導から、就職・進学に限らず、一般教養を重要視したカリキュラムとなっている。学習内容としては、鉄道の旅行営業・技術について専門教科を中心的に学習する。また、総合的な探究の時間の中で「SDGs」に関する学習プログラムを学んでいる。

1. 観光教育の取り組みについて

運輸科は、鉄道の旅行営業・技術などの専門教科や観光・サービスなどについて学び、1 年次は営業概論、旅行実務[法令、運賃]、2 年次は旅行実務[約款、運賃、地理]、旅客営業、ホスピタリティーなど、3 年次は運転実習、鉄道概論、電車工学、課題研究、ホスピタリティーⅡなどを学習する。運転実習では、車掌や運転士の立場において必要とされるサービススキルを習得し、課題研究では「観光甲子園」本選出場を目指し、旅行プランの作成や観光学について学ぶ。また、上野観光連盟による講演会や、障がいをお持ちの方や高齢者疑似体験を通して、サポート方法や高齢化社会について学ぶことで人間性を高める授業を行っている。

その他、2 年生を対象に「鉄道実習」(1 単位)というインターンシップがあり、夏期は JR 東日本・JR 東海・東武鉄道、冬期は東京メトロ・小田急電鉄・京王電鉄のご協力を得て、駅や研修施設にて実施をしている。また、夏期休暇中に旅行業講習を実施し、国内及び総合旅行業務取扱管理者試験を受験するサポートをしている。他にも、日本学生観光連盟(学観連)による、1 年生対象の「修学旅行事前学習」を実施している。

2. 「観光ビジネス」の導入について

本校は、運輸科 3 年「課題研究」のカリキュラムにおいて「観光ビジネス」の内容を実施する計画である。現在も同じような内容の授業を行っており、継続していく予定である。

3. 休校期間中における観光教育の取り組みについて

ZOOM を利用し、5 月から運輸科 3 年生にて実施し、JTB 総研から配信の資料や、神奈川県観光協会配信の「新しい観光に関する調査報告書」を使用し、パワーポイントを使用して授業同様の教育を行った。

4. 今後の観光教育における課題について

観光ビジネスという商業寄りの内容が強い印象がある。観光には商業だけでなく公民・地歴など様々な教科を横断的に学べる要素があり、この利点をうまく活かしながら新たな教材の作成と、各地方の教員が連携し、観光を学ぶ高校生に様々な体験や発表出来る場を創出していくことが課題と考える。

【経歴】

岩倉高等学校運輸科卒、大学卒業後相模鉄道(株)にて駅・車掌・運転士を経験。2009 年岩倉高等学校奉職。現在、運輸科 2 年クラス担任と就職指導部主任を担当。全国高等学校鉄道模型コンテスト実行会理事。相模鉄道在職中に、総合旅行業務取扱管理者・サービス介助士インストラクター資格・教員免許を取得。主な観光学指導歴は、2012 年第 4 回観光甲子園準グランプリ受賞、2015 年第 7 回観光甲子園全国旅行業協会会長賞受賞。2016 年～2019 年高校生販売甲子園指導教諭。校外活動において、鉄道模型部顧問で第 4 回・第 11 回全国高等学校鉄道模型コンテスト最優秀賞受賞。沖縄県立具志川商業高校・沖縄水産高校・日本大学宍戸ゼミにて授業実施。他にも企業向け高卒就職セミナー講演、栃木県塩谷町にて地方活性化に関する講演を実施。中学校での進路向け授業を多数実施。2020 ホストタウン・ハウスショールーム出展指導教諭。

【WEB 記事掲載】

- ・ 第 4 回観光甲子園決勝大会 兵庫県知事賞(準グランプリ)
<http://www.ryoko-net.co.jp/?p=4113>
 - ・ 第 7 回観光甲子園決勝大会 全国旅行業協会会長賞
<http://www.ryoko-net.co.jp/?p=12957>
 - ・ 東洋経済新聞社記事 執筆 鉄道員養成の名門校に意外なライバルが登場
男女共学化した「岩倉高校」の就職事情とは？
<https://toyokeizai.net/articles/-/100421>
 - ・ 連載：鉄道職人に聞く-東京時刻表 3 月号
<http://yuta-murakami.cocolog-nifty.com/blog/2014/03/index.html>
 - ・ ナビ部 「働くということ」「仕事を知ること」岩倉高校 鉄道模型部
<http://nabibu.jp/club/post-584.html>
<http://nabibu.jp/club/post-589.html>
 - ・ ナビ部 お客様に最高のサービスを！ 岩倉高校 鉄道模型部
<http://nabibu.jp/club/post-592.html>
 - ・ DIME 密着取材！鉄道乗務員を目指す岩倉高校「運輸科」の学生たち
<https://dime.jp/genre/503564/>
 - ・ CLUB サーモス 岩倉高校紹介全 4 編
<https://www.club-thermos.jp/page?a=98>
<https://www.club-thermos.jp/page?a=102>
<https://www.club-thermos.jp/page?a=105>
<https://www.club-thermos.jp/page?a=108>
 - ・ CLUB サーモス 新型 特急ロマンスカー・GSE(70000 形)全 2 編
<https://www.club-thermos.jp/page?a=154>
<https://www.club-thermos.jp/page?a=157>
 - ・ のりものニュース 記事コメント
- 【「平成」と乗りもの】変化した「乗りものと女性」の関係 増えた女性現場職員、その背景といま
https://trafficnews.jp/post/85495?fbclid=IwAR1li8ZB8hgvia-aaHn-fgt2DqvIC4LNMTWzyKo_szlpCd8V1E1D5jibugU
- ・ 大井川鉄道 列車内で演劇(中日新聞・東京新聞)
https://www.tky-iwakura-h.ed.jp/news/club_news/8007/
 - ・ 朝日新聞出版 アサヒグラフ臨時増刊 東海道新幹線 開業 50 周年記念「完全」復刻 解説文掲載
<https://dot.asahi.com/dot/2014093000018.html?page=1>
 - ・ 交通新聞社 鉄道ダイヤ情報 原稿執筆
2013 年 11 号・2016 年 8 月号・2018 年 7 月号・2019 年 6 月号・2020 年 11 月号
2016 年 9 月号 「鉄道を動かす仕事 運転士・車掌の仕事」見開き 8 ページ
 - ・ 交通新聞社 「鉄道の仕事まるごとガイド」高校(運輸科)の先生紹介
 - ・ 交通新聞社新書 「鉄道時計ものがたり」第四章 鉄道時計と鉄道マンの誇り 取材記事紹介

【論文発表】

- ・ 交通新聞社賞 『UNTENDAI DS』でガッテン! 2009 年 2 月
～安全技術と経験を未来へつなごう～の制作について (第 29 回運転業務研究発表会受賞論文)

【活動紹介】

- ・海洋教育を通じた地域振興「海上活動における安全教育」沖縄水産高等学校

https://www.spf.org/program/docs/2017%E6%88%90%E6%9E%9C%E5%A0%B1%E5%91%8A_%E6%B2%96%E7%B8%84%E7%9C%8C%E7%AB%8B%E6%B2%96%E7%B8%84%E6%B0%B4%E7%94%A3%E9%AB%98%E7%AD%89%E5%AD%A6%E6%A0%A1.pdf

【テレビ番組出演】

NHK 「首都圏ニュース 645」 鉄道事故解説

NHK 教育 「資格☆はばたく 旅行業務取扱管理者」

NHK WORLD TV 「Japan Railway journal」

日本テレビ「ZIP」 鉄道事故解説

「笑神さまは突然に…」全国高等学校鉄道模型コンテスト紹介出演

TBS「別冊アサ（秘）ジャーナル」番組出演

フジテレビ「超潜入!リアルスコープハイパー」【新幹線&ヘリコプター!驚きの性能を解明!】解説出演

テレビ朝日「タモリ倶楽部」「相葉マナブ」「モーニングバード」番組出演

「モーニングショー」鉄道事故解説 「スーパーJチャンネル」鉄道事故解説

CS 放送鉄道チャンネル「中川家礼二の鉄学の時間」

#3、4 岩倉高校（2012年4月13日・27日）番組出演

【ラジオ番組出演】

文化放送 「玉川美沙 ハピリー」出演

ラジオ日本 「斉藤雪乃のイチバンセン」出演!

【部活合宿等による鉄道利用及び地域交流実施場所】

2012年 秋田内陸縦貫鉄道

2013年 いすみ鉄道 一畑電車(体験運転・車庫見学)

2014年 JR北海道(車庫見学)・札幌市営路面電車(貸切列車)・津軽鉄道(貸切列車)

2015年 高松琴平電気鉄道(貸切)・伊予鉄道(車庫見学)

2016年 長良川鉄道(貸切列車)・樽見鉄道(体験運転)・近江鉄道・JR西日本(車庫見学)

2017年 大井川鐵道(車庫見学・インターンシップ・車内演劇会)

2018年 東武鉄道(貸切列車)・富山地鉄・黒部峡谷鉄道(車庫見学)・のと鉄道(貸切列車)・えちぜん鉄道(貸切列車)

2019年 東武鉄道(貸切列車)・高松琴平電気鉄道(車庫見学・貸切列車)・JR四国(車庫見学)・伊予鉄道

2020年 銚子電鉄(貸切列車)・京成電鉄(貸切列車)

以上

10月2日資料

徳島商業高校

鈴鹿 剛

プロフィール

- 平成27年度－29年度文部科学省
スーパープロフェッショナルハイスクール事務局長
- 平成30年度－令和2年度 経済産業省未来の教室実証事業担当責任者
- 徳島県JICA事業プロジェクトマネージャー
- ホストタウンアドバイザー
- とくしま観光アカデミー検討会議委員
- 徳島商業高校において、ビジネス研究部の生徒たちを指導し、地元企業とのコラボによる商品開発からパッケージデザインまで、一貫した実践型の授業を展開。平成25年から、同校生徒たちとカンボジア日本友好学園の自立支援に向けた取り組みを展開中。この活動が原動力となり平成30年度消費者功労者表彰において高校として初めて第1席となる内閣総理大臣賞を受賞
- また、9月にはG20消費者政策国際会合でも生徒発表を指導し、世界各国の担当者から高い評価を得た。

学校・学科紹介

3つの小学科

情報処理科

コンピュータやネットワークを活用する知識や技術を中心に学習し、ICT(情報通信技術)の活用を推進できる人材の育成を目指します。

会計情報科

簿記会計に関する知識・技術を学習し、企業の経営活動を計数的に把握し、会計情報を分析・活用できる人材の育成を目指します。

商業科

1年時は商業に関する基礎的・基本的な内容の学習を行い、2年時より次の3つのコースに分かれて、それぞれの専門性を重視した人材を育成します。

- **マーケティングコース** マーケティングに関する基礎的・基本的な知識・技術を学習し、流通や販売分野、商品開発分野において活躍できる人材の育成を目指します。
- **ビジネス経済コース** 経済に関する基礎的・基本的な知識・技術を学習し、金融分野やコンサルティング分野など、将来、地域のリーダーとして活躍できる人材の育成を目指します。
- **商業コース** ビジネス全般についての基礎的・基本的な知識・技術を学習し、商業活動全般において幅広く活躍できる人材の育成を目指します。

徳島商業における実践事例 (令和元年度)

県事業

- 授業 (観光ビジネス : RESASを活用した研究)

経済産業省

- 授業 (渋滞解消 : 商業×数学×国語)
- 特活 (カンボジアの渋滞 : ビジ研×CJFS)

内閣官房オリンピック・パラリンピック事務局

カンボジアなどホストタウン事業

(カンボジア・ジョージアとの交流・連携)

農林水産省

- ビジ研 (観光開発 : 美波町まちおこし) など

カリキュラムマネジメント を活かした活動

- どんな生徒を育てたいですか？
- そのために何をしますか？
- どんな教科で実現しますか？
- 特別活動とどう連携しますか？

本校活動の特徴

地域を
深く知る

グローバル
人材の育成

地域社会
への貢献

カリキュラム
の作成・実践

地域の魅力を創出できる
人材の育成を行う。

徳島商業高校の商業教育におけるねらい

地域をコンサルタントの育成
観光ガイド・商品開発力を持った人材の育成
Glocalプロデューサーの育成

各学科に対応した
授業の設置

地元企業・海外の
学校などとの連携

実社会をフィールドとした生徒の主体的な活動を取り入れた商業教育

郷土を
愛する心

コミュニ
ケーション
能力

発想力

人権感覚

国際的な
視野

情報
活用能力

取材力
企画力

言語学習
意欲向上

育ちの可能性の開花した本人感覚

03

03. 人一生の育ちの可能性 -P.11-

一生を通じて育ちの可能性が開花しているときに、本人がどんな感覚であるかを動物になぞらえて表現しました。

本人の言葉がこの時期の育ちの可能性を象徴しています。

次ページより、期ごとの人の育ちをみていきます。



自分は
自分でいい



自分たちの
ことは
自分たちで
できる



私は社会と
つながっている
参加している



私は
世界を
変えられる



私は
知を創出する



私が私と世界を
幸せにする

幼保期

小学校期

中学校期

高校期

大学・大学院期

社会人期

教育の力と生徒の可能性

本委員会及び分科会で検討したいこと

- 社会に直結した専門高校で育てたい能力
- (即戦力人材とは)
- 小学校から大学まで人一生の育ちの中での位置づけ
- 各成長段階における身につけさせる能力と学ぶべき内容
- 来年度以降、どのような実証が必要か、課題の明確化

初等中等教育における観光教育の推進に関する協議会 【レポート】

2020.9.25



TOURISM PRODUCER

江藤誠晃

一般社団法人 NEXT TOURISM 理事
株式会社 BUZZPORT 代表
ひょうご観光本部 ツーリズムプロデューサー

兵庫県神戸市生まれ。関西学院大学経済学部卒業。出版社勤務を経て観光マーケティング事業社を起業。国内世界各地の観光地活性化策を手がける他、旅行作家として様々なコンテンツを発表。近年は観光庁の中核人材育成講座や観光甲子園をはじめとする観光人材育成事業に注力。2020年4月からひょうご観光本部のツーリズムプロデューサーを兼任し、DMOのマーケティングプロジェクトを推進。



SDGs時代の探究型学習プログラムに変容させた観光動画 コンテストから見えるアクティブラーニングの可能性

<エントリーチームの劇的増加>マーケティングの見直しにより2年で全国からの応募が9倍に増えました。

- 訪日観光部門 ▶ 536チーム
- ハワイ部門 ▶ 90チーム
- 日本遺産部門 ▶ 100チーム

2009年スタートで第9回大会まではエントリーチーム数が**80チーム**前後だったコンテスト。2018年にハワイ州観光局を協賛に迎えアウトバウンド部門を増設し**227チーム**に増加。2019年度に一般社団法人NEXT TOURISMが事業を継承し観光動画コンテストに改変。日本航空、JTBなどの協賛企業・団体によるコンソーシアム型の運営組織で全国高等学校へアプローチし、2部門で**318チーム**が参加。2020年度はコロナ禍によりスタートが遅れるも高等学校現場の課題に向き合う「3つの方針」をかかげ**726チーム**に急拡大。

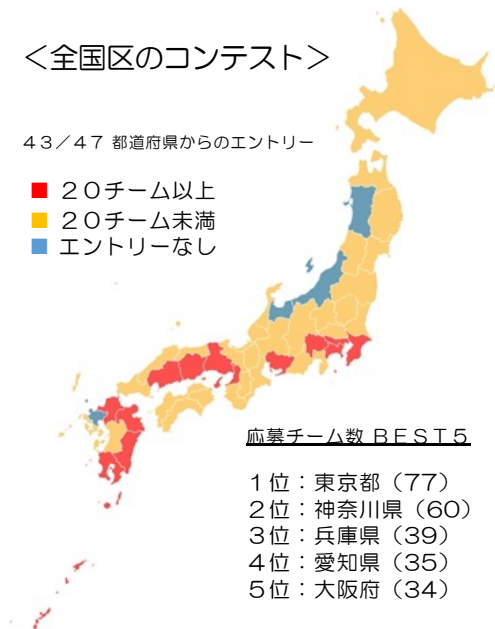


- 1 **コロナ禍対応リモート運営**
全てのプログラムをリモート環境に対応させます。
- 2 **SDGs時代の探究型学習**
持続可能な社会を目指すSDGsの考え方を導入します。
- 3 **観光教育トータルデザイン**
学校行事と連動した体系的な教育プログラムを提案します。

<全国区のコンテスト>

43/47 都道府県からのエントリー

- 20チーム以上
- 20チーム未満
- エントリーなし



300校を超える
高等学校担当教員
とのネットワーク

<決勝大会会場>



SDGs wedding cake



構造的・戦略的に観光市場
を探究するためのSDGs
ロジック提供



SDGs 思考を取り入れた
観光学のeラーニング



2 **SDGs時代の探究型学習**
持続可能な社会を目指すSDGsの考え方を導入します。

3 **観光教育トータルデザイン**
学校行事と連動した体系的な教育プログラムを提案します。

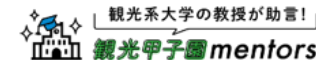
高等学校における観光教育をサポートする
各種プログラム



高校生のコンピテンシーを計測しA1で
内面的成長と教育効果の関連性を可視化



観光業界で利用されているデータベース
を高等学校教職員に公開し、エビデンス
ベースの観光政策づくりのヒントに



観光系学部・学科を持つ大学連携コン
ソーシアムの教授陣がeラーニングと審
査員で参加



JAPAN HERITAGE
日本遺産

<新規部門創設>

2020年度は新たに日本遺産部門を創設。高校生視点で地元の歴史や文化、自然をストーリーとして外部に発信する動画作品を募集。

協力：文化庁

観光地域づくり法人【DMO】と連携した観光人材育成事業



<ひょうご大学生観光局>

兵庫県企画県民部ビジョン局が公募したポストコロナ社会を先導する取り組みに採択されたDMO連携大学生支援プロジェクト。観光学に興味を持ち、観光産業を進路として検討する大学生に向けて地方創生や関係人口拡大策をプロジェクトベースで考えるインカレ型のゼミナール。



公式サイト

www.youngdmo.com

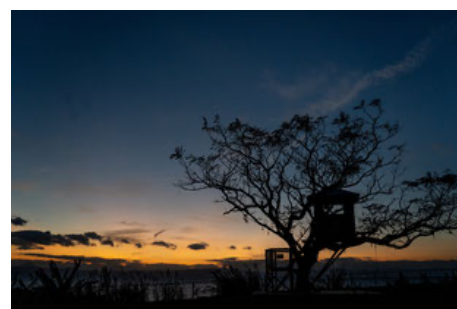
～観光プロジェクト体験～ DMOが関わる各種プロジェクトのスタッフとして観光マーケティングを学ぶインターンシップ



■観光甲子園

観光動画コンテスト

ひょうご観光本部が協賛する全校高等学校の観光動画コンテストに大学生スタッフとして参加。



■SDGsで地方創生

SDGsで地方創生

「野に出て学ぶSDGs」をスローガンに実践的なSDGs思考を身に着ける私塾のスタッフ。



■ひょうごe-県民制度

関係人口拡大

兵庫県が地域活性化策として取り組む「ひょうごe-県民」制度の若者層登録促進策を構築。



<観光学を学ぶウェビナー>

以下をターゲット層に大学生限定のオンラインセミナーを開催。全国から300人強の参加

- 観光・旅行分野への就職を考えている
- マーケティングについて新たな学びの視点を得たい
- 起業や副業の可能性を知りたい
- ポストコロナの社会について考えたい
- SDGsを実践的に学びたい

旅行だけじゃない！

JTB × 教育

私たちは、「Society5.0」時代に求められる「社会に開かれた学び」を実現するために

産学官ネットワークにおける豊富なリソースを有効に活用して、

旅行行事はもとより学校の運営・経営にかかわる領域における 課題解決をお手伝いいたします。



修学旅行探究ノート

発売開始1年間で
90校 16,000名に採用されまし

●パートナー企業



POINT

旅行行事の楽しさを残したまま、

それを「**探究的な学び**」にするためのワークブック型学習教材。

自ら課題を発見し、解決していく「探究的な学び」となるように構成。

旅行行事を探究的な学びのきっかけにしたい高校・中学校におすすめ！



〈特徴〉

① **旅行前／旅行中／旅行後の学習を探究的な学びのプロセスに！**
「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」にあわせて教材を構成。教材に取り組むことで自然と「探究的な学び」が実践できます。

② **深い学びへとつながる振り返りのきっかけを提供！**

ノートでは旅行前／旅行中／旅行後それぞれで生徒の学びを深めるための問いかけの言葉とともに振り返るきっかけを提供しています。eポートフォリオと併用すれば、一貫した主体的・対話的で深い学びが実現できます。



旅行の事前・現地・事後学習が探究的な学びに！

旅行前				旅行中		旅行後		
第1章 旅行先のイメージをふくらませよう	第2章 テーマを決めよう	第3章 問いを立てよう	第4章 情報を集めるための計画を立てよう	第5章 修学旅行で情報を集めよう	第6章 集めた情報を整理しよう	第7章 ポスターをつくろう	第8章 発表しよう	第9章 活動全体を振り返ろう
旅行先のイメージをふくらませ、興味のあることや気になることをグループで話します。柔軟かつ自由な発想で考えてみよう！	ポイントは、自分たちが本当に「知りたい、学びたい」と思うテーマにすることです。グループで話し合っ決めていこう！	旅行先での活動をさらに充実させるために、「なんでだろう?」「どうしてだろう?」と疑問に思うことから問いを考えてみよう！	答えを見つけるために必要な情報を整理し、計画を立てます。「何を」「どこで」「どのように」収集するのが考えてみよう！	旅行先ならではの文化や自然、そこに暮らす人や訪れる人の思いなど、旅行先でしか手に入らない情報を見つけよう！	旅行先で収集した情報を見返して、問いの答えを話し合おう。旅行先で集めた情報から、答えの根拠を見つけよう！	自分たちで見つけた問いの答えを伝えるためにポスターを作成します。伝えたいことがきちんと伝えられるポスターを作ろう！	これまでの成果を伝えるために発表をします。グループのメンバーとアドバイスし合い、よりよい発表を目指そう！	これまでの取り組みを思い出し、活動全体を振り返ります。修学旅行前と比較して自分の「成長」を言葉にしてみよう！

- 第1章 旅行先のイメージをふくらませよう
- 第2章 テーマを決めよう
- 第3章 問いを立てよう
- 第4章 情報を集めるための計画を立てよう
- 第5章 修学旅行で情報を集めよう
- 第6章 集めた情報を整理しよう
- 第7章 ポスターをつくろう
- 第8章 発表しよう
- 第9章 活動全体を振り返ろう

東京学芸大学・森本康彦教授との共同開発

著者：森本康彦（東京学芸大学 教授）、尾藤菜摘 野口雅純 浦裕良二、株式会社JTB



＜森本康彦（もりもと やすひこ）氏＞
東京学芸大学・ICTセンター 教授。博士（工学）。長岡技術科学大学大学院・工学研究科後期博士課程修了。1991年 三菱電機株式会社・情報技術総合研究所にて基本ソフトウェアの開発に従事。1996年より公立中教諭、私立高教諭、大学准教授、などの職を経て2017年より現職。教育工学、特にeポートフォリオ、ICT活用教育、教育AI活用を専門とする。

先生用 指導ガイド

A4版 2色刷り 32ページ



- 掲載コンテンツ
授業計画の立て方／授業展開例／指導例／記入例／声かけポイント／まとめ／評価／ほか

注）指導ガイドのみの提供・販売は行っていません

学習支援の
ポイントを解説

2030 SDGs ワークショップ

オンライン受講も可能！

POINT

注目されている SDGs。

SDGsの考えに基づいて定められた世界共通の“価値観”を知る体感し、

理解を深め、“気づき”を得て、“行動”(探究学習)につなげる。

また、社会の動きを自分事化するためには効果的なプログラムです。

概念の理解や探究活動の入り口としてプログラムを導入する学校も増えています。



① 2030 SDGs カードゲーム & SDGsの本質を知る



SDGsの17の目標を達成するために、現在から2030年までの道のりを体験するゲームです。SDGsの世界を体感し、“気づき”を得て、“行動”(探究学習)につなげることを目的とします。
(カードゲーム開発：一般社団法人イマココラボ)

《ファシリテーターについて》

ファシリテーター養成講座を受講したイマココラボの公認ファシリテーターのみ利用可能です。JTB内にはファシリテーターが在籍しており、ファシリテーターネットワークを活用し日本全国の学校での実施が可能です。

② オリジナルプロジェクトカードを作成

実行したプロジェクトが、SDGsの17の目標(アイコン)に該当するのかを考える。

そのプロジェクトが、世界に与えた影響について考える。

オリジナルプロジェクトカードを作成する。

2030 SDGs カードゲームで実行した「プロジェクト」を通して、自分の行動が世界に与える影響について考えます。全部で80のプロジェクトが用意されています。プロジェクトの中には、世界にとってマイナスな影響を与える可能性のあるプロジェクトも含まれています。
例) こどもを労働力として利用する
慣習的性差別への無関心 など

③ 実際に取り組んでいる企業から学ぶ& 2030年の自分を意識して “ゴール(行動宣言)”を設定する

自分の “ゴール”(行動宣言)

イメージをイラストで表現する

具体的な取り組みを記入する
(探究学習についての取り組みを記載する)

SDGsに取り組む企業の話聞いて、社会課題の解決策の理解を深めます。その後、これから自分が2030年までに、何をやるか？どうなっていたいか？などを、ワークシートのゴールカードに記載して、発表します。

Ai GROW

～生徒の資質・能力と教育効果を可視化する測定ツール～

●パートナー企業



POINT 生徒の潜在的な性格とコンピテンシーを正確に評価・分析。

加えて、あらゆる教育活動の教育効果を正確に定量化し、プログラムの見直しや改善などに幅広く活用。グローバル化の進展に対応できる「問題発見・解決型人材」の育成に貢献するツール。



スマホやタブレットを使って手軽（40～50分）に受検するだけで、生徒の「気質」と「コンピテンシー（非認知能力）」を正確に診断できます。受検後すぐに結果を確認でき、1年間に何度も受検できるので、成長の推移が一目でわかる画期的なアセスメントツールです。

受検

実施場所

校内及び自宅等通信環境及びスマホ・タブレット端末があればどこでも可能



診断



バイアス測定により気質を正確に測定

3名の友人による他者評価で能力を測定

AIが補正・分析
可視化・定量化



測定できる気質
性格診断で最も研究が進む「BIG5」因子を基に設計

外向性	↔	内向性
開放性	↔	保守性
繊細性	↔	平穏性
協調性	↔	独立性
自律性	↔	自由性

注) どちらが良いかが優れているというわけではありません。

測定できる25のコンピテンシー
組み合わせで『主体性』『協働性』などを測定することもできます

認知	課題設定	解決意向	論理的思考	疑う力	創造性
自己	個人的実行力	内的価値	ヴィジョン	自己効力	成長
	興味	耐性	感情コントロール	決断力	
他者	表現力	共感・傾聴力	外交性	柔軟性	
	寛容	影響力の行使	情熱・宣教能力		
コミュニティ	組織への働きかけ	地球市民	組織へのコミット	誠実さ	

生徒向けアウトプット

- 気質診断結果
- コンピテンシー計測結果
- 誰もが認める強み
- 自分で気づいていない強み
- 周囲が気づいていない強み
- 更に伸ばすためのアドバイス
- 業界別コンピテンシーモデル
- 前回受検結果からの推移



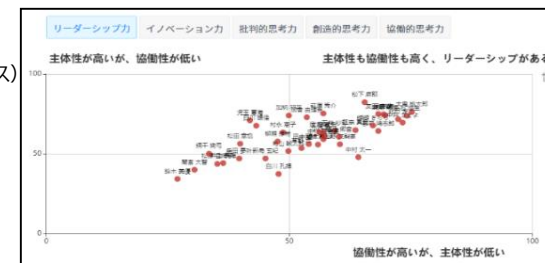
生徒用フィードバックシート

生徒自身が確認し、行動を変える指針として活用できます

先生向けアウトプット

- 受検進捗状況管理
- 受検結果確認＜一覧&個別＞
- (気質・コンピテンシー・学習動機・指導アドバイス)
- クラス別、部活動別集計 (タグ付け)
- 気質分布、能力別分布状況をマッピング
- (リーダーシップ、イノベーション、思考力など)
- 最適なグルーピングアドバイス (グループワーク班や活動班の自動提案)
- 生徒のネットワーク関係把握
- (他者評価者を生徒が決める場合)

管理画面用
クラスマネジメントページ



生徒への指導やクラスマネジメントに活用できます

中高生向け コンテスト開催



Global Link Singapore

科学・社会課題をテーマに国際舞台で発表と議論！
アジアを中心とする世界各国の中高生が、科学や国際課題に関する考えや研究成果を、英語を使って国際舞台で発表します。プレゼンテーションやディスカッションを通じて、世界の中高生や研究者との交流が生まれます。

- 興味がるなる海外生徒と交流
- 国際舞台で研究・アイデアを英語で発表
- 海外の先進企業や大学と見学

グローバル・リンク・シンガポール（クイーンズランドもあります）



キャリア甲子園 2018
CAREER KOSHIEEN 2018

「答えのない問いを考える力」「社会でも生きる力」「社会への関心」を手に入れよう！

★ キャリア甲子園とは？ ★

キャリア甲子園は、株式会社マイナビが運営するMY FUTURE CAMPUS (MFC) が手がける高校生向けのビジネスアイデアコンテストです。2014年から始まり、今年で5回目を迎えます。複数の企業が「MY REVOLUTION!!」の大テーマのもとに、企業テーマを出題します。高校生は2〜4名のチームを組み、取り組みたい企業テーマにエントリー、書類審査やプレゼン動画審査を経て企業ごとの代表チームを選ばれ、決勝戦で総合優勝を決定します。

※ 優勝チームには100万円の海外研修ツアーが贈られます！

キャリア甲子園



サイエンスアイデアコンテスト

2019 つくば Science Edge

学ぶ楽しさ 創造する楽しさ

「つくばScience Edge」は、「未来の科学者」の芽を発掘し、育てる、新たな試みです。科学に関するアイデアを世界的レベルの研究者・科学者 앞에서プレゼンテーションし、その方々とディスカッションします。会場は、世界中の科学者による学会も開催される「つくば国際会議場」。

つくばサイエンスエッジ



2019年 8.6火 ▶ 8.8木

日本の高校生と世界の高校生が集う

2019年5月20日 申込受付開始

SDGs 高校生未来会議
～私たちの未来は始まっている～

開催地：国際リゾート都市 北海道ニセコ町

(会議会場)
・ヒルトンニセコビレッジ
・ニセコ町民センター
・旧でんぶんファクトリー
・有島記念館

持続可能な社会をつくるために世界各国が合意した17の目標を題材として、世界の高校生がそれらの内容理解を進め、グローバルな視点で意見を交わし議論を深めます。そして、共同して学んだことを自国・地域に持ち帰り、活動の中心となり活躍することを目的とします。

SDGs高校生未来会議

学校行事トータルデザイン

山陽学園中学校・高等学校

伝統 信頼 × 未来創造
Tradition & Creativity

教育目標
愛と奉仕

「愛と奉仕」の教育理念に基づき、調和のとれた教育活動によって人格を磨き、豊かな教養、品性、大志をもって社会に貢献する人材を育みます。

山陽学園中学校・高等学校の教育方針
実践的な英語力・確かな学力・リーダーシップ

- ◆習熟度に応じた授業、細やかなサポート、自学自習力の育成などにより、学力を伸ばします
- ◆ネイティブ専任教員による実践授業、海外研修など本物に学ぶことで、使える英語力を身につけます
- ◆体験的な学び、学校行事・部活動などを通して、集団の中で主体性を発揮できる力を養います

育成すべき人材像
自立・創造・貢献

- ◆人や社会との関わりの中で成長し、自ら進路を拓く“自立”した生徒
- ◆多様な価値観を尊重しながら、ものごとの本質を見極め、課題解決を図る“創造”志向の生徒
- ◆自他を敬愛する心で優れた国際感覚をもち、広い視野から社会に“貢献”する生徒

経路旅行が求められる5つの視点・価値

- ①リニューアル(新生) 共学へ
- ②「愛と奉仕」の精神
- ③ものごとの本質を見極める視点
- ④自立、新しい価値を創造する視点
- ⑤社会貢献の視点

JTBからのご提案

1. グローバルワークショップ(事前学習)の充実を提案致します。
2. SDGsカードゲームワークショップ
3. アウトプットの集まり 現地での発表会など
4. イングリッシュキャンプの提案
5. 共学中高一貫教育、行事のつながり提案

山陽学園中学校・高等学校

伝統 信頼 × 未来創造
Tradition & Creativity

	中学1学年	中学2学年	中学3学年	高校1学年	高校2学年	高校3学年
4月	JTBからのご提案 宿泊研修	JTBからのご提案 広島研修	JTBからのご提案 イングリッシュキャンプ2日間 (別途費用必要)	JTBからのご提案 新地旅行	JTBからのご提案	JTBからのご提案
5月						
6月		JTBグローバルワークショップ ① ・SDGsカードゲームワークショップ				
7月			JTBグローバルワークショップ ② ・訪問国を知る、グローバル講話			
8月			JTBグローバルワークショップ ③ ・ホームステイワークショップ			
9月			JTBグローバルワークショップ ④ ・コミュニケーション基礎力			
10月		JTBグローバルワークショップ ⑤ ・SDGsワークショップ 2&3				
11月			JTBグローバルワークショップ ⑥ ・異文化理解ワークショップ			
12月						
1月			JTBグローバルワークショップ ⑦ ・リスタマネージメントセミナー(生徒向け)			
2月			JTBグローバルワークショップ ⑧ ・MRP 事前 (別途費用必要)			
3月			オーストラリア海外修学旅行 JTBグローバルワークショップ ⑨ ・MRP 事後 (別途費用必要)			

高校のプログラムへ
 中学、高校、eポートフォリオ

SDGsワークショップ

SDGsを知りたいだけでなく、目標を立てるための提案や、「誰一人取り残さない」SDGsの理念の理解により、主体的達成・満足感を。

タイムマネージメント

旅行プログラム執行を一定の単位にすべく、事前事後の課題をツールでご提案。

「探究ノート」修学旅行でお勧め

旅行をとおしての調べ学習から探究的な学びの機会とするための生活学習教材。修学旅行だけではなく、校外学習や学校の場立での活動でも活用できます。

「CASプログラム」

自己分析や社会人との対話を通して、動機理由の中で最も大切にしたいことを考える

「Mindset & Reflection Program Step1」

海外経験を一生モノにするマインドと行動力を身につける(専用「円強」問題使用)

アウトプットの場づくり

可能性の発揮と、学校独自の授業の成果発表を融合させることで、他校にも関係になります。

教員向けセミナー開催



2019年
12月21日(土)
13:00~17:00 ※開場12:30

入場無料 ※予約制
※要旨よりお申込ください

大妻女子大学
千代田キャンパス 本館E棟3階

地下鉄半蔵門駅5番出口から 徒歩5分
JR市ヶ谷駅から 徒歩10分

おかげさまで、学校ソリューションセミナーも、第10回目の開催となりました。

今回は、教育未来予想図「探究とSDGsと学校改革」と題して、探究や課題研究について岡本尚也氏より、また、SDGsを授業に取り入れた最新事例を山本崇雄氏より、ご講演いただきます。

さらに、第3部のパネルディスカッションでは、(株)ワーク・ライフバランス社の田川拓磨氏を加え、未来の学校のあり方、これからの学校での学びはどうあるべきか?をテーマにディスカッションさせていただきます。

今後の学校経営や教育実践の場でお役にいただければ幸いです。

どうぞ奮ってご参加ください。

学校ソリューションセミナー2019

教育未来予想図

探究とSDGsと学校改革

講演1部



探究的な学びにつながる指導体制づくり

一般社団法人 Global Academy 代表理事 **岡本 尚也氏**

2008年慶応義塾大学大学院 理工学研究科 修士課程修了。ケンブリッジ大学にて物理学修士号、オックスフォード大学にて日本学修士号を取得。ケンブリッジ大学大学院の研究奨励員 Nature / Materials 両誌、世界トップジャーナルに論文が掲載される。著作物として「課題研究メソッド(西林彰)の他、「オックスフォードケンブリッジ英会話 創造と学びの技法(東洋経済オンライン)」等がある。

講演2部



行動できる自律型学習者を育てる教育デザイン～SDGsを通して、見たい、会いたい、行きたいを生み出す～

新潟戸文化小中学校・高等学校 英語科教師 **山本 崇雄氏**

東京都立中央一貫高等学校にて2019年度より副校長、埼玉県立中学校・高等学校教育アドバイザーの他、日本AP/プロジェクト研究所主任研究員、アルテラス Clear Community デザイナー、グロウ・アップ・アフォーナード 代表取締役など活動。2017年に新しい教育のあり方を提唱するプロジェクト「未来教育デザイン(Confetto)」を立ち上げ、企業特別賞 (NEW CROWN ENGLISH SERIES (三書堂)) の最優秀賞を授けられた。著書に「なぜ「教えない授業」が学力を伸ばすのか(日経BP社)」、「教えない授業」の始め方(アルク)」、「学校に頼らなければ学力は伸びる(産業未来学会出版)」ほか、監修書に「21世紀で活躍が求められるグローバル人材(ヨコヅナ)」シリーズがある。

講演3部 パネルディスカッション —未来の学校のあり方—



株式会社ワーク・ライフバランス **田川 拓磨氏**

ワーク・ライフ・バランスコンサルタント。岡山、静岡、埼玉等、200以上の学校、教育関係の企業で出張型企業、データ分析による戦略的な課題解決と実行力を強め、財務系企業・警察・監査法人・中央省庁・自治体など、特殊かつ長時間労働が日常化した組織へのコンサルティング・講演実績が豊富。有休取得率の向上・残業時間削減が20%削減する成果をいくつも出し続けている。



フアンリテーター **本間 正人氏**

「教育学」を超える「学習学」の提唱者であり、「楽しくて、役に立つ」参加型研修の提唱者としてアフティ・ラーニングを25年以上実践し、「研修活動」を主導する。東京都立中央高等学校・副学長、NPO学習学協会代表理事、NPO/ローリーム実行委員会理事、東京大学文学部社会学科卒業、ミネソタ大学大学院修了(個人教育学 Ph.D.)、ミネソタ州政府賞獲得、私学政策研究奨励賞、NPO教育学会でシニアフェellowの職歴などを有。コーチングのポテンシャル開発研究、脳内回路などの書籍7冊。

▶ JTB教育プログラムの紹介ブースがございます。ぜひお立ち寄り下さい。◀

主催:株式会社JTB

先生向けセミナー

第2回 **参加無料 中高生・教職員向け**

感動のそばに、いつも。 **JTB**

SDGs 課題研究セミナー

テーマ

「課題研究における自分のテーマの深め方とその実践」
「目からウロコの探究型学習 ～“観光甲子園”が見る2030年～」

日時

2020年5月30日(土) 15:30～17:00

登壇者



一般社団法人 Global Academy 代表理事
兼 特別講師「課題研究メソッド」監修

岡本 尚也氏



株式会社「未来教育デザイン」代表取締役
「NEW CROWN ENGLISH SERIES」監修

江藤 誠晃氏

第3回 **参加無料 中高生・教職員向け**

感動のそばに、いつも。 **JTB**

SDGs 課題研究セミナー

テーマ

「課題研究のまとめと研究発表について」
「課題研究発表イベント「Global Link Queensland」とクイーンズランド州におけるSDGsの取り組み」
「AI Know」によるコンピテンシーの定量化～課題研究活動の効果と生徒の成長を可視化する方法」

日時

2020年6月27日(土) 15:00～17:00

登壇者



一般社団法人 Global Academy 代表理事
兼 特別講師「課題研究メソッド」監修

岡本 尚也氏

Global Link Queensland AUSTRALIA

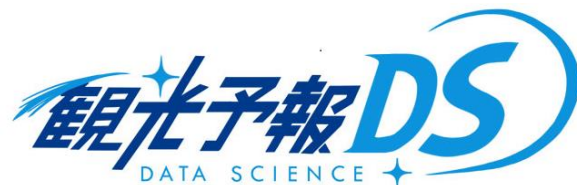
先生・生徒向けセミナー

ビッグデータに触れながら、考える力と表現する力を育む

観光予報DS (Data Science) アプリを活用したSTEAM&探究学習プログラム

未来探究ゼミナール

BASIC



Discover the Future ~探究しよう！私たちが描く未来を~

先の見通せない今こそ求められる「根拠に基づいて未来を描く力」

社会の仕組みや人との繋がりが大きく変わりつつある今だからこそ、身近な課題を自分ごととして向き合い、根拠に基づいて未来の新しいスタンダードを創り出す力を育てるプログラムです。

With the data!
With a dream!

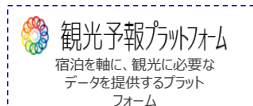


データから見つける、街や地域の課題
データとともに伝える、街や地域の夢

STEAM学習アプリケーション「観光予報DS」で観光、気象、産業など様々な分野のデータを複合的に分析しながら街や地域の課題を見つけ出し、根拠に基づく解決案を提案しましょう！

未来探究ゼミナールの概要

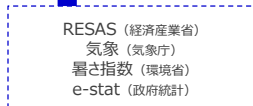
自分たちの課題解決アイデアに対して、根拠となるデータを示し、説明する力の育成を目指します。



有用なデータを集約



有用なデータを集約

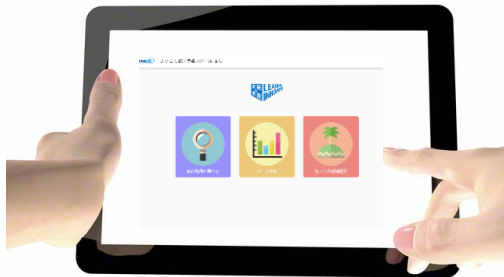


観光予報DSアプリを活用したSTEAM&探究学習プログラム
未来探究ゼミナール

- データや統計について学ぶ
- データを集め、街や地域を知る
- データを分析し、街や地域の課題を見つける
- その課題を解決できるアイデアを考える
- そのアイデアの効果を予測する
- まとめて発表する

- ・1人1台PC利用を前提とした学習プログラム
- ・学習活動案、ルーブリック、ワークシート、ICTリテラシー向上ハンドブック付き
- ・1コマ目はJTB社員による講座付き

根拠に基づいて
未来を描く力の
育成



©JTB Photo



©JTB Photo



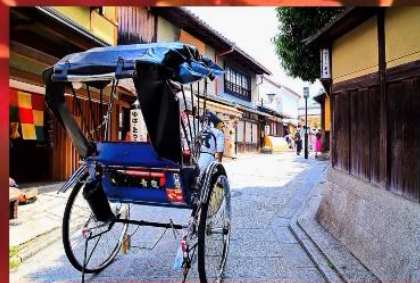
©JTB Photo



新感覚体験型旅行

バーチャル修学旅行360

～京都・奈良編～



バーチャル修学旅行360のプログラム構成

メインとなる360度VR映像体験に、オンラインでの伝統文化体験や交流体験をご希望に合わせて組みあわせてみます。
教室の中にいながら、まるで仲間と京都・奈良を訪れているかのような感覚を味わうことができるプログラムです。

1

360度VR映像体験



あなたも自分がそこにいる不思議な感覚を味わえるVR映像体験をメインに、修学旅行の様々なシーンをストーリーに乗せてお届けします。



2

伝統文化体験



京都風情あふれる舞妓鑑賞をはじめ、能や狂言などの伝統芸能講座、法話、伝統工芸体験など、修学旅行の人気メニューをオンラインでご提供します。



3

オンライン交流



バスガイドやタクシードライバー、旅館の女将など、現地の方々とオンラインで交流します。



4

その他オプション



ARで楽しむ旅のアルバムなど思い出づくりにふさわしいアイテムをご紹介します。

: VR映像

: 2D映像

: オンライン

: 講師派遣

: 授業コマ数

※伝統文化体験、オンライン交流、その他オプションは、必ず360度VR映像体験とセットでお申し込みください。



当協会の観光教育に関する取り組み

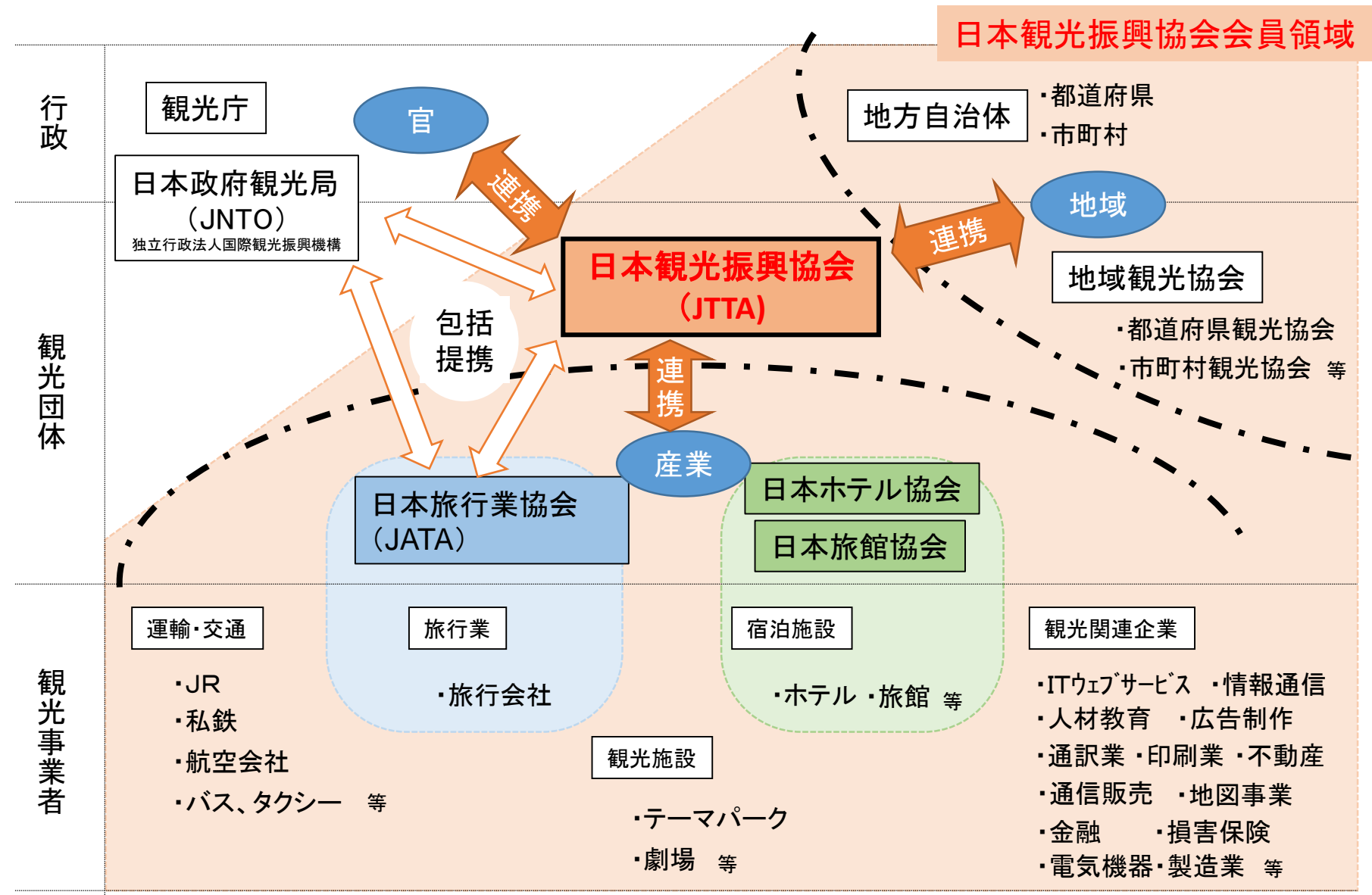
2020年 10月2日



公益社団法人 日本観光振興協会
JAPAN TRAVEL AND TOURISM ASSOCIATION

常務理事 中村 晃

協会と観光関係組織・団体との関係図



1. 観光教育副教材の作成

玉川大学 寺本先生、東洋大学 森下先生、JTB総合研究所 山崎部長、日本修学旅行協会 仲條部長を委員とする観光教育アドバイザリー会議を立ち上げて、小学校高学年から中学生を対象とし、将来的な観光事業に携わる人材の育成と、観光への理解促進を目指した観光教育の副教材を2018年度1.5万部作成、配布。2019年度5千部増刷。

2. 出前授業の実施

副教材を用いて地域の中での観光教育への活用とモデル事業の実施を図る。その一環として2019年3月に浅草中学校、2019年9月には秩父吉田小学校にて出前授業を実施。



観光教育副教材



秩父吉田小学校 出前授業の様子



秩父吉田小学校 意見交換の様子

① モデル授業の実施

観光教育に取り組む意向のある地域において、出前授業を実施。

② 副教材の改訂と手引書の発行

平成30年度に作成した初中等観光教育副教材を基にデータの更新を行い、SDGsやデジタル社会といった昨今のトレンドも加えた改訂版を発行。また、その手引書も作成。

③ 観光教育検討会の開催

引き続き、教育関係者・観光関係者からなる観光教育検討会を開催し、モデル授業の実施計画や実施結果、観光教育を取り巻く現況を情報共有、意見交換することで、観光教育を推進。

④ 地方での拡大

日本観光振興協会の地方支部を活用し、さらなる観光教育の普及の為にセミナー等を開催することを検討。

第1回初等中等教育における観光教育の推進に関する協議会（2020.10.2）発表資料

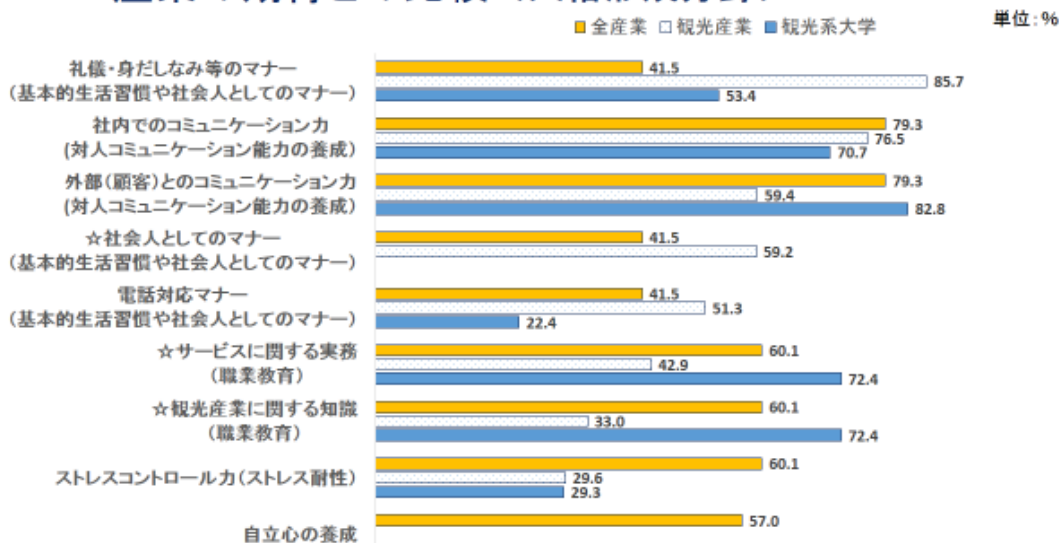
東洋大学国際観光学部
森下晶美

観光産業と大学教育のミスマッチ

初等中等教育からバトンを受け取った大学が社会との橋渡しをする役割を担うべき、一方で、産業界とのミスマッチも指摘されている。

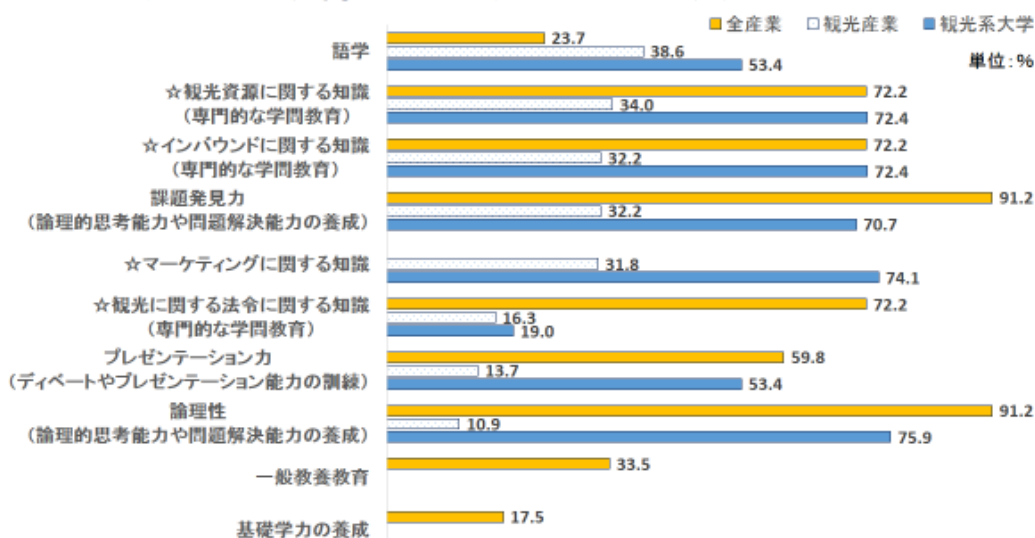
1. ミスマッチの現状

産業の期待との比較＜人格形成分野＞



資料：経済同友会「企業の採用と教育に関するアンケート調査」2016年などを元に作成

産業の期待との比較＜学問・教養分野＞



資料：経済同友会「企業の採用と教育に関するアンケート調査」2016年などを元に作成

2. 課題

観光産業の現状(課題)とこれから必要となる人材

課題

- 労働生産性の低さ
- 国際競争力の低さ
- イノベーションの遅れ、ビジネスモデル転換の遅れ
- マーケット変化への対応の遅れ
などなど。。。



既存のOJTモデルには限界
産業の現ニーズに沿った人材だけでは
観光産業は発展しない

必要となる人材

【ホスピタリティ系人材】

- サービス現場で高度な対応のできる人材
ホテル、CA(航空、クルーズ、鉄道) など

【企画系人材】

- ビジネスプランの立案、コーディネートのできる人材、
イノベーション、新規事業を起こせる人材



マーケティングから文化、自然まで
広い知識と教養が必要

旅行会社(企画・セールス)、鉄道、航空(企画・セールス)、公務員、地銀、DMO など

3. 対応策として

- 特に、企画系人材の育成には初等中等教育から観光教育が必要
- また、観光のプレーヤーが飛躍的に増加している今日、狭義の観光産業のみならず、「観光」をフックに、広い産業で活躍できる人材育成とその社会的認識が必要
- 初等中等教育の成果を活かし社会へつなげるための高大連携の再構築が必要
- 目的に応じた大学における観光教育の体系化が必要

参考文献

観光庁調査「観光人材育成に関する調査～企業編～」、平成 29(2017)年 2 月

観光庁調査「観光人材育成に関する調査～大学編～」、平成 29(2017)年 2 月

経済同友会「企業の採用と教育に関するアンケート調査」結果(2016 年調査)、2016 年 12 月 21 日